

【2024.2.1】

令和5年度

岩手県生涯学習推進研究発表会 資料

SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた  
社会教育の役割と課題に関する研究  
（1年次）

発表者

岩手県立生涯学習推進センター  
社会教育主事 齋藤 剛

# 目 次

<b>I 研究の概要</b>	
1 研究主題	1
2 研究目的	1
3 年次計画	1
<b>II 研究の内容</b>	
1 SDGs（持続可能な開発目標）とは	
（1）SDGs（持続可能な開発目標）の誕生までの歴史的背景	2
（2）2030アジェンダと「SDGs（持続可能な開発目標）」の概要について	5
（3）世界と日本の取り組みと現状	14
2 本県のSDGsの位置づけ	
（1）「いわて県民計画2019～2028」より	19
（2）県内各市町村の持続可能な社会づくりやSDGsに関する取り組みの現状	21
3 アンケート調査について	
（1）「SDGsに関連した取り組みの現状」に関するアンケート調査	24
（2）アンケートのまとめ	44
4 SDGsの実現に向けた社会教育の役割	46
<b>III 研究のまとめ</b>	
1 研究の成果	50
2 今後の課題	50
主な参考文献	51
<b>〔巻末資料Ⅰ〕 令和5年度「SDGsに関連した取組の現状」に関する調査票</b>	
・調査票A（県内社会教育関係者 対象）	52
・調査票B（県内各市町村生涯学習・社会教育主管部局 対象）	55
・調査票C（県内社会教育施設 対象）	59
<b>〔巻末資料Ⅱ〕</b>	
・資料1 国、県、市町村の総合計画等一覧	63
・資料2 各市町村、施設の事業を行っての成果	72
・資料3 各市町村、施設の事業を行っての課題・問題点	76

# I 研究の概要

## 1 研究主題

「SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた社会教育の役割と課題」

## 2 研究目的

今日、子育て・介護・雇用といった生活に身近な問題から地球環境・資源問題、平和問題などが複雑に重なり合った「持続可能な社会づくり」まで、解決すべき課題が山積している。

これらの課題解決のためには、経済・社会・環境の3つの側面から総合的に取り組むSDGs（持続可能な開発目標）の果たす役割がこれまで以上に重要になってくると考える。

国は、2016年5月に内閣総理大臣を本部長、全国務大臣を構成員とする「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置し、同年12月、国家戦略として『SDGs実施指針』が決定された。指針では、「政府が地方自治体を含むあらゆるステークホルダーと協力してSDGs推進に取り組むこと」、「地方自治体には各種計画等にSDGsの要素を最大限反映することを奨励する」としている。

また、2019年12月に国が策定した『第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略』においては、社会課題の解決と活力ある地域社会の維持を目指す「地方創生」とSDGsの親和性に着目し、SDGsを「地方創生の原動力」として明確に位置付けている。

これら国の示した政策を受け、本県においては、『いわて県民計画2019～2028』の基本理念「県民一人一人がお互いに支えながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指す、幸福を守り育てるための取組を進める」ため、10の政策分野を設定した。

SDGsは先進国も途上国も含む幅広い社会課題を網羅した目標で、地域の社会課題との高い整合性を有し、「誰一人取り残されない包摂的な社会をつくる」というSDGsの理念は、全住民の生活の質の向上に通じるものであるとし、本県は政策推進の基本方向に定めた10の施策を着実に実行することで、SDGs17の目標達成へ貢献していくとしている。

本県が社会教育事業を含めたさまざまな事業の実施において、人口減少や少子高齢化等の社会的課題を踏まえ「持続可能な社会づくり」を進めていくには、つながりや協働を生む基盤である生涯学習・社会教育によって、自由かつ多様な学びと問題の解決に向けた実践がつながっていくことが大切である。つながりが人々の希望を育み、さらには、他のコミュニティとつながっていくことで、社会・文化を変える力になると考える。また、自由な学びが大切にされることによって「岩手らしさ」が育まれるともいえるであろう。

以上のことを踏まえ、まずは県内各市町村社会教育におけるSDGsに関連した取り組みの現状を把握することを第一の目的とし、さらに、本県や全国におけるSDGsの実現に向けた先進的な取り組みについても分析・考察していくこととする。その上で、SDGsの実現に向けた社会教育の役割や、またその実現にあたっての課題について探っていくことにする。

## 3 年次計画

1年次 (令和5年度)	(1) 文献・資料等により、これまでのSDGsについての政策的動向を明らかにし、取り組むべき課題について整理する。 (2) 市町村生涯学習・社会教育主管部局等へのアンケート調査を行い、市町村のSDGsに関連した取組の実態等について分析・考察を行う。
2年次 (令和6年度)	(1) 本県や全国におけるSDGsの実現に向けた社会教育関連の取り組み事例について分析・考察する。 (2) 持続可能な地域社会を創っていくための社会教育の役割や課題について整理を試みる。

## II 研究の内容

### I SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015年、ニューヨークの国際連合（以下、国連）本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、すべての加盟国による全会一致で採択され、『Transforming Our World（我々の世界を変革する）：持続可能な開発のための2030アジェンダ<sup>※1</sup>』（以下、『2030アジェンダ』）の中で掲げられたのが、『持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）』（以下、SDGs）である。

2015年9月25日第70回国連総会で採択

### 我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ

#### 前文

このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するものでもある。我々は、極端な貧困を含む、あらゆる形態と側面の貧困を撲滅することが最大の地球規模の課題であり、持続可能な開発のための不可欠な必要条件であると認識する。

すべての国及びすべてのステークホルダー<sup>※2</sup>は、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱（レジリエント）な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることに決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、誰一人取り残さないことを誓う。

今日我々が発表する17の持続可能な開発のための目標（SDGsと、169のターゲットは、この新しく普遍的なアジェンダの規模と野心を示している。これらの目標とターゲットは、ミレニアム開発目標（MDGs）を基にして、ミレニアム開発目標が達成できなかったものを全うすることを目指すものである。これらは、すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女の子の能力強化を達成することを目指す。これらの目標及びターゲットは、統合され不可分のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである。これらの目標及びターゲットは、人類及び地球にとり極めて重要な分野で、向こう15年間にわたり、行動を促進するものになる。

#### 人間

我々は、あらゆる形態及び側面において貧困と飢餓に終止符を打ち、すべての人間が尊厳と平等の下に、そして健康な環境の下に、その持てる潜在能力を発揮することができることを確保することを決意する。

#### 地球

我々は、地球が現在及び将来の世代の需要を支えることができるように、持続可能な消費及び生産、天然資源の持続可能な管理並びに気候変動に関する緊急の行動をとることを含めて、地球を破壊から守ることを決意する。

#### 繁栄

我々は、すべての人間が豊かで満たされた生活を享受することができること、また、経済的、社会的及び技術的な進歩が自然との調和のうちに生じることを確保することを決意する。

#### 平和

我々は、恐怖及び暴力から自由であり、平和的、公正かつ包摂的な社会を育てていくことを決意する。平和なくしては持続可能な開発はあり得ず、持続可能な開発なくして平和もあり得ない。

#### パートナーシップ

我々は、強化された地球規模の連帯の精神に基づき、最も貧しく最も脆弱な人々の必要に特別の焦点をあて、全ての国、全てのステークホルダー及び全ての人の参加を得て、再活性化された「持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップ」を通じてこのアジェンダを実施するに必要とされる手段を動員することを決意する。

持続可能な開発目標の相互関連性及び統合された性質は、この新たなアジェンダ（以後「新アジェンダ」と呼称）の目的が実現されることを確保する上で極めて重要である。もし我々がこのアジェンダのすべての範囲にわたり自らの野心を実現することができれば、すべての人々の生活は大いに改善され、我々の世界はより良いものへと変革されるであろう。

(000101402.pdf(mofa.go.jp) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf> より抜粋 参照2023.4.23)

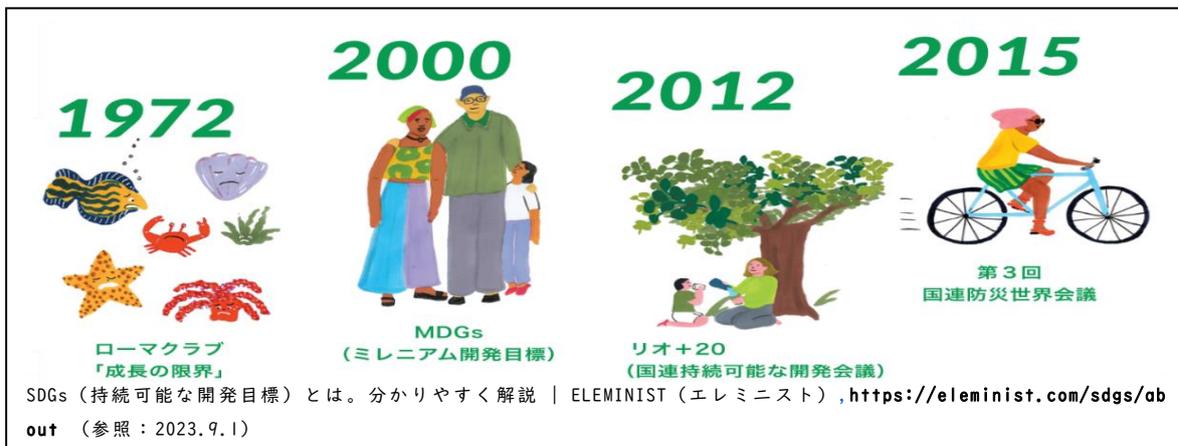
<sup>※1</sup> 「プラン・計画」の意味があるが、単なるスケジュールのことを指すというよりは、必ず実現するべき計画やプランに対して使われる

<sup>※2</sup> 利害関係者

## (1) SDGs (持続可能な開発目標) の誕生までの歴史的背景

SDGs誕生の背景には、技術の発明や経済発展による社会や環境の変化、戦争などをのりこえて人権尊重の考えが広まったことなど、さまざまな人びとの営みや歴史がある。

まずは、このSDGsができるまでの歴史的背景について見ていきたい。



### ア 「成長の限界」(1972年～)

第2次世界大戦後、世界各国は物質的な豊かさを経済成長の目標として発展し、「資源は無限である」という前提のもとに開発が進められてきた。しかし、1960年代から70年代にかけて飛躍的な経済成長を遂げた先進諸国で公害が大きな社会問題となり、さまざまな研究から「地球の資源は有限である」ということが明確になり、金銭的・物質的な豊かさを求める経済社会のあり方について、世界が意識するようになる。

1972年、国際的研究・提言機関であるローマ・クラブ<sup>※3</sup>が、「成長の限界」と題した報告書を発表。人類の未来について、「このまま人口増加や環境汚染などの傾向が続けば、資源の枯渇や環境の悪化により、100年以内に地球上の成長が限界に達する」と警鐘を鳴らした。「成長の限界」が公害問題や資源の有限性を明らかにしたことで、世界中で意識されるきっかけとなった。

### イ 「持続可能性」の概念の登場(1980年～2000年)

1980年に国際自然保護連合(IUCN)、国連環境計画(UNEP)等がとりまとめた『世界保全戦略』に、将来の世代の欲求を満たしながら、現在の世代の欲求も満足させるような開発を目的とした「持続可能な開発(SD:sustainable development)」が示された。

また、1987年、国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」が公表した報告書「Our Common Future(地球の未来を守るために／『ブルントラント報告書』)」で、「持続可能な開発」を「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」と定義し、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという認識が、世界各国で共有されるようになる。

当時の「持続可能性」の概念は、「環境保全」と「経済成長」を、互いに反するものではなく共存し得るものとされていた。これは、環境保全を考慮した節度ある開発が

<sup>※3</sup> 科学者、経済学者、教育者、経営者などで構成されたスイス法人の民間組織。産業の発展によって病み始めたこのかけがえのない地球で、はたして人類はわれわれの孫の世代まで生存できるのかといった危機感から、複雑に絡んだ「地球問題症候群」の分析に取り組む非政府系の研究団体

可能であり重要であるという考えに立つものである。

1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「国連環境開発会議（地球サミット）」では、持続可能な開発を実現するための行動計画である「アジェンダ21」が採択され、「持続可能性」という言葉が世界的に普及するきっかけとなり、環境問題に国際社会が連携して取り組む枠組みができあがる。

アジェンダ21は、第1部「社会的／経済的側面」、第2部「開発資源の保全と管理」、第3部「NGO、地方政府など主たるグループの役割の強化」、第4部「財源／技術などの実施手段」という、環境問題から人権問題まで幅広い分野をカバーする計4部で構成され、これにより、持続可能な成長実現への道のりが可視化され、多くの国が「持続可能な成長」の概念を理解し、実行することにつながった。

この会議で示された理念が、翌1993年に制定された日本の環境基本法でも第4条等において、「循環型社会」の考え方の基礎となっている。

さらに、人権や法の支配、腐敗<sup>※4</sup>防止の観点から、国際連合は1993年のウィーン宣言や2003年の国際連合腐敗防止条約（前文）においても「持続可能な開発」に言及している。

1997年、京都で第3回気候変動枠組み条約締約国会議（COP3）が開催され、温室効果ガス削減の具体的な目標が定められた「京都議定書」が採択され、地球温暖化対策の世界的な取り組みが進んだ。

そして、開発分野において、依然として人口増大が進む中で抜本的な解決を目指し、2000年、国連は国際開発目標を統合した「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）」をまとめた。

MDGsはSDGsの前身とされる国際目標であり、開発における国際社会共通の目標で、2015年までに達成すべき課題として、以下の8つの目標を掲げた。

- |  |
|--|
| <p>目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅<br/>目標2：初等教育の完全普及の達成<br/>目標3：ジェンダー平等推進と女性の地位向上<br/>目標4：乳幼児死亡率の削減<br/>目標5：妊産婦の健康の改善<br/>目標6：HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止<br/>目標7：環境の持続可能性確保<br/>目標8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進</p> |
|--|

15年間の取り組みの結果、世界全体で多くの成果が見られた一方で、国や地域によって目標の達成に差があること、さらには国内においても地域や性別、年齢などによる格差が生じており、MDGsの恩恵を受けられていない人々の存在が明らかとなった。

#### ウ グリーン経済への移行と防災体制の強化（2012年～2015年）

2012年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開催された。

この会議では、顕在化したエネルギー資源の有限性などの「地球の限界」や、今な

<sup>※4</sup> 汚職や贈収賄とほぼ同様の意味。企業が、公務員や民間企業に対し、事業上の便宜を図ってもらうこと等を目的として、金銭その他の賄賂を支払い、またはその申込み、約束等を行うこと。

お残る貧困の撲滅と持続可能な開発を図るため、経済・社会のあり方を見直す「グリーン経済への移行」などが議論された。

また、MDGsの成果についても議論され、各国は「アクション志向で簡潔、わかりやすく、かつグローバルな性質を有し、すべての国々に普遍的に適用できる主要な持続可能な開発目標」を設定することに合意した。MDGsで定めた目標は、SDGsの目標やターゲットとして継承されている。

SDGsの採択に先立ち、2015年3月、仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において、世界各国で防災体制を強化するための「仙台防災枠組2015-2030」が採択された。この中では、4つの優先行動として、「災害リスクの理解」、「災害リスク管理のための災害リスクガバナンスの強化」、「レジリエンスのための災害リスク軽減への投資」、「効果的な対応のための災害準備の強化と回復・復旧・復興に向けたより良い復興」が示されている。

仙台防災枠組は、気候変動に対応できる強靱で持続可能な社会を構築するという目標を有しており、国際的に連携していくことが重要とされている。

さらに2015年11月、もうひとつ重要な国際条約が結ばれている。「パリ協定」と呼ばれるこの条約は、国連気候変動枠組み条約、第21回締約国会議(COP21)で採択された、拘束力の高い国際条約である。

パリ協定では、主に2つの目標が定められた。1つは「世界の平均気温上昇を、産業革命前と比べて2℃より低く保ち、1.5℃に抑える努力をすること」と、もう1つは「今世紀後半に、世界全体の人為的温室効果ガス排出量を、人為的な吸収量の範囲に収めること」である。

なお、SDGsのアジェンダの欄外には、「気候変動枠組み条約(UNFCCC)※<sup>5</sup>が、気候変動への世界的な対応について交渉を行う最優先の国際的政府間対話の場であると認識している」という脚注が載っている。気候変動への取り組みは、SDGsにおいても重要とされていることがわかる。

## (2) 2030アジェンダと「SDGs(持続可能な開発目標)」の概要について

MDGs最終年の2015年、ニューヨークの国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、すべての加盟国による全会一致で採択され、『2030アジェンダ』の中で掲げられたのが、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」である。

2030アジェンダの構成
・ 前文
・ 宣言
・ 持続可能な開発目標(SDGs)とターゲット
・ 実施手段とグローバル・パートナーシップ
・ フォローアップとレビュー

『2030アジェンダ』の前文には「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である」とあり、すべての国やステークホルダーが、協同的なパートナーシップで実施することを求め、その達成目標を2030年としている。

SDGsは2030年までの開発の指針として、格差をなくす(=誰ひとり取り残さない)ことを重要な柱とし、MDGsの取り組みをさらに強化するとともに、新たに浮き彫りになった課題も加えられた包括的な目標であり、あらゆる貧困に終止符を打つことが地球規模の課題としている。

※<sup>5</sup> 1992年6月3日から6月14日まで、ブラジルの都市リオ・デ・ジャネイロにおいて開催された環境と開発に関する国際連合会議(UNCED)において、署名のために開放された地球温暖化問題に関する国際的な枠組みを設定した環境条約である。

MDGsは政府開発援助（ODA）など途上国の開発がメインで、取り組みの主体も国際機関や政府だったのに対し、SDGsは先進国も含む世界全体をターゲットにし、取り組みの主体も政府だけでなく、民間企業や個人まで広げた。これは世界中の国々が自国や世界の問題に取り組み、誰ひとり取り残さず、すべての人が尊厳を持って生きることができる世界の実現を目指しているということを意味している。

【図1】 MDGs と SDGs の違い

**【MDGs】**

途上国主体・国際機関などを重視

- ・ ミレニアム開発目標：2001～2015年
- ・ 8ゴール、21ターゲット
- ・ 途上国の目標
- ・ 国連の専門家主導で策定

**【SDGs】**

先進国も対象、企業の役割も重視

- ・ 持続可能な開発目標：2016～2030年
- ・ 17ゴール、169ターゲット
- ・ すべての国の目標（ユニバーサリティ）
- ・ 国連全加盟国で交渉

『SDGs 見るだけノート』（監修：笠谷 秀光）を基に筆者作成

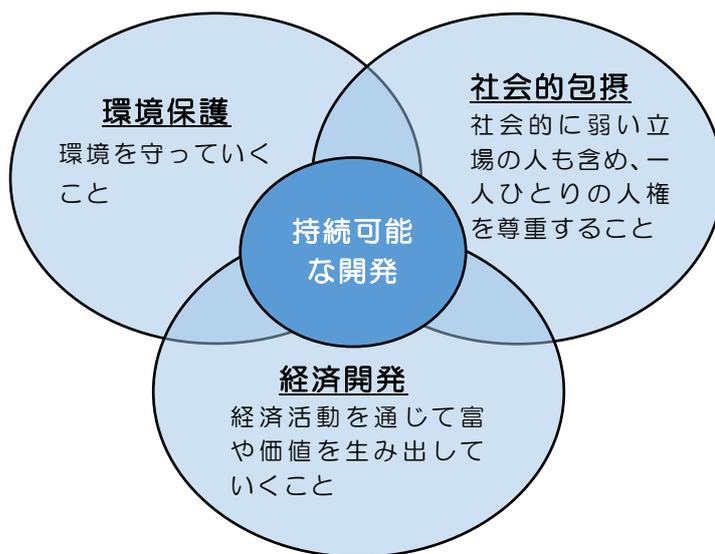
**ア SDGs 「3要素の調和」**

SDGsには、経済開発・環境保護・社会的包摂の3要素の調和が求められている。

これら3要素が調和した状態 [図2] を作り出すために「17の目標（ゴール）」と「169のターゲット（解決すべき課題）」、「232の指標（進捗状況や成果を測る指標）」から構成され、環境に負荷をかけずに人々の消費が支えられ、次世代のニーズを損なわない世界のために、すべての主体が取り組み、SDGsの目標達成を目指すのである。

地球規模の課題を考え、「持続可能な未来の発展」について語るための世界共通言語であり、世界に通用する「羅針盤」であり、経済・環境・社会の課題をカバーし、企業経営や地方創生に直結するものでもある。

【図2】 SDGs に求められる「3要素の調和」



出典：「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」持続可能な開発目標（SDGs）推進本部 を基に作成

## イ SDGs「5つのP」と17の目標

『2030アジェンダ』の前文において持続可能な開発のキーワードとして掲げられているのが「5つのP」[図3]である。

5つのPとは「PEOPLE（人間）」「PROSPERITY（豊かさ・繁栄）」「PLANET（地球）」「PEACE（平和）」「PARTNERSHIP（パートナーシップ）」のことで、SDGsの基本理念「誰一人取り残さない」が根底にある。

これらの実現がSDGsの達成に極めて重要であり、この5つのP実現が達成できれば、すべての人々の生活が大いに改善すると示されている。



そして、この「5つのP」を具体化したものがSDGs17の目標で、先述した「社会・経済・環境」の3要素の側面から定められた目標である。

人権、経済・社会、地球環境、さまざまな分野にまたがった課題が分類されており、2030年のあるべき姿を示している。

[表1] SDGs「5つのP」と17の目標

<b>People</b> (人間)	<p><b>貧しさを解決し、健康で人間らしい生活を</b></p> <p>すべての人が人間としての尊厳を持ち、平等で健康的な環境のもと、それぞれが持つ能力を十分に発揮できる世界の実現を目指す。貧困や飢餓の解決といった人間の基本的な人権に関わる目標1～6が該当する。</p>		<p><b>目標1 貧困をなくそう</b> <b>SDGs最大の目標</b></p> <p>◆世界のあらゆる場所のあらゆる貧困を終わらせる</p>
			<p><b>目標2 飢餓をゼロに</b></p> <p>◆飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>
			<p><b>目標3 すべての人に健康と福祉を</b></p> <p>◆あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>
			<p><b>目標4 質の高い教育をみんなに</b></p> <p>◆すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
			<p><b>目標5 ジェンダー平等を実現しよう</b></p> <p>◆ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p>
			<p><b>目標6 安全な水とトイレを世界中に</b></p> <p>◆すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>
<b>Prosperity</b> (豊かさ・繁栄)	<p><b>経済的にも精神的にも豊かで、どこにいても安心して暮らせる世界</b></p> <p>地球上のどこにいても、安心して心も体も豊かに暮らせるようにするためには国と国はもちろん、1つの国や地域の中での格差を減らさなくてはならない。世界がずっと経済を成長させていくのと同時に、豊かな自然環境を壊すことなく、技術的な進歩が続く世界が必要である。自然と調和した経済や社会、技術の進展に関わる目標7～11が該当する。</p>		<p><b>目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b></p> <p>◆すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>
			<p><b>目標8 働きがいも 経済成長も</b></p> <p>◆すべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する</p>
			<p><b>目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b></p> <p>◆強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>
			<p><b>目標10 人や国の不平等をなくそう</b></p> <p>◆各国内及び各国間の不平等を是正する</p>
			<p><b>目標11 住み続けられるまちづくりを</b></p> <p>◆包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>

Planet (地球)	<p><b>自然と共存して大切な地球を守りつづける</b></p> <p>限りある資源、失われる森や海、絶滅の危機にある動植物、自然災害を引き起こす地球の温暖化や気候変動。この先も地球に住み続けるためには、こうした様々な問題に今すぐ、世界全体で取り組まなくてはならない。大量生産・大量消費の社会から脱却して、将来にわたって自然から資源や食糧などの恵みを受けることができる世界を目指す。目標12～15が該当する。</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p><b>目標12 つくる責任 つかう責任</b></p> <p>◆持続可能な生産消費形態を確保する</p>	
	Peace (平和)	<p><b>争いのない平和を知ることから実現しよう</b></p> <p>世界平和、それはすべての人々の願いである。しかし、今も地球上のどこかで戦争や紛争、暴力、迫害などに苦しむ人たちが大勢いる。貧困や飢餓、人権侵害、環境破壊などを引き起こし、あらゆるゴールの達成を阻む紛争を無くし、平和で公正な世界を実現することを目指す。目標16が該当する。</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p><b>目標13 気候変動に具体的な対策を</b></p> <p>◆気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>
		<p><b>目標14 海の豊かさを守ろう</b></p> <p>◆持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	
		<p><b>目標15 陸の豊かさも守ろう</b></p> <p>◆陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	
Partnership (パートナーシップ)	<p><b>目標1～16を実現する資金と協力関係を生み出す</b></p> <p>グローバルな連帯の精神に基づき、最貧層と最弱者層のニーズを特に重視しながら、すべての国、すべてのステークホルダー、すべての人々の参加により、持続可能な開発に向けたグローバル・パートナーシップをさらに活性化し、このアジェンダの実施に必要な手段を動員する。</p> <p>世界に多く残された課題に対し、あらゆる人の参加と協力によって解決していくことを目指す。目標17が該当する。</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p><b>目標16 平和と公正をすべての人に</b></p> <p>◆持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>	
	<p><b>目標17 パートナーシップで目標を達成しよう</b></p> <p>◆持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 		

この17の目標は、それぞれが独立したものではなく、各目標の背景にある複雑な要因が、互いに深く関係し合っているものであり、他の目標を犠牲にした目標達成は評価されない。

しかし、ある目標達成に向かうとき、トレードオフ<sup>※6</sup>が発生することが多い。例えば、「目標1 貧困をなくそう」と「目標2 飢餓をゼロに」を達成するために森林を切り拓いて畑を増やすという行動をとれば、「目標15 陸の豊かさも守ろう」の持続可能な森林の経営の達成を遠ざけることになる。

SDGsを達成するためには、トレードオフの解消が必須となる。以下の3つの観点を持ち、それぞれが知恵を出し合って、SDGsの複数の目標の同時解決ができるような取り組みを行うことが重要である。

[SDGs トレードオフ解消の3つの観点]

- ・世界や社会のニーズに合わせた目標設定をすること
- ・外部の観点から必要な目標設定をすること
- ・実施する取り組み全体に「持続可能性」を組み込むこと

#### ウ SDGs「169のターゲット」

SDGsには、2030年までにあるべき姿として17の目標が掲げられているが、それぞれの目標には「より具体的な未来の理想像」として示された「ターゲット」が設定されている。各目標に10前後、合計169のターゲットが設定されている。

[図4]の目標1のターゲットを例に見ると、ターゲットには数字だけのもの(1.1)と数字とアルファベット(1.a)で表記されるものと2つの種類がある。

1.1のように数字だけのものは「目標の中身に関する」項目で、より具体的な目標が示されている。一方、1.aのように数字とアルファベットで表記されているものは「ターゲットを実施する手段」を示したものとなっている。

ターゲットは、世界的な視点で設定されているため、それぞれの国や地域の実情に合わせて、最適な内容に対応させることができる。日本では内閣府が「地方創生SDGsローカル指標リスト<sup>※7</sup>」というものを作成している。

ターゲットを見ることにより、17の目標が目指している姿が具体的にになり、「目指す姿」を理解した上で、さらにターゲットを、住んでいる地域や自分の身近な課題に置き換えることが重要とされている。

<sup>※6</sup> トレードオフ：何かを得る際に、何かを犠牲にすること

<sup>※7</sup> 詳細は [sdgs\\_shihyou\\_risuto\\_2.pdf \(chisou.go.jp\)](#) を参照

[図4] ターゲットの一例 (目標1 貧困をなくそう)

- 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。
- 1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、全ての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性 (レジリエンス) を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。
  - 1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
  - 1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

JAPAN SDGs Action Platform | 外務省 (mofa.go.jp) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html> を基に作成 (2023.4.23)

## エ SDGs「232のグローバル指標」

SDGs17の目標と169のターゲットの目標の達成に向けて「グローバル指標」[図5]が設定されている。指標は延べ244あり、重複しているものを除くと232になる。

先述したターゲットには、1.2のように「～半減させる」という具体的な目標もあれば、1.3のように「～十分な保護を達成する」という漠然としたものも含まれているため、ターゲットをより詳細に具体的な数値で示したグローバル指標を設定したのである。

抽象的な目標を達成するために具体的で細分化されたターゲットがあり、そのターゲットの達成度や成果をグローバル指標によって数値化できるので、目標の進捗状況を測ることができる。

このグローバル指標も、ターゲット同様、それぞれの国や地域の実情に合わせて、最適な内容に対応させることができる。

例えば、[図5]の「指標1.5.1」で「10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数」が設定されているが、これを日本では「消防庁『災害年報』における死者、行方不明者、負傷者の合計数を、直近の人口データ (国勢調査) で割った数値」と設定している。

[図5] グローバル指標の一例（目標1 貧困をなくそう）※太字の部分がグローバル指標

1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。

**指標1.1.1 国際的な貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢、雇用形態、地理的ロケーション（都市/地方）別）**

1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

**指標1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢別）**

**指標1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合（全年齢）**

1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。

**指標1.3.1 社会保障制度によって保護されている人口の割合（性別、子供、失業者、年配者、障害者、妊婦、新生児、労務災害被害者、貧困層、脆弱層別）**

1.4 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、全ての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。

**指標1.4.1 基礎的サービスにアクセスできる世帯に住んでいる人口の割合**

**指標1.4.2 (a) 土地に対し、法律上認められた書類により、安全な所有権を有している全成人の割合（性別、保有の種類別）**

**(b) 土地の権利が安全であると認識している全成人の割合（性別、保有の種類別）**

1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。

**指標1.5.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数**

**指標1.5.2 グローバルGDPに関する災害による直接的経済損失**

**指標1.5.3 仙台防災枠組み2015-2030に沿った国家レベルの防災戦略を採択し実行している国の数**

**指標1.5.4 国家防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合**

1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。

**指標1.a.1 貧困削減に焦点を当てた、すべてのドナーからの政府開発援助（ODA）贈与合計（受益国の国民総所得に占める割合）**

**指標1.a.2 総政府支出額に占める、必要不可欠なサービス（教育、健康、及び社会的な保護）への政府支出総額の割合**

1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

**指標1.b.1 貧困層のための公共社会支出**

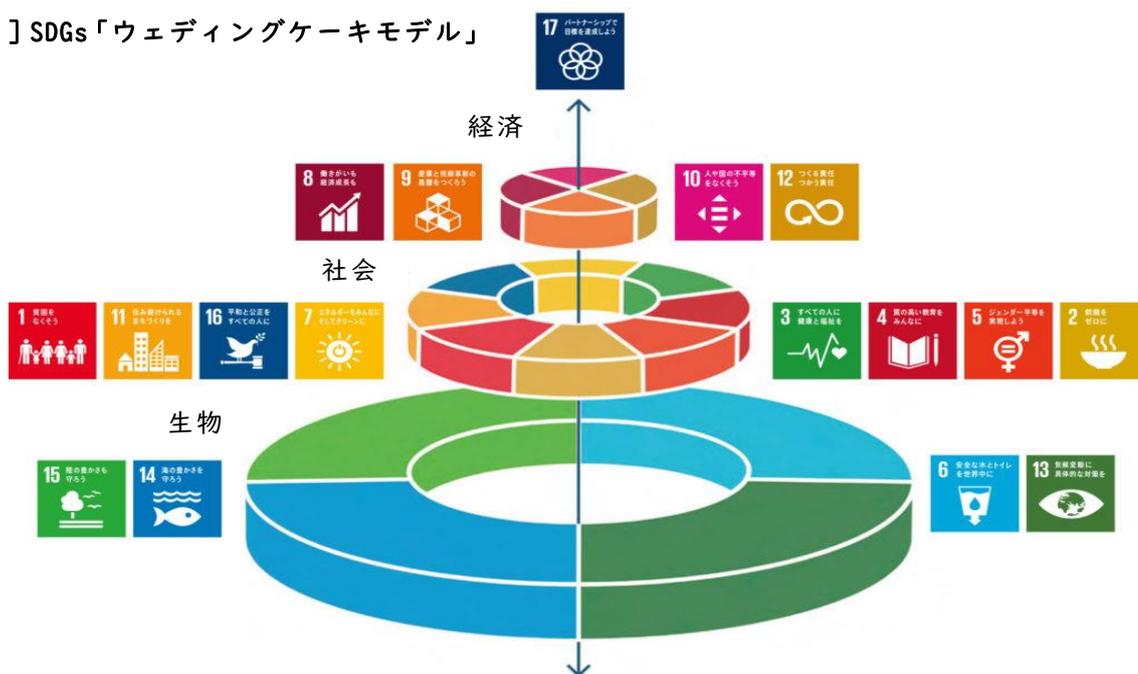
## オ SDGs「ウェディングケーキモデル」

スウェーデンの環境学者J・ロックストローム博士とインドの環境経済学者P・スクデフ博士によって示されたのが「SDGsウェディングケーキモデル」[図6]である。

このモデルは、SDGsの3要素の一つである「環境保護」の重要性を表したもので、「目標17 パートナーシップで目標を達成しよう」を頂点とし、経済圏・社会圏・生物圏の3つの階層によって構成される。

「経済」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会」は最下層の「生物圏」、つまりは人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられていることを表している。

【図6】SDGs「ウェディングケーキモデル」



### 【頂点】 目標17

目標17は、国や企業をはじめとした全世界の人々がパートナーシップを組むことで、持続可能な社会を作り上げることを目標にしている。そして、目標17を達成するためにも、「経済圏」「社会圏」「生物圏」それぞれの層における役割を世界中の国や人々が理解し、目標達成に向けて一歩ずつ活動していかなければならない。

### 【第1層】(上位層) 目標8・9・10・12

「経済圏」では、社会で働く人々の“働きやすさ”や、人や国に対する差別や偏見をなくすことで、国や世界の経済発展につながるとしている。

そのためには、「生物圏」「社会圏」のそれぞれの目標を達成することが必要不可欠であり、経済の発展は環境と社会の上に成り立つことで実現が可能になる。

### 【第2層】(中間層) 目標1・2・3・4・5・7・11・16

「生物圏」によって私たちが暮らす生活環境が整ったとしても、“健康問題”、“差別・偏見”、“教育環境”といった、生活基盤に必要な社会環境が整わなければ持続可能な社会の実現・維持は不可能。

「社会圏」に含まれるそれぞれ目標を達成することで、持続可能な社会に必要な「経済圏」の基盤を作り上げることに繋がる。

### 【第3層】(最下層) 目標6・13・14・15

昨今では、数十年前とは比べ物にならないほどに世界中の国や技術が発展・成長を続けている。しかしそれらは、“自然環境”が土台になることによって生み出されていて、「社会」と「経済」は「環境」無くしては成り立たない。

持続可能な「社会圏」「経済圏」を支えるためにも、その土台となる「生物圏」のそれぞれの目標を達成しなければならない。

### (3) 世界と日本の取り組みと現状

#### ア 国連の取り組み

世界各国や国際機関の中でも、SDGsの達成に向けた取り組みは数多く推進されている。SDGsの採択の要となった国連では、全ての国連機関が活動を推進しているが、そのなかでも国連開発計画（UNDP）<sup>※8</sup>が主要で動いている。さまざまな動きをしているなかで、企業への影響を発揮しているのが「国連グローバル・コンパクト」である。これは、参加する企業や団体がそれぞれリーダーシップを責任と創造性を持って発揮することで、実現可能な成長に近づく取り組みである。

さらに2018年には各国の主要な報道機関にも参画を呼びかけて「SDGメディア・コンパクト<sup>※9</sup>」を設立した。参加メディアには、SDGsに関する話題が挙げられるほか、国連から優先的に情報提供が行われた。参加メディアから得られる情報は、SDGsの目標の達成に向けてわたしたちの知識を深め、対話を促し、社会課題解決の行動を起こす手助けになることが期待されている。なお、このコンパクトには、世界から参加している約180社のうち、80社以上が日本からの参加であった（2021年5月時点）。

また、国連の機関は、各管轄が管轄分野に関わるデータを出している。例えば、国際労働機関（ILO）は世界の雇用や労働環境など、国際連合児童基金（UNICEF）は子どもの健康や学習など、国連世界食糧計画（WFP）<sup>※10</sup>は世界の食料問題などにかかわる統計を扱っている。こうした情報は、わたしたちが住むこの世界全体について知る手がかりになる。わたしたち一人ひとりがいち消費者の視点から国連の情報を逐一見ること、SDGsに挙げられるような課題に対する行動のとり方が見えるようになる。

#### イ 世界が直面している問題と各国の達成度

2023年に出された報告書は、「SDGsは強い逆風にさらされている」と達成に向けて強い危機感を示している。コロナ禍の影響もあって世界全体のSDGs達成度は2022年時点で67%弱にとどまっており、「17の目標を個別にみても、世界レベルで達成できると予測されるものは一つもない」と指摘している。

米コロンビア大学教授のジェフリー・サックス<sup>※11</sup>氏は、報告書の公表に合わせてコメントを発表し、「2030年までの中間点で、SDGsは著しく軌道を外れ、貧しく非常に脆弱な国々がもっとも苦しんでいる」と述べた。

一方で、報告書は「SDGsはまだ達成可能だ」とも強調している。そのためには、官と民の両方がそれぞれ関与するかたちでの大胆な投資が必要だとしている。

※8 UNDP：貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関（国際連合広報センターより）

※9 世界中の報道機関とエンターテインメント企業に対し、その資源と創造的才能をSDGs達成のために活用するよう促すことを目的として設立

※10 飢餓のない世界を目指して活動する国連の食糧支援機関

※11 米コロンビア大教授。開発経済学が専門。同大・地球研究所所長も務める。ミレニアム開発目標（MDGs）を達成するためにニューヨークで設立されたNPO「ミレニアムプロミス」（MP）の代表および共同創設者。MPJの顧問でもある。（ジェフリー・サックス氏と語るSDGs：MPJ10周年記念 朝日SDGsフォーラム：START! -基礎から学ぶ、マネー&ライフ-：朝日新聞デジタル（asahi.com）  
<https://www.asahi.com/ads/start/articles/00069/>より）

## ウ 世界のSDGs達成度ランキング

ジェフリー・サックス氏が代表を務めるSDSN<sup>\*12</sup>は、2016年から毎年、世界のSDGs達成度ランキングを発表している。国連や研究機関などの統計資料をもとに、各国のSDGsの取り組みを100点満点で点数化したSDGs達成度を公表し、ランキングにしている。

2023年版のランキング1位はフィンランド（3年連続）。2位がスウェーデン、3位がデンマーク、4位がドイツ、5位がオーストリアとなっている。20位までは欧州の国々が占め、日本は21位で、欧州以外の国のなかではトップに位置している。アメリカは39位、中国は63位であり、ランキングを見てみると経済規模の大小と順位には相関関係がないことがわかる。

また、ランキング上位の国でも、17のすべての目標の達成に向けて順調に進んでいる国はなく、地球全体に与える影響力の大きい先進国の社会的責任が問われている。なかでも「目標13 気候変動」「目標14 海の豊かさ」「目標15 陸の豊かさ」に関しては、喫緊の課題であるだけでなく大国の影響が大きいので、取り組みを加速する必要があると指摘されている。

## エ 日本の取り組みと達成度

2016年12月22日に日本政府が決定した「SDGs実施指針」において、「普遍性」「包摂性」「参画型」「統合性」「透明性と説明責任」からなる5つの主要原則を定めた。

これらは2030アジェンダの理念から導き出されており、優先課題や分野に関わらず、SDGsに取り組む際に守るべき原則として位置づけられている。

「SDGs実施指針」は、日本の中長期的な国家戦略として位置づけられている。その指針の中で、注力すべき取り組みの柱として8つの優先課題を掲げている。

これらの課題は、前述した「5つのP」に基づいて制定されたものであり、それぞれ日本の社会的課題を反映したものとなっている。

### [SDGsの5つの主要原則]

- |   |
|---|
| ・ 普遍性：国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む                     |
| ・ 包摂性：人権の尊重とジェンダー平等の実現を目指し、脆弱な立場の人々まで、誰一人取り残さない |
| ・ 参画型：あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視し、全員参加型で取り組む        |
| ・ 統合性：経済・社会・環境の3分野の統合的開発の視点を持って取り組む             |
| ・ 透明性と説明責任：取り組み状況を定期的に評価、公表する                   |

### [8つの優先課題]

People (人間)	・ あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現 ・ 健康・長寿の達成
Prosperity (豊かさ・繁栄)	・ 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション ・ 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
Planet (地球)	・ 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会 ・ 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
Peace (平和)	・ 平和と安全・安心社会の実現
Partnership (パートナーシップ)	・ SDGs 実施推進の体制と手段

<sup>\*12</sup> 持続可能な開発ソリューションネットワーク。持続可能な社会を実現するため、学術機関や企業、市民団体をはじめとするステークホルダー連携のもと解決策を見出すとともに協働して実践していくことを目的としている世界規模のネットワーク

[各省庁の主な取り組み]

内閣府	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来都市構想・広域連携SDGsモデル事業</li> <li>・ 地方創生SDGs国際フォーラムの開催</li> </ul>
金融庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融経済教育の推進、資産運用業の高度化</li> <li>・ 新興国との技術協力・人材交流</li> </ul>
消費者庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者の安全確保</li> <li>・ 消費者が主役となって選択・行動できる社会の形成</li> <li>・ 国や地方の消費者行政の体制整備</li> </ul>
法務省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犯罪や非行をした者の再犯防止</li> <li>・ 外国人との共生社会の実現に向けた環境整備</li> </ul>
総務省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsグローバル指標の公表</li> </ul>
文部科学省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進</li> </ul>
経済産業省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康経営の推進・燃料供給網の強靱化</li> </ul>
環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラスチック・スマートシンポジウム2030の開催</li> <li>・ 持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイドの作成</li> </ul>
防衛省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性職員の活躍推進のための取り組み</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組み</li> <li>・ 気候変動に対する取り組み</li> </ul>

2016年に内閣は「SDGs推進本部」を設置し、毎年2回政策会議を実施するとともに、目標達成に向けた政策を取りまとめた「SDGsアクションプラン」を発行している。

これまでに何度か改訂され、最新版は「SDGsアクションプラン2023」となっている。

## 「SDGsアクションプラン2023」の重点事項

### People（人間）：多様性ある包摂社会の実現とウィズ・コロナの下での取組

- ・「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022」等に基づき、あらゆる分野での女性の活躍を推進。
- ・子供の貧困対策や持続可能な開発のための教育（ESD）を推進し、次世代の更なる取組を喚起するなど、人への投資を行う。
- ・「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」等に基づき、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備を一層推進。
- ・グローバルヘルス戦略に基づき、パンデミックを含む公衆衛生危機に対するPPR<sup>※13</sup>（予防・備え・対応）を強化。
- ・より強靱、より公平、より持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）<sup>※14</sup>の達成に向けた取組推進。

### Prosperity（豊かさ・繁栄）：成長と分配の好循環

- ・「デジタル田園都市国家構想」の実現を通じ、地域の個性を活かしながら、地方を活性化し、持続可能な経済社会の実現に取り組む。
- ・国内外の社会課題解決やイノベーションを促すため、日本企業と海外スタートアップ等とのオープンイノベーションを推進。
- ・これまで進めてきた「SDGs未来都市」に加え、新たに複数の地方公共団体が連携して実施する脱炭素化やデジタル化に関する取組に対しても支援を行うことで、地方におけるSDGs達成に向けた取組を加速する。
- ・「熊本水イニシアティブ<sup>※15</sup>」に基づき、気候変動適応策・緩和策を両立するハイブリッド技術を活用した「質の高いインフラ」整備の取組推進。

### Planet（地球）：人類の未来への貢献

- ・経済・社会・産業の大変革である、GX推進のためのロードマップの検討を加速化。成長志向型カーボンプライシング、規制制度一体型の大胆な資金支援、トランジション・ファイナンス、アジア・ゼロエミッション共同体構想などの政策イニシアティブを具体化。
- ・地域脱炭素の推進のための交付金等を通じ、2050年を待つことなく前倒してカーボンニュートラル達成を実現する脱炭素先行地域を2030年度までに少なくとも100か所創出する。
- ・食品ロス量を2030年までに489万トンまで低減することを目標に、持続可能な生産・消費を促進

### Peace 平和：普遍的価値の遵守

- ・TICAD<sup>※16</sup>プロセスを通じ、アフリカにおけるSDGs各ゴールに関連する取組のモニタリングやフォローアップを実施。
- ・子どもに対する暴力を撤廃するため、地方公共団体におけるいじめ問題等への対応を支援するとともに、グローバルな取組にも参画。
- ・総合法律支援の充実や日本法令の外国語訳等により、国際取引の円滑化や外国人を含む全ての人の司法アクセスの確保を図る。

### Partnership パートナーシップ：官民連携・国際連携の強化

- ・2023年の「SDGs実施指針」改定のプロセスも含め、SDGs推進円卓会議を中心に、国内外のあらゆる関係者との連携を促進・強化。また、SDGグローバル指標に関する情報を発信。
- ・ODAの一層の戦略的活用を図る観点から2023年前半を目処に開発協力大綱を改定。
- ・SDGサミットや持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）、日メコンSDGsフォーラム等の議論に積極的に貢献。

（引用：首相官邸ホームページ より）

また、SDGsの達成に積極的に取り組む都市を「SDGs未来都市」として選定し、2024年末までに210都市を選定するとしている。

先述した「SDGs実施指針」に掲げられた8つの優先課題の1つに「地域活性化」がある。「SDGs未来都市」の選出は、この地域の活性化を図るもので、地域課題を解決し

<sup>※13</sup> pandemic prevention, preparedness, and response の略。感染症のパンデミック予防・準備・対応

<sup>※14</sup> 「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ことを意味し、すべての人が経済的な困難を伴うことなく保健医療サービスを受容することを目指す

<sup>※15</sup> 第4回アジア・太平洋水サミットにおいて、日本が「我が国は、アジア太平洋地域における水を巡る社会課題に対し、官民協働により、デジタル化やイノベーションを活用して、社会課題の解決を成長エンジンとし、持続可能な発展と強靱な社会経済の形成につなげていく新しい資本主義に基づき、我が国の先進技術を活用した質の高いインフラ整備等を通じて、積極的に貢献する」と宣言。（引用元・詳細：<D6963726F736F667420506F776572506F696E74202D08179835A8362836794C5817A8C9F93A289EF82C682E882D0C82C682DF8CF6955C94C5816993FA816A>（un.org）[https://uncrd.un.org/sites/uncrd.un.org/files/20230612\\_sympto\\_unwater\\_4tokio\\_ka\\_ja.pdf](https://uncrd.un.org/sites/uncrd.un.org/files/20230612_sympto_unwater_4tokio_ka_ja.pdf)）

<sup>※16</sup> 日本が主催するアフリカ開発に関する東京国際会議（Tokyo International Conference on African Development）

住民のウェルビーイング(Well-being)<sup>※17</sup>を高める取り組みとして注目されている。

なお、岩手県内ではSDGs未来都市に陸前高田市(2019年)、岩手町(2020年)、一関市(2021年)が選出されている。

こうしたSDGs達成の取り組みは着実に実を結び始めており、2023年における日本のSDGsの達成度は166カ国中21位、アジアではトップの達成度となっている。

評価の内訳は、「目標4:質の高い教育をみんなに」「目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう」に関しては高い達成度を示している。

一方、「目標5:ジェンダー平等を実現しよう」「目標12:つくる責任、つかう責任」「目標13.気候変動に具体的な対策を」「目標14:海の豊かさを守ろう」「目標15:陸の豊かさも守ろう」に関しては、深刻な課題があるとされている。

【表2】日本のSDGs達成度評価一覧(2023年)

※↑:達成の軌道に乗っている、↗:適度に改善中、→:停滞している、↓:減少している、—:データなし

評価	目標	評価項目
評価4 SDGs達成	目標4 質の高い教育をみんなに	↑・識字率100% →・PISAスコア、科学の成績不振者に課題
	目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう	→・インターネット利用者数
評価3 課題は残る	目標1 貧困をなくそう	—・税および移動後の窮乏率
	目標3 すべての人に健康と福祉を	→・収入による自己申告による健康状態のギャップ
	目標6 安全な水とトイレを世界中に	→・基本的な衛生サービスを利用している人口
	目標11 住み続けられるまちづくりを	→・公共交通機関の満足度 ↓・家賃の過重負担人口
	目標16 平和と公正をすべての人に	↓・報道の自由度に課題 →・行政手続の適時性
評価2 重大な課題	目標2 飢餓をゼロに	↓・持続可能な窒素管理指数 →・肥満の有病率
	目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	→・一次エネルギーに占める再生可能エネルギーの比率
	目標8 働きがいも経済成長も	—・経済成長率がマイナスになった →・労働基準法が実効的に保障されている
	目標10 人や国の不平等をなくそう	—
	目標17 パートナリシップで目標を達成しよう	↗・国民総所得比の政府の途上国援助の数値が上昇 ↓・財務秘密スコア
評価1 深刻な課題	目標5 ジェンダー平等を実現しよう	→・議会での女性議員の割合 ↗・男女の賃金の差
	目標12 つくる責任 つかう責任	—・電子廃棄物 ↑・プラスチック廃棄物の輸出
	目標13 気候変動に具体的な対策を	→・化石燃料の燃焼とセメント製造によるCO <sub>2</sub> の排出 ↗・輸入を通じたCO <sub>2</sub> 排出 →・炭素価格
	目標14 海の豊かさを守ろう	↗・海洋汚染の防止 ↓・過剰な漁獲による水産資源の破壊 —・輸入を通じての海洋生態系への負荷
	目標15 陸の豊かさも守ろう	→・生物多様性が保護されている淡水域の面積の割合 ↓・絶滅危惧種の生存指数 —・輸入を通じた陸上と淡水域の生物多様性への負荷

【2023年SDGs達成度ランキング】日本は21位に転落!5目標に「深刻な課題あり」(miraii.jp) <https://miraii.jp/sdgs-59> / 【2023年】世界のSDGsランキングから見る日本の現状 上位国の取り組み事例も紹介 | THE OWNER (the-owner.jp) <https://the-owner.jp/archives/11245> を基に作成

※17 Well(よい)とBeing(状態)が組み合わさった言葉で、心身ともに満たされた状態を表す概念

## 2 本県のSDGsの位置づけ

### (1) 「いわて県民計画2019～2028」より

岩手県におけるSDGsの位置づけについて、「いわて県民計画2019～2028」（以下、県民計画）から見ていきたい。

県民計画の第1章の中で、「計画の理念」と「幸福と持続可能性」について次のように述べている。

#### いわて県民計画の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、  
引き続き復興に取り組みながら、  
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

#### 第1章 理念

##### 3 計画の理念

- ・ この計画では、「いわて県民計画」の成果を引き継ぎつつ、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めていきます。
- ・ そのためには、県はもとより、県民、企業、NPO、市町村など、地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持って、共に支え合いながら、地方の暮らしや仕事など、岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくことが大切です。
- ・ また、社会的に弱い立場にある方々が、地域や職場、家庭などでのつながりが薄れることによって孤立することのないように社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の観点に立った取組を進めることも重要です。

##### 4 幸福と持続可能性

- ・ 社会が持続的に発展していくためには、次世代にも幸福を引き継いでいけるよう、自然環境、エネルギー、社会資本（インフラ）、社会制度などを将来にわたって持続可能なものとしていくことが必須です。
- ・ 平成27年（2015年）に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には、2016年から2030年までの間に、発展途上国のみならず先進国も取り組む国際目標として、「持続可能な開発目標（SDGs）」が盛り込まれています。  
この「持続可能な開発目標（SDGs）」は、「誰一人として取り残さない」の理念のもと、経済・社会・環境の課題を統合的に解決することを目指すものです。
- ・ こうした「誰一人として取り残さない」という理念や持続可能な開発目標は、幸福を守り育てようとする考え方に相通じるものであり、幸福を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会とする取組を岩手県から広げていく必要があります。

「いわて県民計画2019～2028」P20～21より抜粋

県民計画は、行政だけでなく、多様な主体と岩手県の将来像を共有し、各主体が自ら取組を進めるためのビジョンとして位置づけている。

また、物質的な豊かさに加え、心の豊かさや、地域の人々のつながりを大切にし、一人ひとりの幸福度を高める社会づくりを進めるという考え方を背景に、「幸福」をキーワードとした政策が進められている。

岩手県は、東日本大震災からの復興にあたり「被災者一人ひとりの幸福追求権を保障する」ことを原則の一つに、被災地の人々の暮らしや仕事を起点に復興に取り組んできたが、復興の過程で培われた一人ひとりの幸福を守り育てる姿勢を、復興だけでなく、県政全般に広げ、岩手県の抱える様々な課題の解決に向けて、県民みんなで行っていくものとしている。

県民計画で示されている10の政策とSDGs17の目標の関連は、以下の〔図7〕のとおりである。

〔図7〕【いわて県民計画 10の政策分野とSDGs17の目標】

<p>第5章 政策推進の基本方向</p> <p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p> <p>(※目標17は全分野共通)</p>	<p>10の政策分野</p>
	<p>①健康・余暇 【目標】 1、2、3、11</p> 
	<p>②家族・子育て 【目標】 1、2、3、4、5、8</p> 
	<p>③教育 【目標】 4、10</p> 
	<p>④居住環境・コミュニティ 【目標】 6、11</p> 
	<p>⑤安全 【目標】 3、11、13</p> 
	<p>⑥仕事・収入 【目標】 2、4、8、9、10、11、12、14、15</p> 
	<p>⑦歴史・文化 【目標】 4、11</p> 
	<p>⑧自然環境 【目標】 2、6、7、11、12、13、14、15</p> 
	<p>⑨社会基盤 【目標】 6、7、8、9、11、13</p> 
<p>⑩参画 【目標】 5、10、11、16</p> 	

「いわて県民計画2019～2028」PI3を基に作成

## (2) 県内各市町村の持続可能な社会づくりやSDGsに関する取り組みの現状

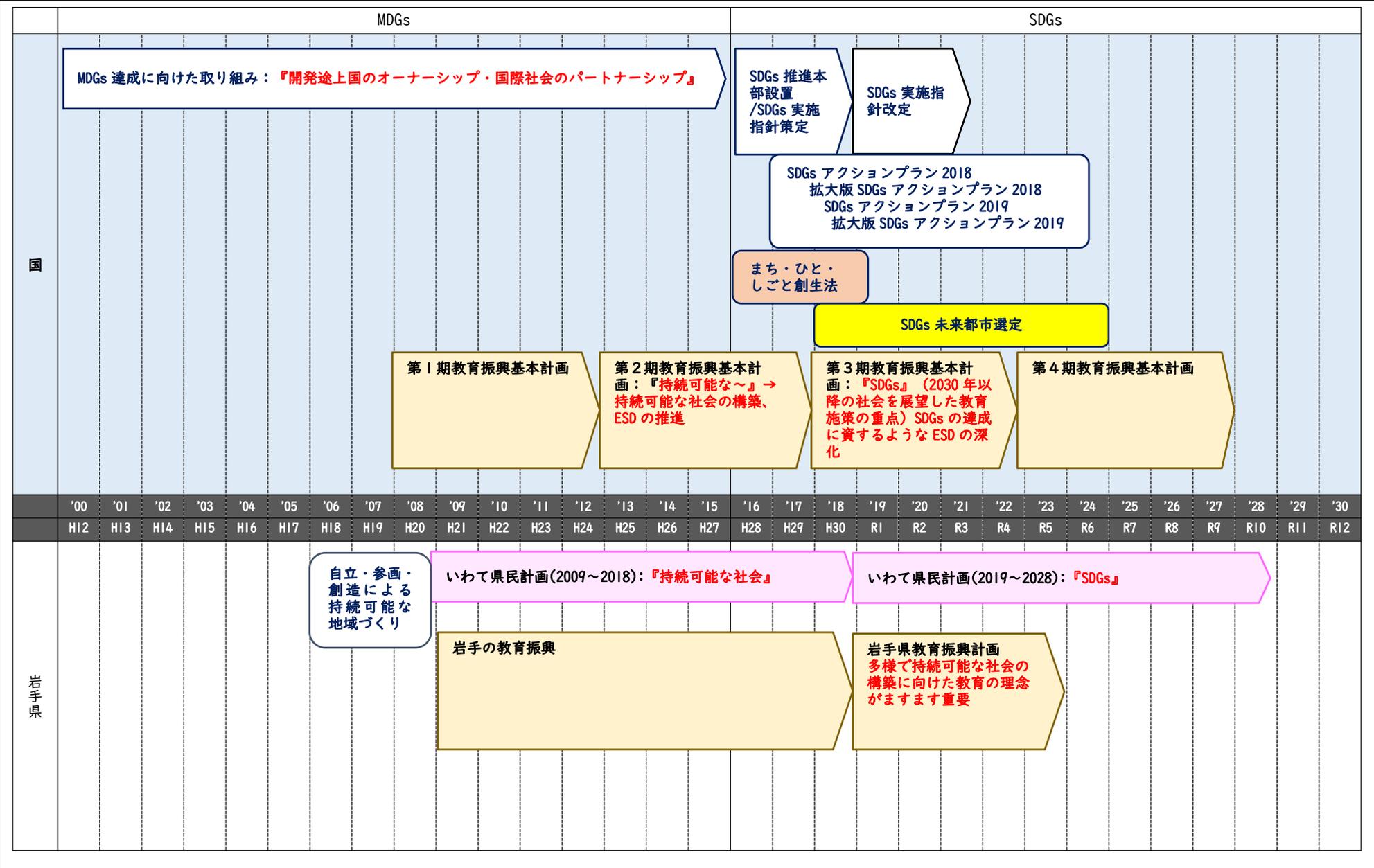
「いわて県民計画」で示された10の政策分野等とSDGsの理念や17の目標の関係性を受けて、各市町村ではSDGsをどう位置付けているのか、また、SDGsや持続可能な地域づくりに関する取り組みがいつ頃から始まったのかを把握するために、県内各市町村のホームページや県立図書館蔵書等で、当センター独自に調査を行った。

[表3-1]は国や本県のSDGsに関する方針等が記載されているものをまとめたものである。[表3-2]は県内各市町村のSDGsに関して記載されている計画等のまとめたものの一例として、SDGs未来都市に選定されている2市1町のものである。各市町村の一覧は[巻末資料Ⅱ]資料3を参照いただきたい。

なお、各市町村の総合計画等、すべての資料を詮索することができなかったため、[表3-2]及び[巻末資料Ⅱ]資料3には記載されていない資料等もある。

今回の事前調査で、記載の時期や表現の仕方等に多少の違いはあるが、ほとんどの市町村で持続可能な社会づくりやSDGsに関する取り組みが展開されていることが確認できた。

[表3-1] 当センター 調査より



[表3-2] 当センター 調査より

	MDGs															SDGs																	
	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30		
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
岩手町																																	<p>岩手町総合発展計画前期</p> <p>総合発展計画後期：『ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーション・多様性への対応』</p> <p>岩手町総合計画：『SDGs』</p> <p>岩手町教育振興基本計画</p> <p>第2期岩手町まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』</p> <p>岩手町 SDGs 未来都市計画：『SDGs』</p>
一関市																																	<p>一関市総合計画 前期基本計画</p> <p>後期基本計画：『SDGs』</p> <p>一関市教育振興基本計画：持続可能な社会の担い手の育成のため、児童生徒のSDGsの理解促進を図り、様々な教育活動に関連させSDGsの普及を図る</p> <p>『SDGs』SDGs 未来都市計画</p> <p>一関市 藤沢町 合併</p>
陸前高田市																																	<p>陸前高田市まちづくり総合計画：『SDGs』</p> <p>SDGs 未来都市計画：『SDGs』</p> <p>第2期 SDGs 未来都市計画：『SDGs』</p> <p>教育振興基本計画</p>

### 3 アンケート調査について

#### (1) 「SDGsに関連した取り組み」に関するアンケート調査

本調査は「SDGsに関連した取り組みの現状」に関して、県内各市町村教育委員会及び生涯学習・社会教育を主管する部局、各市町村の公民館等の社会教育事業を展開している施設の取り組みについて検証することを目的としてアンケート調査を行い、回答をまとめたものである。

#### ア 調査の概要

##### (ア)調査方法

県内社会教育関係者、各市町村教育委員会及び生涯学習・社会教育を主管する部局の担当者に調査票を送付し、Eメールにより回答を得る。

##### (イ)調査対象

調査票A：県内社会教育関係者、各市町村教育委員会及び生涯学習・社会教育を主管する部局の担当で社会教育事業を企画・担当している職員（以下「職員」）

調査票B：県内各市町村の生涯学習・社会教育を主管する部局（以下「市町村」）

調査票C：県内の社会教育施設・公民館等、社会教育事業を展開している施設（以下「施設」）

##### (ウ)調査内容

調査票A：・職員のSDGsに関連した取り組みの現状について

調査票B：・各市町村におけるSDGsに関連した取り組みの実施状況について  
・SDGsに関連した取り組みに関する成果と課題について

調査票C：・各公民館等におけるSDGsに関連した取り組みの実施状況について  
・SDGsに関連した取り組みに関する成果と課題について

##### (エ)調査期間

令和5年9月6日（水）～9月29日（金）

##### (オ)アンケート調査回収結果

・回収数 調査票A：700名 調査票B：33市町村 調査票C：260施設

※各グラフの（n=）は質問に対する回答数を示す。質問の分岐により回答者が絞られる場合はnの値が変動する。

※「成果」や「課題」等の自由記述については、市町村名・施設名等を省略する。同内容と考えられる複数の回答については類型化したうえで記載している。また、趣旨を損なわない範囲で要約し記載する。

※結果数値（%）は、小数第2位を四捨五入して小数第1位で表示している。

イ 調査結果の分析

調査票 A、調査票 B、調査票 C を集計した結果は以下の通りである。

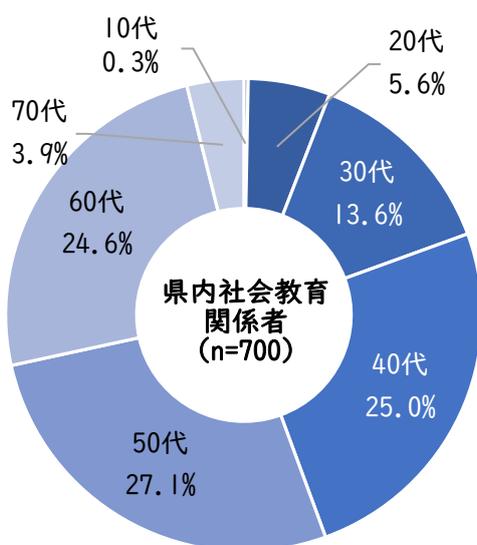
【調査票 A】 県内社会教育関係者 (n=700) ※事業・講座を担当している職員対象

(ア) 回答者の属性について

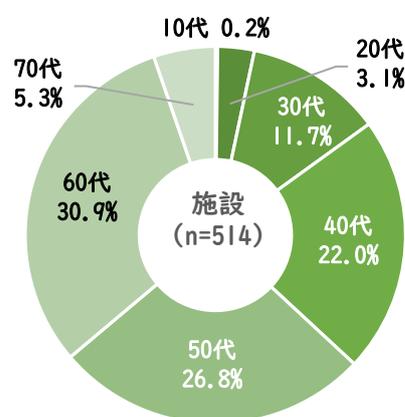
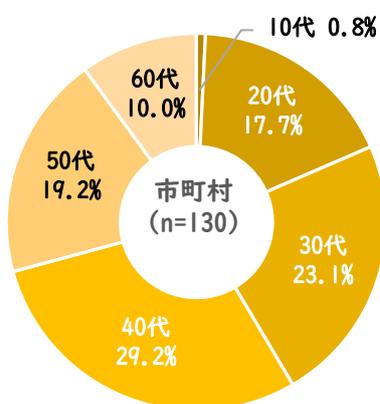
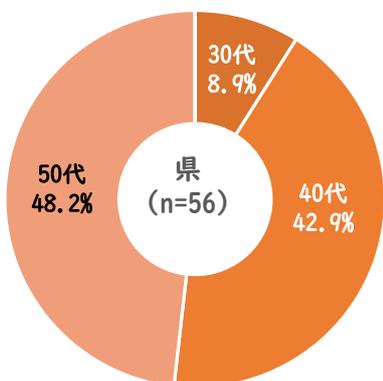
本アンケートの回答者の属性は以下のとおりである。

【グラフ A 1】の「回答者の年齢」については50代が27.1%で、次いで40代25.0%、60代が24.6%となっている。40代以上の割合は80.6%である。

【グラフ A 1】 回答者の年齢

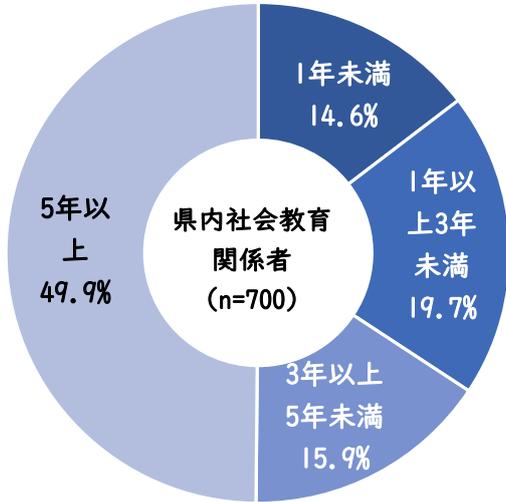


	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
県全体	700	2	39	95	175	190	172	27
県社教関係	56	0	0	5	24	27	0	0
市町村職員	130	1	23	30	38	25	13	0
施設職員	514	1	16	60	113	138	159	27

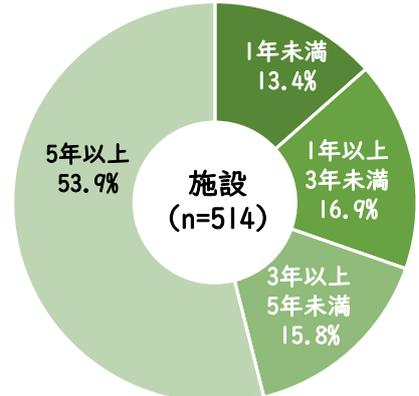
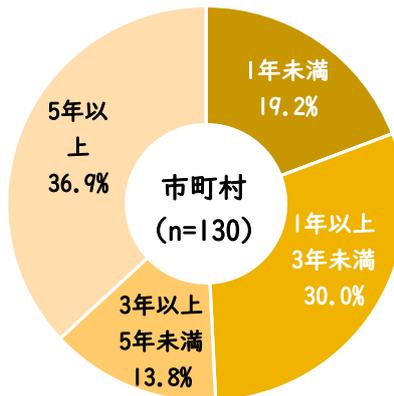
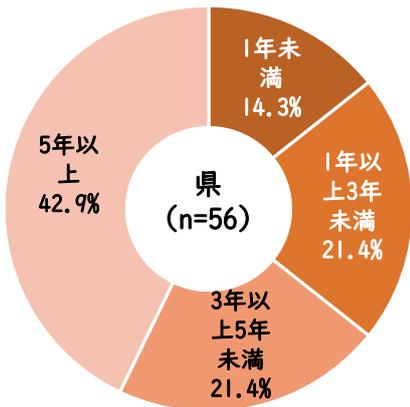


[グラフA2]は社会教育関連に関する業務の経験年数(通算年)に関する設問である。5年以上が49.9%となっており、次いで1年以上3年未満が19.7%となっている。1年未満と1年以上3年未満の割合は34.3%である。

[グラフA2] 回答者の勤務経験年数



	合計	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上
県全体	700	102	138	111	349
県社教関係	56	8	12	12	24
市町村職員	130	25	39	18	48
施設職員	514	69	87	81	277



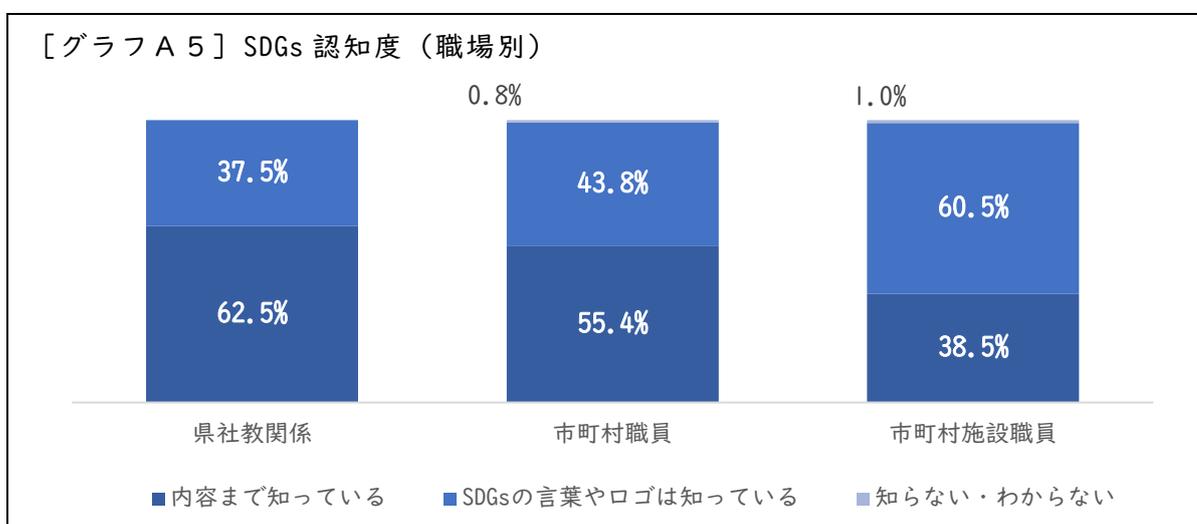
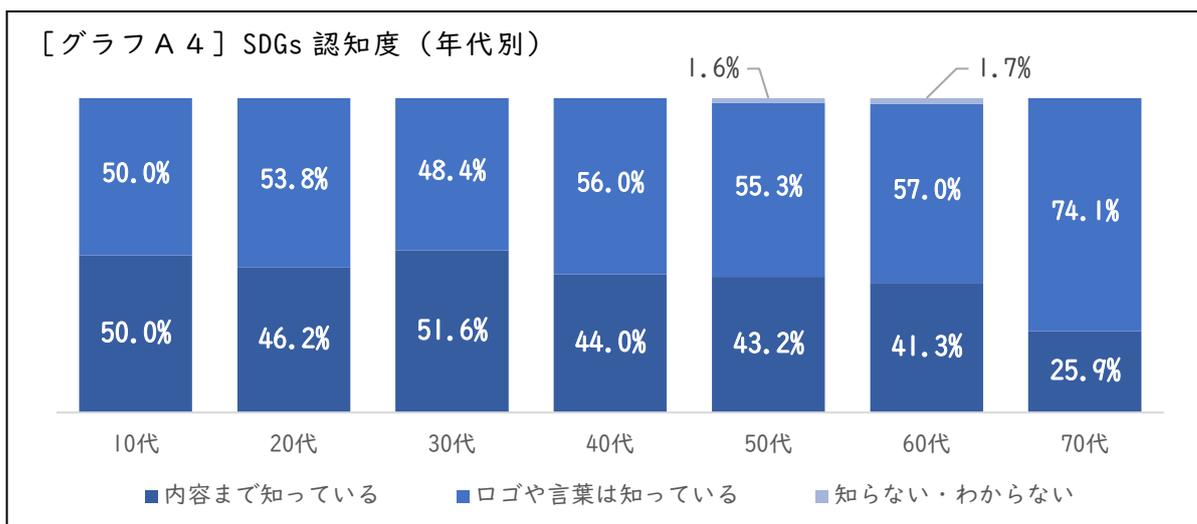
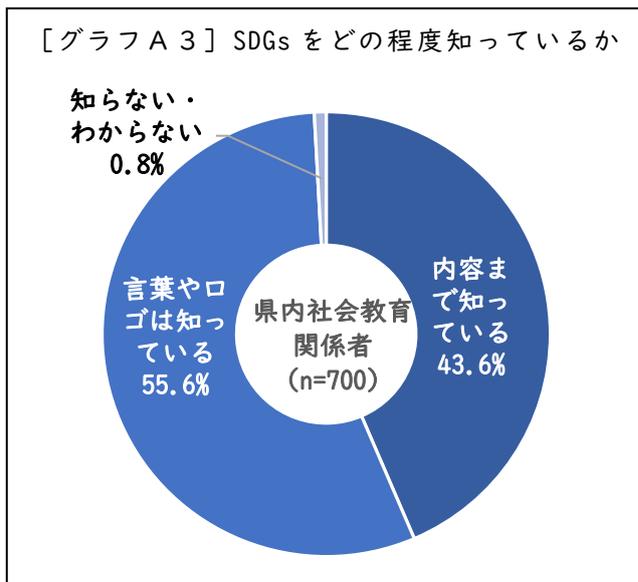
[グラフA1][グラフA2]から、所属によって年齢層に多少のばらつきはあるが、幅広い年代の方々がアンケートの回答者となっていることがわかる。

(イ) 「SDGsの認知度」について

[グラフ A 3] はSDGsの理念や17の目標等について、どの程度認知しているかについての設問である。「SDGsという言葉やロゴは知っているが、内容は詳しく知らない」が55.6%と最も多く、次に「内容まで知っている」という回答が43.6%となっている。SDGsの認知率は99.2%に達している

[グラフ A 4] は年代別、[グラフ A 5] は職場別のSDGs認知度を、に表したものである。

年代別で見ると、70代の「内容まで知っている」のポイントが低くなっているが、SDGsという言葉は県内にほぼ浸透していることがうかがえる。



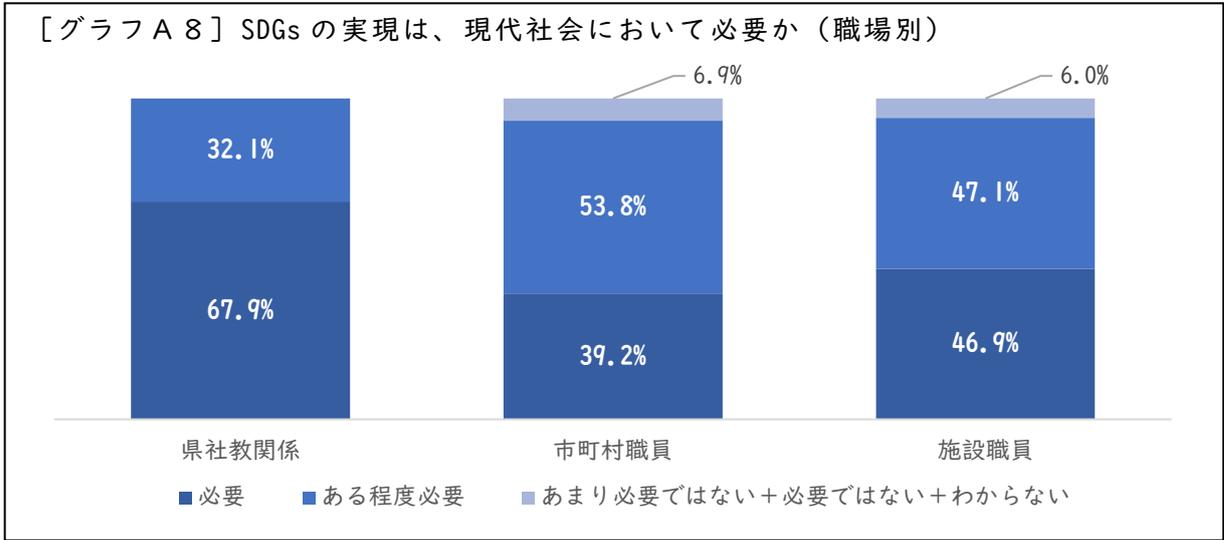
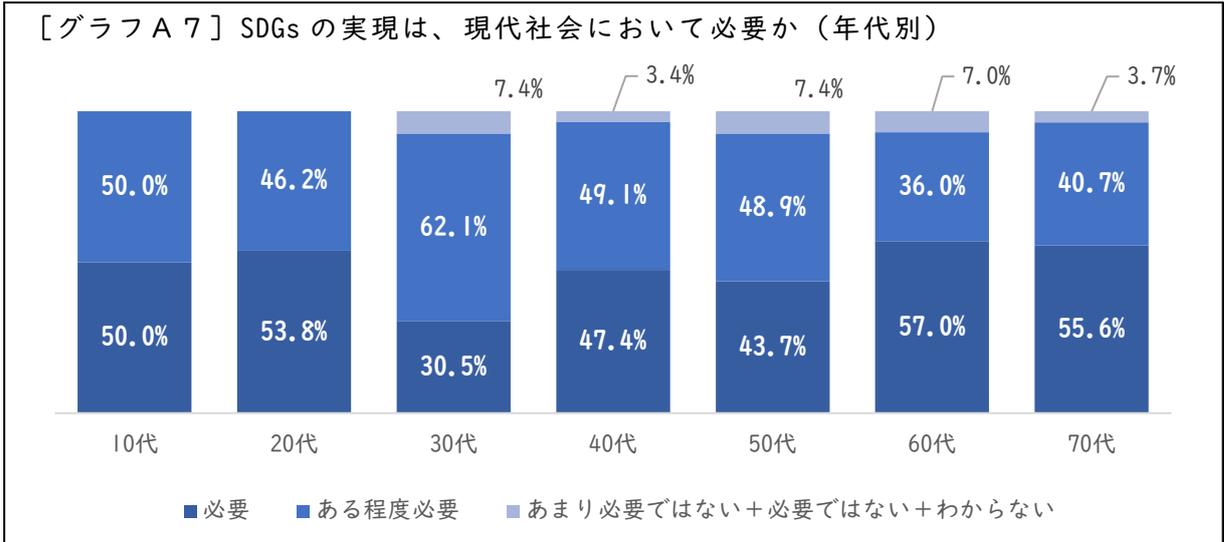
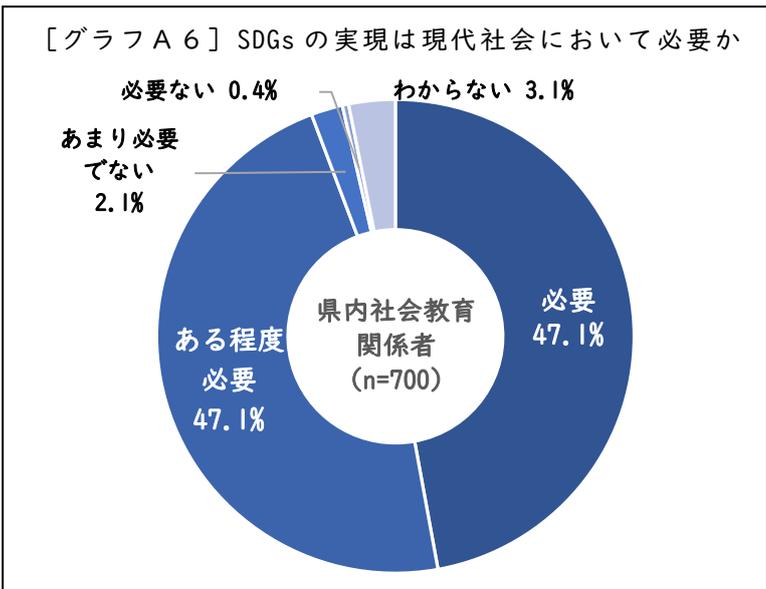
(ウ) 「SDGsの必要性」について

[グラフA6]は、SDGsの実現の必要性についての設問である。「必要である」「ある程度必要」がともに47.1%で、両回答の合計は94.2%となる。

どの世代も、世界全体が抱えている課題や危機をある程度は捉えられているということが推測できる。

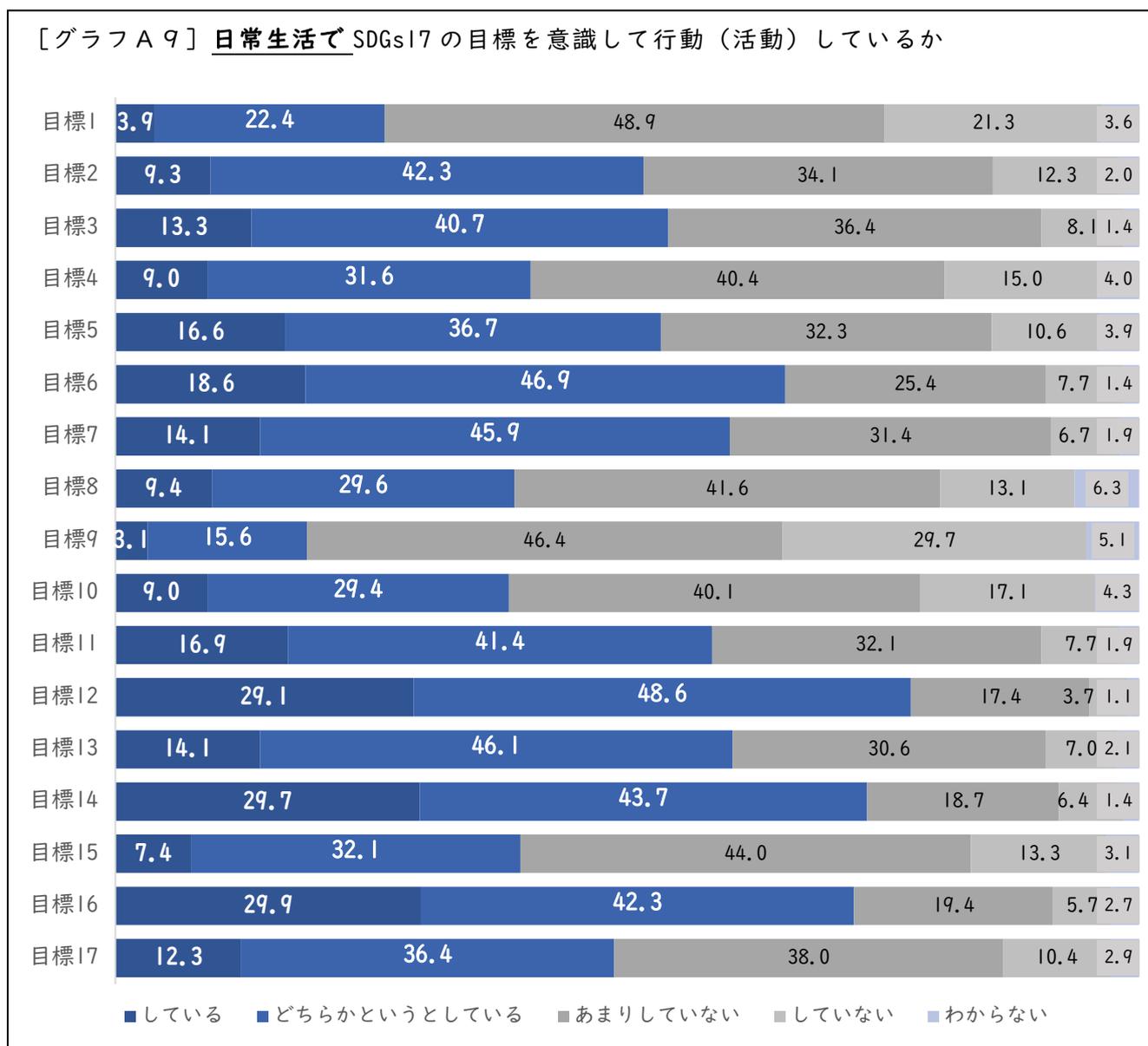
[グラフA7]と[グラフA8]は、年代別・職場別に表したものである。

また、[グラフA4]で「内容まで知っている」の回答が多かった30代が、「必要である」の回答率30.5%と最も低かった。



(エ) 「SDGs17の目標」を意識した行動（活動）について

[グラフA9] は日常生活での意識に関する設問である。日常生活でSDGs17の目標を意識して行動（活動）しているかという問いに対し、「意識している」「どちらかという意識している」の回答率を合計して見てみると、最も多いのが「目標12 つくる責任つかう責任」で77.7%となっている。次いで「目標14 海の豊かさを守ろう」の73.4%、「目標16 平和と公正をすべての人に」が72.2%となっている。



[表4] は、[グラフA9] の「意識している」「どちらかという意識している」と回答した方々の具体的な取り組みを目標ごとにまとめたものである。

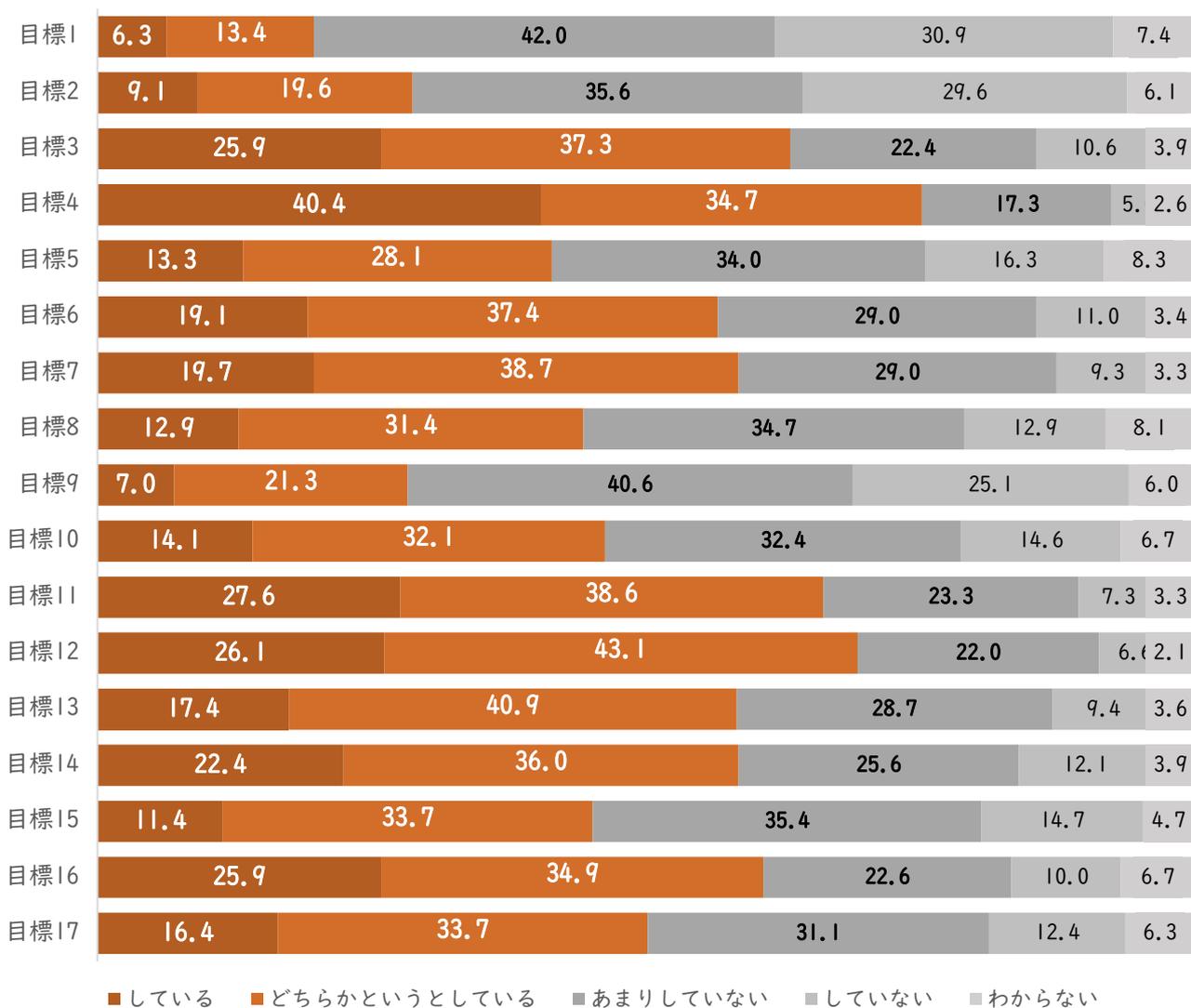
「目標12」や「目標14」の取り組みにあるように、ゴミの削減やマイバッグ・マイボトル持参、フードロスなど、同様の取り組みが複数の目標で取り組まれていることがわかる。実践する側の考え方によって目指す目標に違いがあることがわかる。

[表4] 日常生活での主な具体的取り組み

日常生活での主な具体的取り組み（取り組みの隣の数字は同様の回答数）	
目標1	フェアトレード商品の購入 13 子ども食堂へのボランティア 5 フードバンク支援 2
目標2	フードロス 102 フードバンク 16 子ども食堂の食材提供 4
目標3	運動の習慣化 85 食生活の改善 32 健康的な生活 12 健康や福祉についての学習 12
目標4	生涯学習への参加 18 図書館等、地域の文化施設を積極的に活用 8 サークル活動の推進 3 生涯学習に関する情報収集 3 リユース文庫の活用 3
目標5	家事・育児・介護などの負担を平等に 85 家事の率先実践 6 家事・育児は出来る方が出来ることをする。役割分担しない 4 年齢・性別・職責に関わらず、人間としての平等性を意識 2 ジェンダー教育への参加 2
目標6	節水、節電 95 石鹸・洗剤の使い過ぎに注意 24 衛生の学習 3
目標7	節水、節電 110 再生可能エネルギー（太陽光発電） 17 公共交通機関の利用 11 ハイブリットカー、PHV車、EV自動車、電気自動車、CO2排気軽減の自動車 7
目標8	地産地消 28 ワーク・ライフ・バランスの実行 8 エシカル消費 2
目標9	新たな知識・技術の習得 7 親子でプログラミングの学習（ichigojam webで遊ぶ）
目標10	パラスポーツに参加 9 国際理解講座等への参加 2 支援学級への学習支援 2
目標11	地域の清掃活動等に参加 45 災害に備える（講座・訓練への参加含む） 33 地域の学校へベルマークや資源回収の協力 16 地域の方と積極的コミュニケーション 4 安心・安全、住み良いまちづくり 4
目標12	プラスチックなどのゴミ分別・削減 148 リサイクル・リユース 65 食品ロス 64 マイバック、マイボトル持参 13
目標13	節電・節水 24 自然災害・気候変動等に関心をもつ 11 緑のカーテン・遮熱カーテンなどの設置・CO2削減 5 公共交通機関の利用 3
目標14	マイバッグ、マイボトル 231 ごみ（プラスチック含む）の分別・削減（リサイクル） 61 洗剤の節減 10
目標15	地域の里山環境の維持 8 認証マーク（FSC商品等）入り商品の購入 4 ペーパーレス化 2
目標16	政治（選挙）への参加 124 世界平和への意識 19 公正な言動 9
目標17	募金、寄付等 34 地域の課題について住民との意見交換 3

[グラフA10] は業務での意識に関する設問である。[グラフA9] 同様、「意識している」「どちらかという意識している」の回答の割合で見ると、「目標4 質の高い教育をみんなに」が75.1%と最も高く、次いで「目標12 つくる責任つかう責任」が69.2%、そして、「目標11 住み続けられるまちづくりを」が66.2%となっている。

[グラフA10] 業務で SDGs17の目標を意識して行動（活動）しているか



[表5] は、業務で意識していることの具体的な取り組みを目標ごとにまとめたものである。

目標4の「講座・学習会の開催」に関連する回答が多くみられる。より「質の高い教育をみんなに」提供することを第一に考え、各市町村の実態に合った取り組みを進めているものと考えられる。

また、ゴミの削減や節電・節水、再利用など、日常生活で意識していることでも多く見られた取り組みを、職場内でも意識して取り組んでいることがわかる。

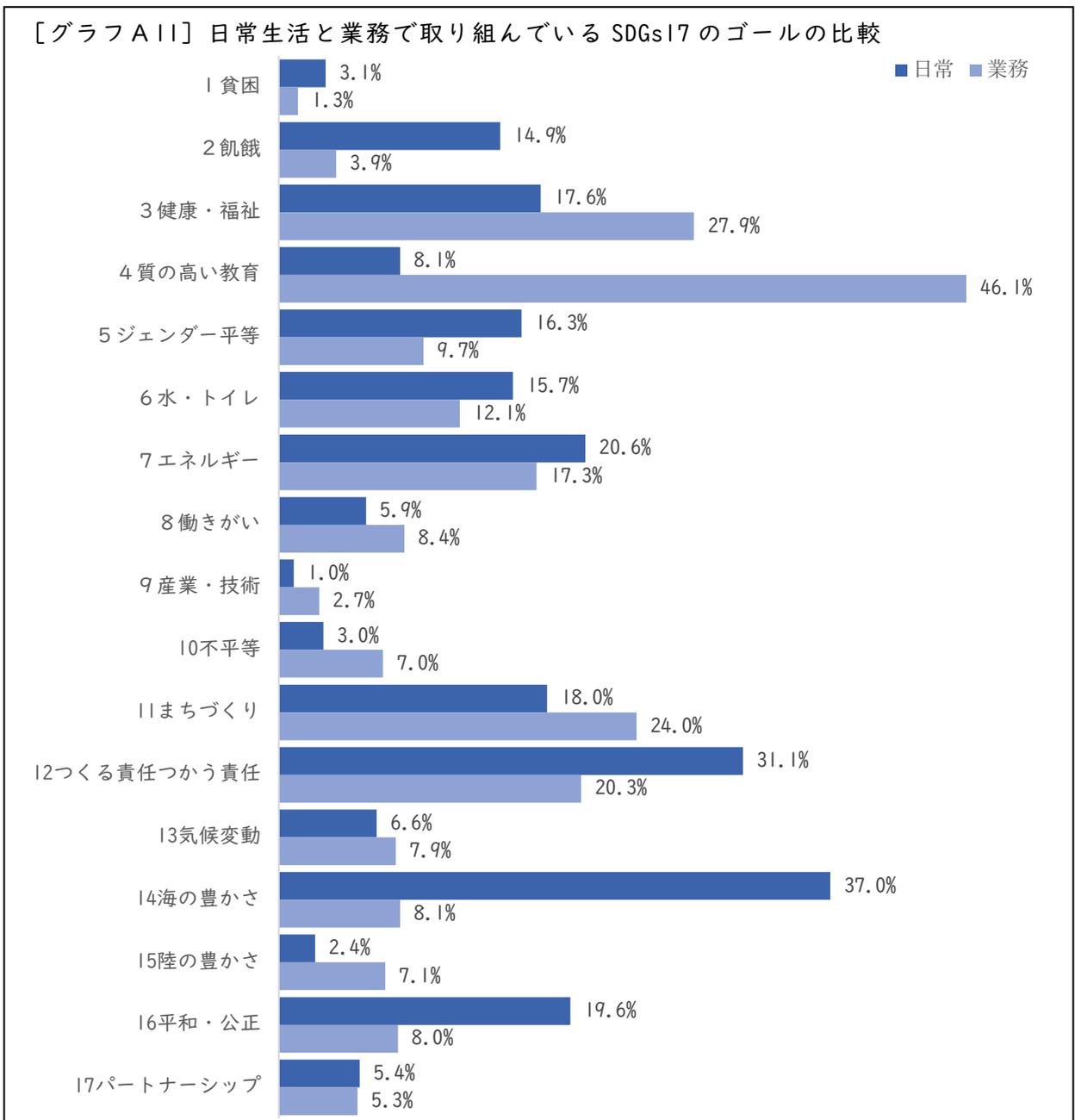
[表5] 業務での主な具体的取り組み

業務での主な具体的取り組み (取り組みの隣の数字は同様の回答数)	
目標1	生活困窮者支援(生活保護家庭への訪問・連絡活動等) 3 事業を行う際には参加者の負担をなるべく少なくするよう配慮
目標2	フードバンクやおやつバンクの設置 13 フードロスに関する講座などの実施 23 地産地消を目的とした料理教室の開催 3
目標3	健康・福祉関係の講座開設 125 スポーツ関連講座(ウォーキング、エアロビ、ニュースポーツ等) 93 生活の改善機会の提供 15
目標4	より質の高い生涯学習機会の提供・場の提供 205 ニーズを意識した研修会の企画 29 すべての人に包括的な学習会の提供 18 SDGsに関する本の展示の実施・SNSによる周知 2 図書寄贈・リユース書籍 10
目標5	講座またはイベント、事業等を通し啓発を図る 14 男女共同参画やLGBTQなどの学習 10 家庭教育学級の開催 5
目標6	節電・節水 80 石鹸、洗剤を使いすぎない 14 廃油石鹸づくりなど環境に関する事業 2
目標7	節電・節水 95 再生可能エネルギー(太陽光発電)の利用 17 公共交通機関の利用・徒歩 9 再生可能エネルギー学習会の開催(企業と連携) 2
目標8	ワーク・ライフ・バランスの実行 22 働き方改革(定時退庁、残業削減、休暇取得奨励等) 18 地産地消への取り組み 8 誰もが働ける環境づくり 5
目標9	新たな知識・技術の習得(資格の取得サポート等含む) 8 初心者・高齢者に対するIT技術の習得(スマホ講座等) 8 ICTの活用 2
目標10	パラスポーツ体験 14 どんな人でも参画できる社会 6 違いを認め合い理解すること 5 障がい者の生涯学習に関する研修会を開催 2
目標11	防災講習・防災訓練・行動訓練の実施 49 清掃・草刈り等の地域活動 32 安心、安全な住み良いまちづくり 23 災害に備えられる安心安全な地域づくり 13 防犯研修会や交通パトロール等の実施 8 自主防災組織活動 4
目標12	ゴミの分別 62 再利用、再生商品(資源回収) 37 用紙の再利用 19
目標13	ごみの分別・削減 29 節電・節水 28 自然災害・気候変動に関心を持つ 5 震災・防災に関する講座の企画運営 8 気候に関する学習会(啓発映画の上映等)の実施、関連図書の展示・貸出 4 公共交通利用促進 2
目標14	マイバッグ・マイボトル持参 31 ごみ(プラスチック含む)の削減・分別等 19 海洋ごみの清掃 4
目標15	ペーパーレス決裁・会議等 41 認証マーク入り商品の購入 4 森林教室 3
目標16	地域住民に対してすべての人に平等に対応 26 政治(選挙に行く)に参加 15 選挙事務に従事 6 平和事業の開催 6
目標17	募金活動への取り組み 23 社会課題の共有 11 利用団体に公平なサービス 2

[グラフA11]は、日常生活[グラフA9]と業務[グラフA10]で意識を「している」「どちらかというとしている」の回答を抜き出して比較したものである。

一番大きく差が出たのは「目標4 質の高い教育をみんなに」で、38ポイントの差がある。目標4の具体的な取り組みを見てみると、業務では「より質の高い生涯学習の機会、場の提供」という回答が205件と最も多い。一方、日常では「生涯学習への参加」の18件が最も多く、次に多い「図書館等の施設を積極的に活用」の8件と併せても26件である。講座やイベント等を企画・運営し、住民に学習の場を提供はしているものの、自身が受講者として学習の場に参加する機会は少ないようである。

また、日常生活の意識として37%とポイントの高い「目標14 海の豊かさを守ろう」は、業務ではさほど意識されていないという結果になった。日常の取り組みとして「マイバッグ・マイボトル持参」「ごみの分別・削減」の回答が多いというところを見ると、日常行われているこれらの行為が、業務としてではなく日常の取り組みの延長として意識してされているからではないかと推測できる。



【調査票B】市町村の取組、【調査票C】施設の取組について

【調査票B】及び【調査票C】に関しては、設問内容がほぼ同様のものであるため、両者の集計結果を並行して見ていきたい。なお、[グラフB○]は市町村の集計結果、[グラフC○]は施設の結果である。

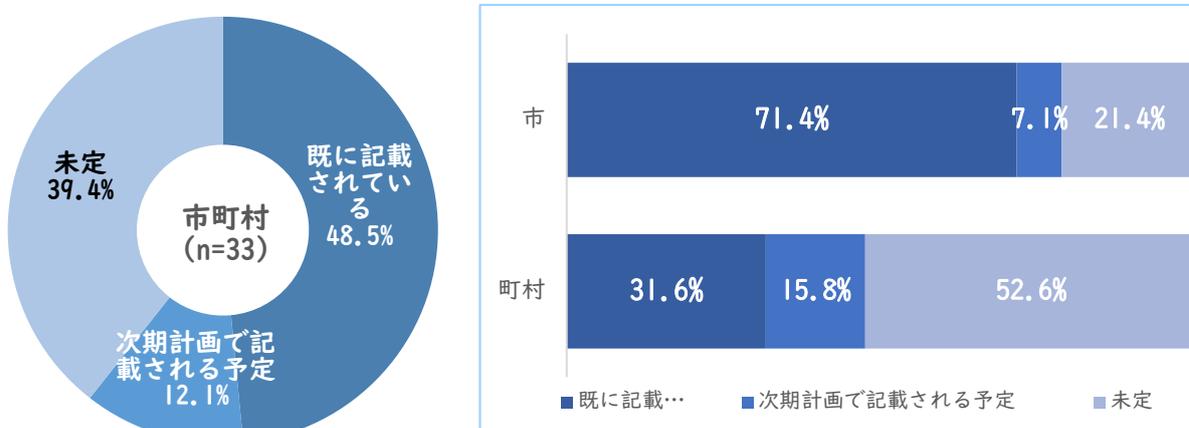
(ア)生涯学習・社会教育に関する計画へのSDGs関連の有無について

[グラフB1]は、各市町村の教育振興基本計画や生涯学習推進計画等の生涯学習・社会教育に関する計画の中に、「SDGs」や「持続可能な～」等といったSDGsに関連する記載の有無に関する設問である。

48.5%の市町村で、生涯学習・社会教育関連の計画にSDGsに関連する記載がされており、SDGsの理念や目標を取り入れたまちづくりが進められていることがわかる。

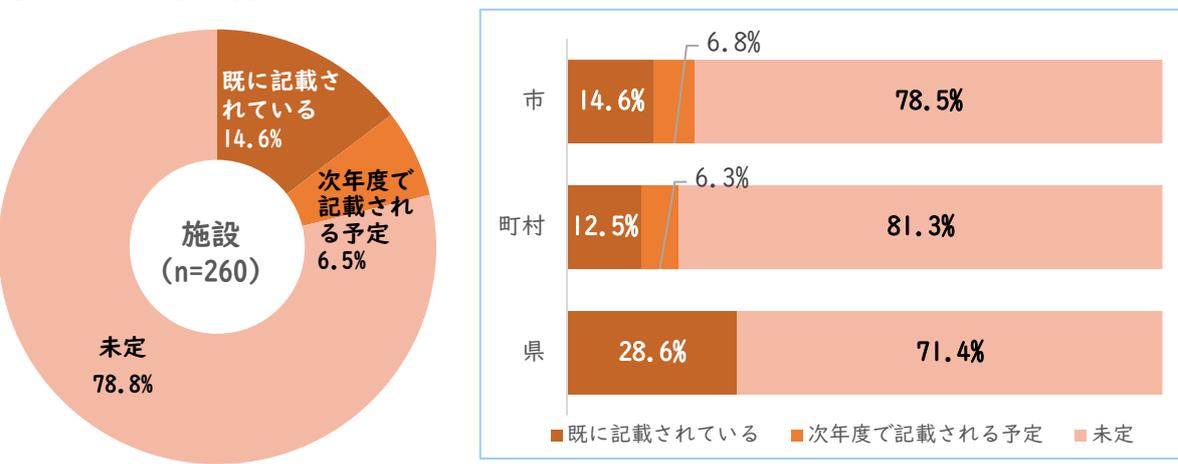
今回の調査対象となっている生涯学習・社会教育主管部局ではなく、他部局が策定する計画にSDGsが位置付けられているといった市町村もあり、今後、他部局との連携が重要となってくる。

[グラフB1] 生涯学習・社会教育に関する計画の中にSDGsに関する記載をしているか



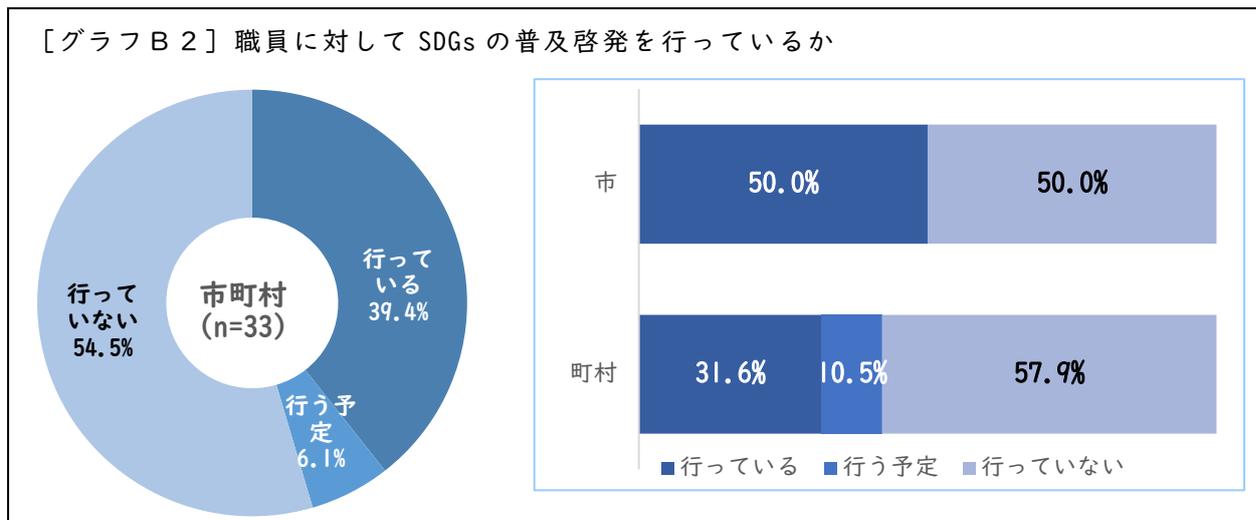
[グラフC1]は、施設の要覧や活動計画等の中にSDGs関連の記載のある施設は14.6%、次期計画で記載される予定の施設は6.5%であった。現時点では85%の施設が、活動計画等の中にSDGs関連の記載がされておらず、今後の記載の有無に関しても未定となっている。

[グラフC1] 要覧や活動計画の中に、SDGsに関連する記載をしていますか

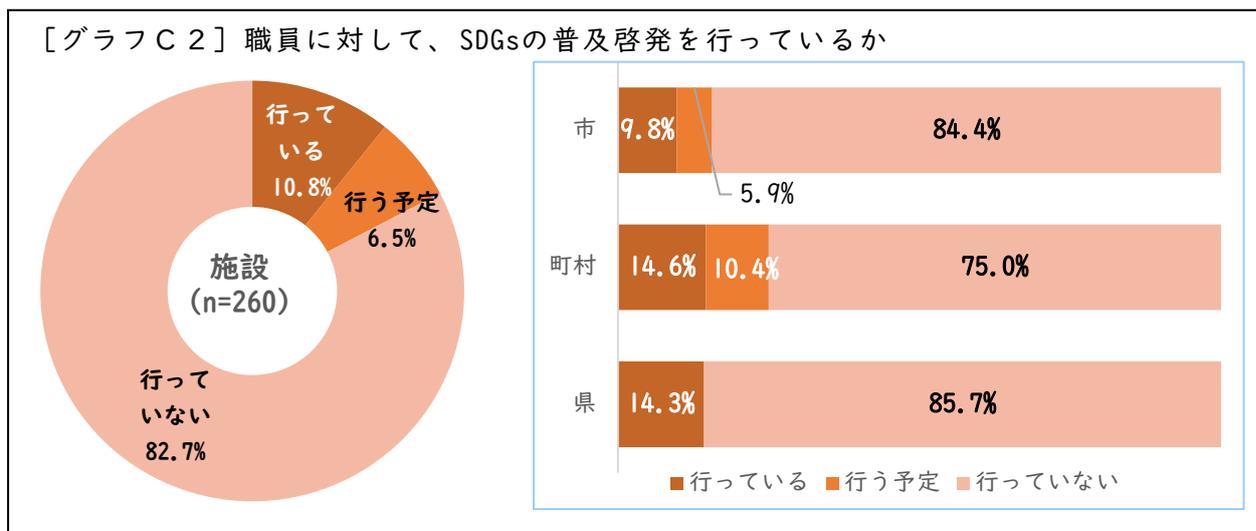


(イ)職員対象のSDGs普及啓発について

[グラフB 2] 職員対象のSDGs普及啓発を行っている市町村は39.4%、行う予定の市町村は6.1%となっている。併せても45.5%と半数を下回っている。

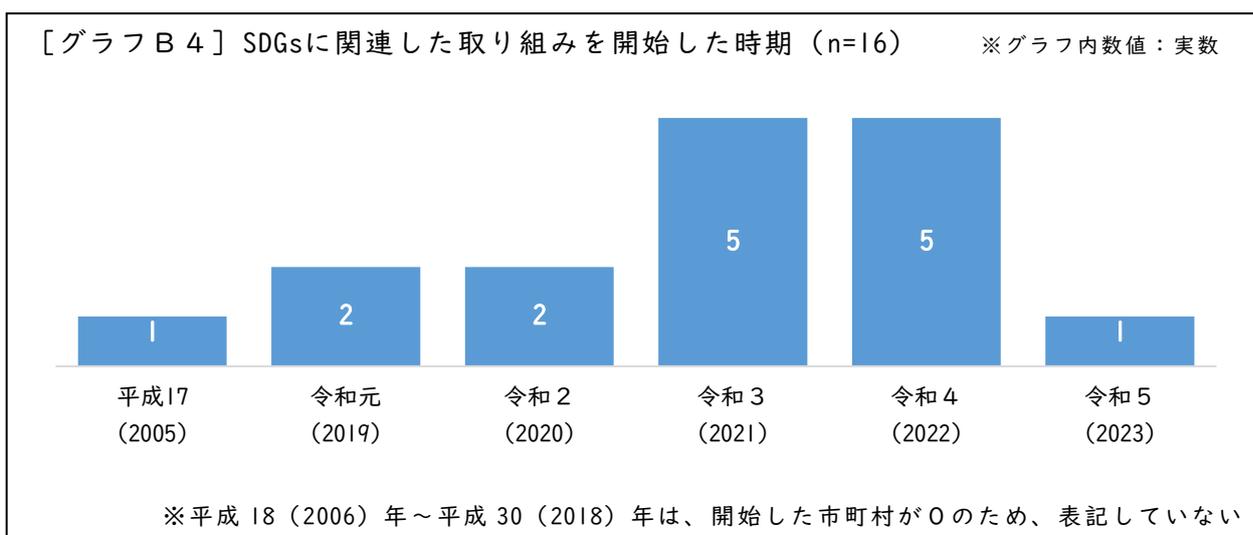
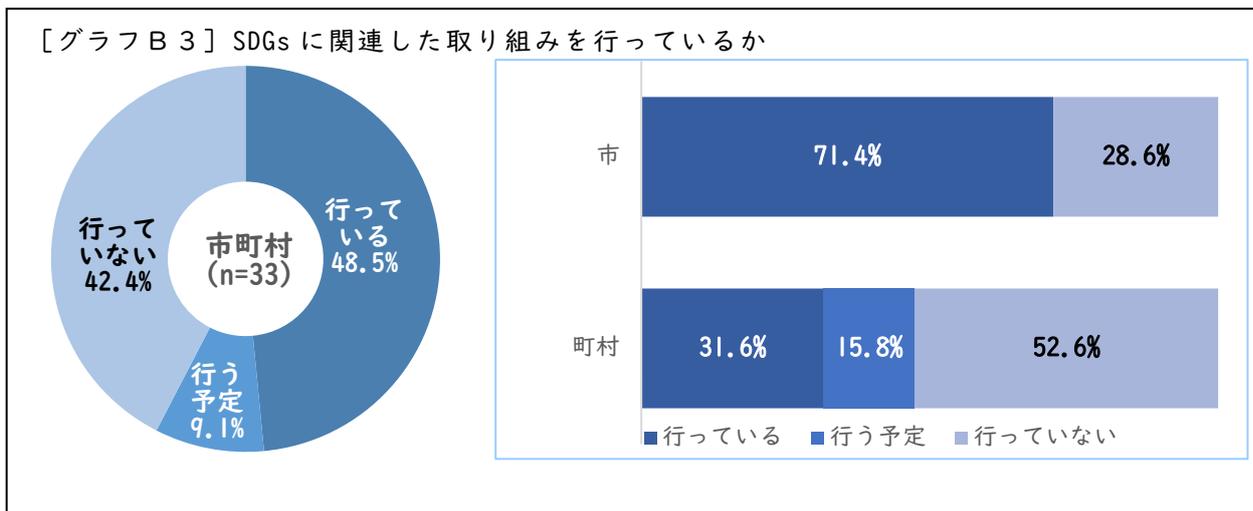


[グラフC 2] 職員対象のSDGs普及啓発を行っている施設は10.8%、行う予定の施設は6.5%で、両回答を併せても17.3%である。



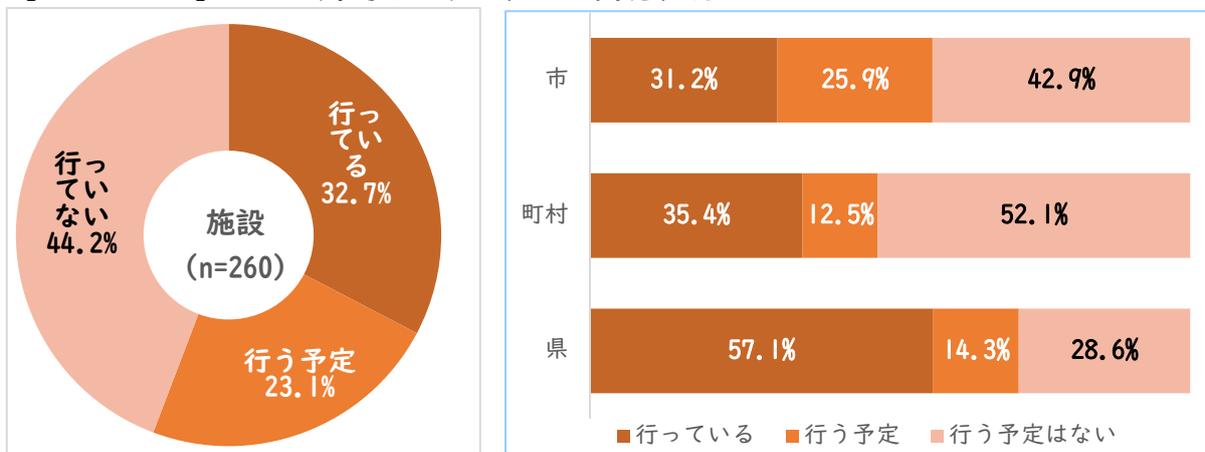
(ウ)地域住民を対象としたSDGsに関連した取り組みについて

[グラフB3]は、市町村での地域住民対象のSDGs関連事業等の実施の有無、[グラフB4]は、その開始時期に関する結果である。住民対象の取り組みを実施している市町村は48.5%で、開始時期を見てみると2019(令和元)年から増え始めていることがわかる。2019年はSDGsとの関連が示された「いわて県民計画2019~2028」が策定された年であり、それに合わせて市町村も取り組みを始めたものと思われる。

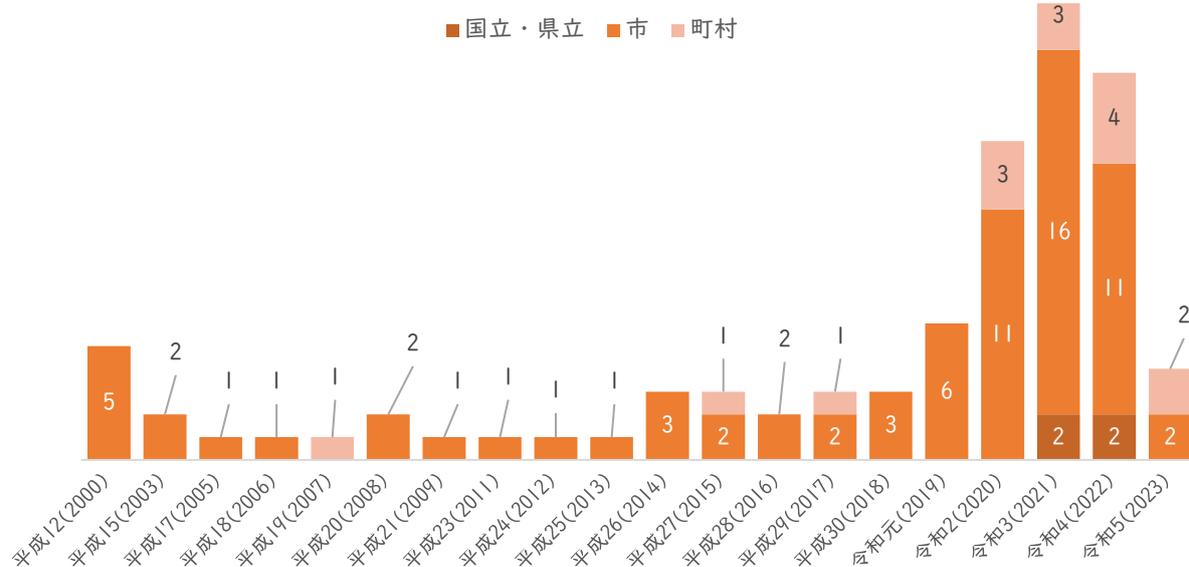


[グラフC3]は、施設での地域住民対象のSDGs関連事業等の実施の有無、[グラフC4]は、その開始時期に関する結果である。32.7%の施設がSDGs関連の取り組みを実施しており、現在実施している施設の開始時期を見てみると、市町村同様、2019（令和元）年から増え始めている。

【グラフC3】SDGsに関連した取り組みの実施状況



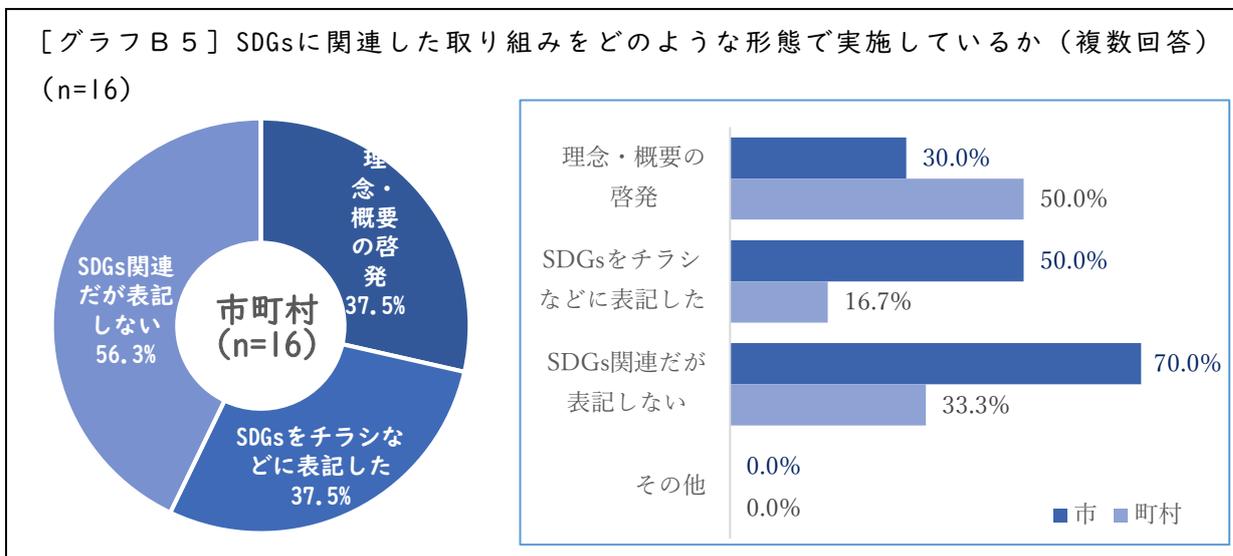
[グラフC4] SDGsに関連した取り組みを開始した時期



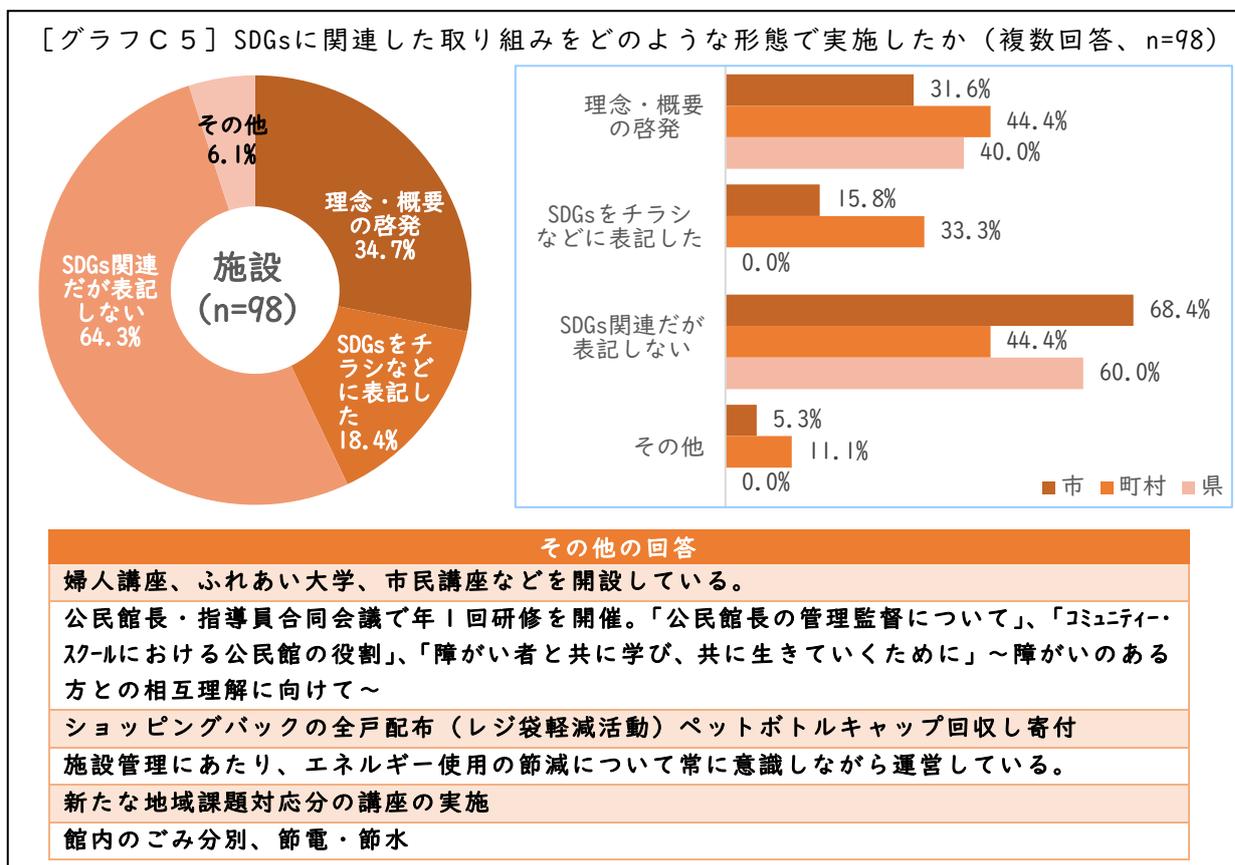
※ [グラフB4] 同様、開始した施設が0の年は表記していない

(エ)SDGsに関連した取り組みの実施形態について

[グラフB5]はSDGsに関連した取り組みを行っている市町村を対象に、どのような形態で実施しているかに関する設問である。SDGsに関連している事業だが「SDGsに関する記載をせずに実施している」が最も多い56.3%となった。「理念・概要の啓発」と「SDGsのロゴ等をチラシに表記した」がともに37.5%であった。



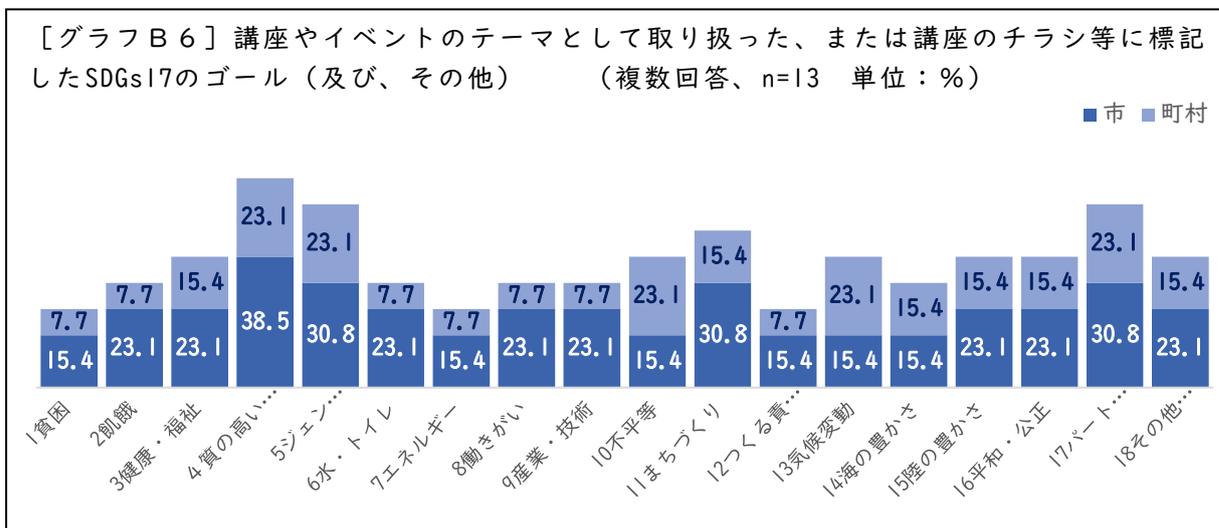
[グラフC5]は、SDGs関連の取り組みを行っている施設を対象に、どのような形態で実施しているかに関する設問である。SDGsに関連してはいるが、そのような記載をせずに実施しているが最も高い値を示している。その他の回答として、レジ袋軽減の活動や施設の利用にあたり節電・節水、ゴミ分別を利用者に呼びかけを行うことでSDGs理解促進を図っている施設もある。



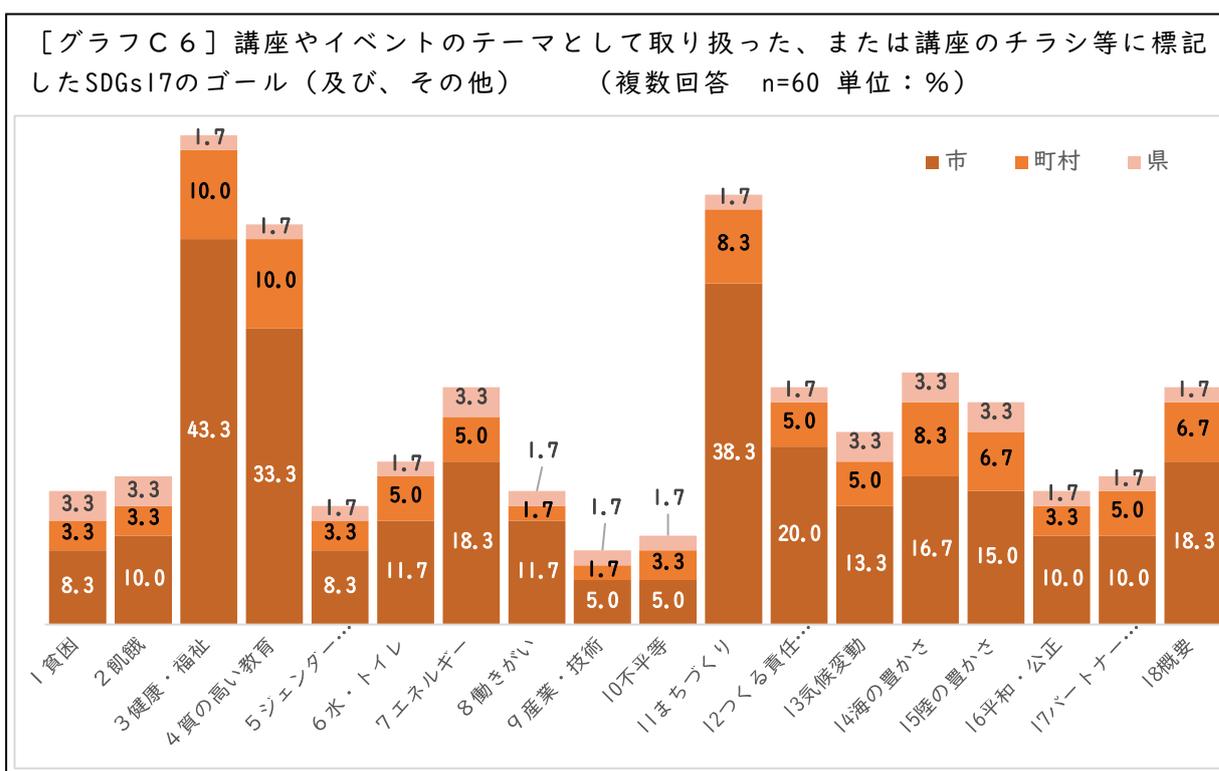
その他の回答
婦人講座、ふれあい大学、市民講座などを開設している。
公民館長・指導員合同会議で年1回研修を開催。「公民館長の管理監督について」、「コミュニティ・スクールにおける公民館の役割」、「障がい者と共に学び、共に生きていくために」～障がいのある方との相互理解に向けて～
ショッピングバックの全戸配布（レジ袋軽減活動）ペットボトルキャップ回収し寄付
施設管理にあたり、エネルギー使用の節減について常に意識しながら運営している。
新たな地域課題対応分の講座の実施
館内のごみ分別、節電・節水

(オ)講座等のテーマとしてを取り扱った、または講座のチラシ等に表記したSDGsの目標等について

[グラフB6]は、SDGs関連の取り組みを行っている市町村の結果である。市町村の合計で見ると、「目標4 質の高い教育」が61.6%、「目標5 ジェンダー平等」と「目標17 パートナーシップ」がともに53.9%となっている。

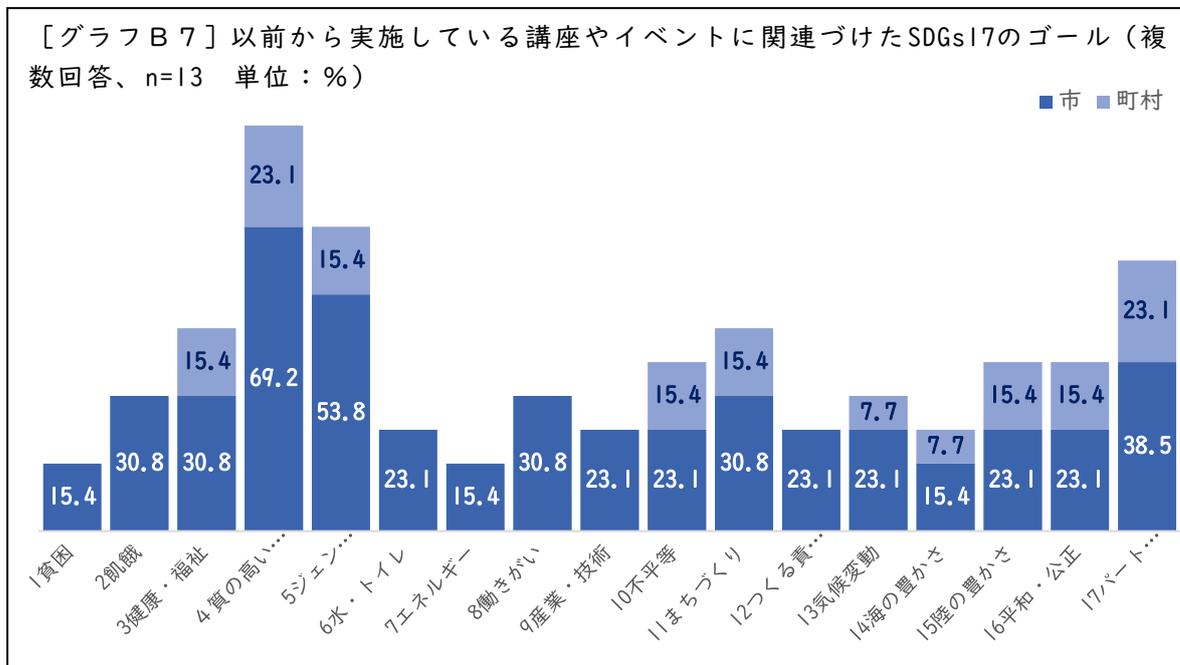


[グラフC6]は、SDGs関連の取り組みを行っている施設の結果である。「目標3 健康・福祉」が55.0%、次いで「目標11 住み続けられるまちづくり」が48.3%、「目標4 質の高い教育」が45.0%となっている。[グラフB6]の市町村で高い値を示した目標と異なっている。これは、幅広い世代を対象とした事業を展開している市町村に対し、施設では小中学生・子育て世代や高齢者とターゲットを絞った事業を展開しているためと考えられる。



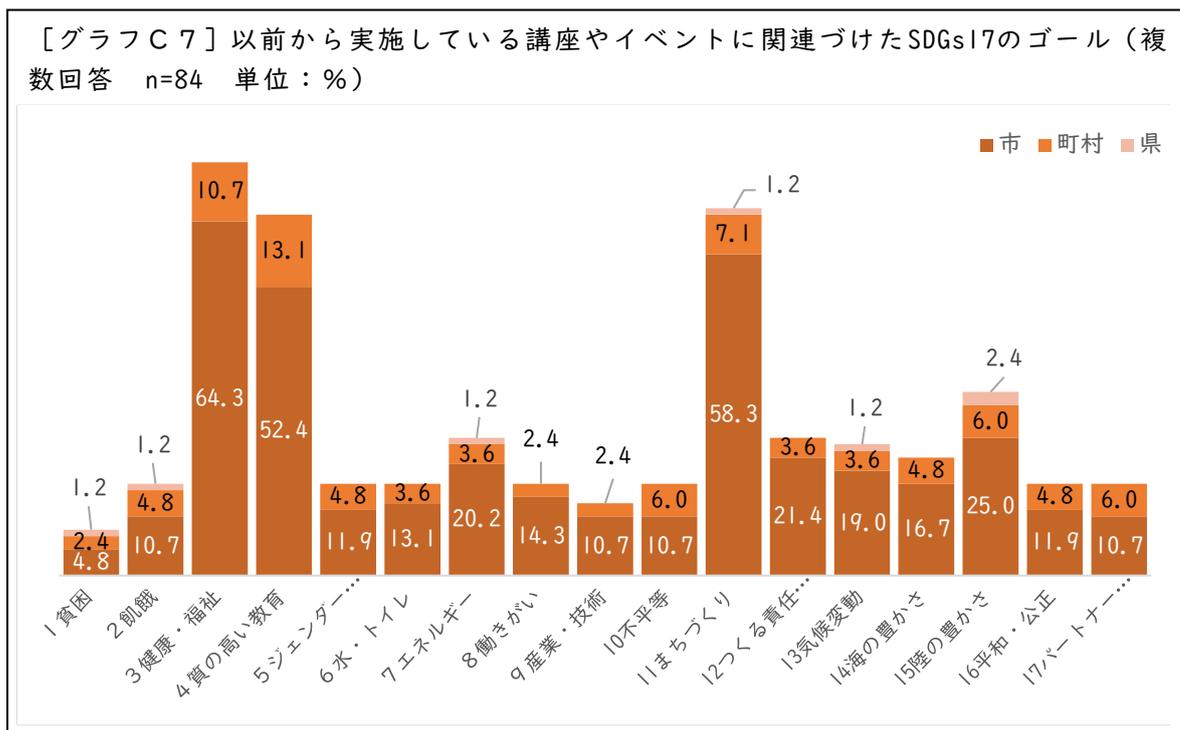
(カ)以前から実施している講座等とSDGsの目標の関連づけについて

[グラフB7]は、市町村が以前から実施している講座等とSDGsの目標の関連づけに関する結果である。[グラフB6]同様、「目標4 質の高い教育」(92.3%)、「目標5 ジェンダー平等」(69.2%)と「目標17 パートナーシップ」(61.1%)が高い値を示している。



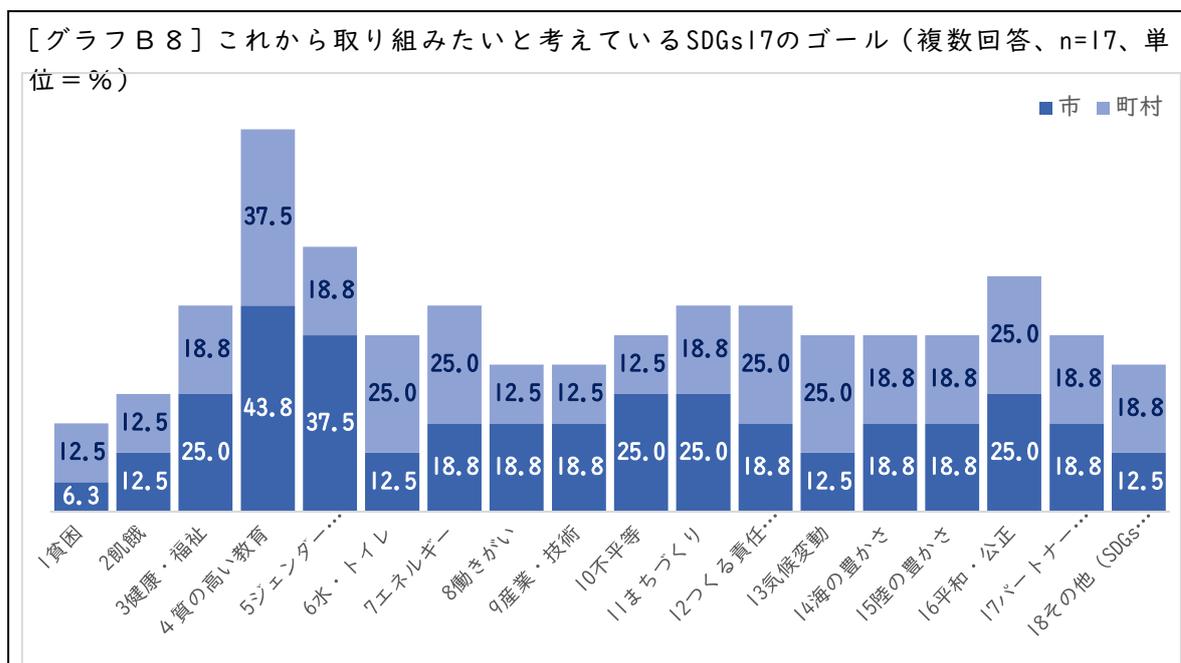
[グラフC7]は、施設が以前から実施している講座等とSDGsの目標の関連づけに関する結果である。「目標3 健康・福祉」が75.0%、次いで「目標11 住み続けられるまちづくり」が66.6%、「目標4 質の高い教育」が65.5%となっている。

[グラフB7]同様、以前から各施設で実施している多くの事業が、SDGs17の目標のいずれかに関連づけることができることがわかる。

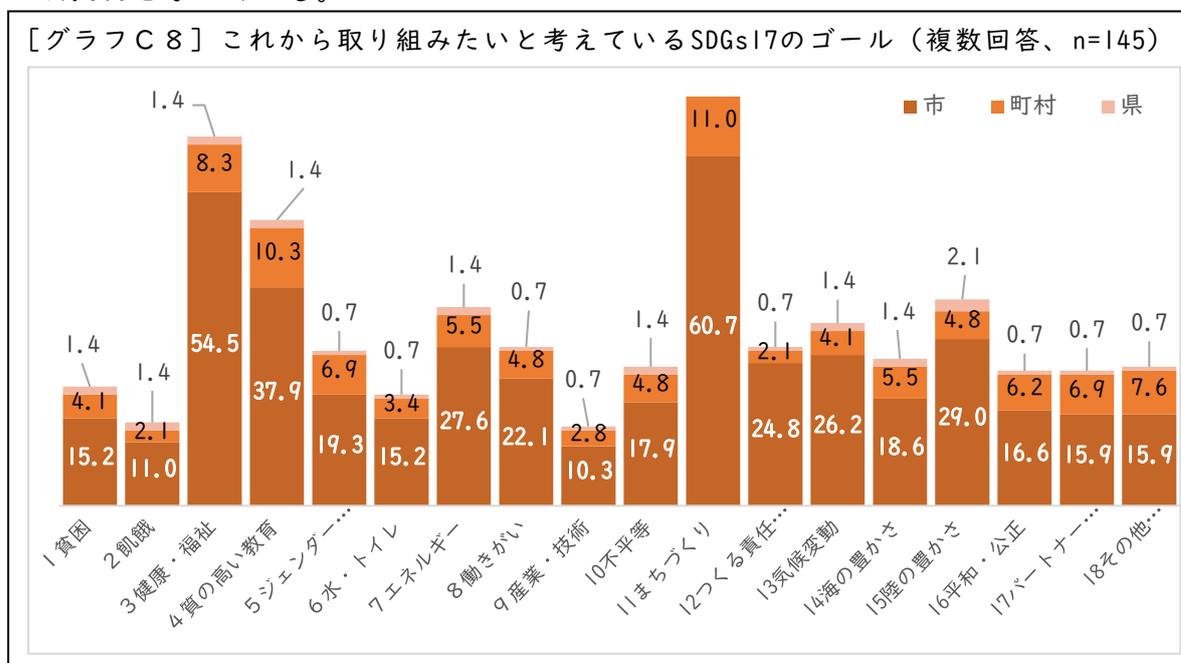


(キ)これから取り組みたいと考えているSDGsの目標について

[グラフB8]は、市町村の結果である。「目標4 質の高い教育」が81.3%と突出しており、次いで「目標5 ジェンダー平等」が56.3%、「目標16 平和・公正」が50.0%となっている。



[グラフC8]は、施設の結果である。「目標11 住み続けられるまちづくり」が最も高く73.8%、次いで「目標3 健康・福祉」で64.2%、「目標4 質の高い教育」が49.6%となっている。



(ク)事業を実施したことで得られた成果について

アンケート調査によって、SDGsに関連する事業を実施したことで得られた成果についても、把握することができた。

[表6]の市町村の成果として、「幅広い年代の住民に対し様々な学習活動の提供ができた」「職員が意識するようになった」「自分と世代が異なる人達と意見交換等を行ったことで、多様な考え方を知ることができた」「SDGsに対する関心が高まった」などの回答があった。

[表7]の施設の成果に関しては、「SDGs達成のために貢献できることを考えるきっかけになった」「小さな活動でも、大きな目標に対して貢献できた喜びや達成感が得られた」「自分が住んでいる地域を知るきっかけになった」などの回答があった。

これらの成果から、市町村と施設共に幅広い世代が交流できる事業や子どもたちの声を取り入れ、子どもたちも活躍できる場面のある事業を展開していることがわかる。今後、持続可能なまちづくりを展開していく上で、有効な情報がかなり得られたと思う。

また、市町村・施設に共通して挙げられた成果は、SDGsに対する関心が高まったことだけでなく、「多世代の交流で、多様な考えを知ることができた・学びを深めることができた」ことや事業を実施することにより参加者だけでなく職員の意識にも変化が現れたことである。

[表6] 市町村の成果

市町村の成果	※詳細は、【巻末資料Ⅱ】資料3を参照
<ul style="list-style-type: none"><li>・自分と世代が異なる人達と意見交換等を行ったことで、多様な考え方を知ることができた。</li><li>・SDGsに対する関心が高まった。</li><li>・参加者の8割以上が、「理解が深まった」と回答しており、市民の参画意識が広がった。</li><li>・全ての地域資源を学習教材として捉え、子どもたちの多様な学習・体験・交流活動ができた。</li><li>・中学生向けの事業については、知的好奇心を高め進路を考える一助となった。</li><li>・様々な学習活動の提供を推進できた(2)</li><li>・幅広い年代の市民に対し生涯学習の機会を提供することができた。</li><li>・持続可能なまちづくりの基盤となる「郷土への愛着と誇りの醸成」を図る取り組みとして定着している。</li><li>・各地区の活動状況や現状を共有する機会となった。</li><li>・職員が受講前よりも、意識するようになった。</li><li>・ゴールを位置付けることで、取組のねらいを伝えることができた(2)</li></ul>	

## [資料7] 施設の成果

### 施設の成果

※詳細は、【巻末資料Ⅱ】資料3を参照

- ・SDGsを改めて考える事が楽しかった。難しく見えるが、やってみると楽しかった。
- ・SDGs達成のために貢献できることを考えるきっかけとなった。(4)
- ・講座実施の際、趣旨・目的がSDGsの目指す目標に合致しているか、担当者が理解することで、受講生にもその意義が伝わると考えている。
- ・子供たちに人気のゲームを使ってSDGsの17の目標に触れ、目標達成に向け今自分に何ができるのか考えるきっかけとなった。
- ・子どもたちが多くの取り組みや考え方を用紙に記入し会場に貼り付けしてくれた。大人も含めた多くの来館者がこれらを読み、共有することができた。
- ・未来を担う子どもやその保護者に向けた事業を提供することで、参加者同士のつながりやこどもが様々な体験をし五感を通して何かを感じてもらえていると思う。
- ・児童生徒が、地域の資源を生かした体験を行うことにより、地域を理解し様々な資源を大切に必要性を学ぶことができる。
- ・生徒が企画するボランティアへの取り組みを支援することにより、やりたいことが地域に役立つ体験ができる。
- ・小さな活動等でも大きな目標に対して貢献できた喜び、達成感が得られた。
- ・自分が住んでいる地域を知ることができて良かった。(2)
- ・地域の課題は地域で取り組む姿勢が芽生えた。
- ・あらゆる世代を対象に生涯にわたって学びを深めてもらうことで、結果として他の目標の達成を促進させ、持続可能な社会の実現に寄与している。

### (ケ)事業を行う上で感じた課題・問題点について

市町村や施設の工夫を凝らした事業展開により、参加者や職員の意識の変容等、多くの成果を得られることは先述した通りであるが、一方で、事業を展開する上で感じた課題点や、これから事業展開を計画する中で想定できる問題点等も浮き彫りとなった。[表8]は市町村の課題・問題点、[表9]は施設の課題・問題点である。

市町村の課題・問題点は、「事業に対する効果を測るのが難しい」「テーマが壮大」「講師の選定」等に関する回答があった。

施設の課題・問題点は、「職員のSDGsに関する資質の向上」「講師の選定」「自分事として捉えてもらうことの難しさ」等が挙げられた。

SDGsは世界規模の広範囲に及ぶ目標であるため、それぞれの分野に特化した講師の選定や地域住民に「自分事として捉えてもらうために」という点で、市町村・施設は苦勞していることがわかる。

[表8] 市町村で感じた課題・問題点

市町村が講座や事業等を行う上で感じた課題・問題点 ※詳細は、【巻末資料Ⅱ】資料3参照

- ・SDGsについて直接結果が見えるものではないので、事業に対する効果を計ることは難しい。
- ・テーマが壮大であり、どのような結果になれば課題解決となるのかが捉え難い。
- ・各種事業等に参画してくれる人たちの固定化、新たな担い手不足。
- ・地域ぐるみで持続可能な取り組みへ発展させるための仕組みづくり。
- ・SDGsに特化した専門の講師がいない。
- ・事業の具体的内容の立案。
- ・目標が世界的な規模で壮大に感じることで、身近な問題と捉えにくい。
- ・理想を掲げるだけで実現が難しいと感じてしまう。
- ・どのように若い世代の興味関心をひくか。
- ・市民のニーズを的確に把握し、必要な講習（講演）の講師をいかに探すか

[表9] 施設で感じた課題・問題点

講座や事業等を行う上で感じた課題・問題点 ※詳細は、【巻末資料Ⅱ】資料3参照

- ・職員のSDGsに関する認識を深める必要あり(6)
- ・SDGs普及啓発のための知識やスキルの不足(4)
- ・SDGs関連の講師選定(9)
- ・企画立案に必要な実践例、SDGs概要等の情報収集(6)
- ・SDGsの取り上げ方が難しい(6)
- ・受講者の意識に残るような工夫(2)
- ・高齢者にわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか(2)
- ・「もったいない」「結の繋がり」といったワードのほうが取り組みにつながるのでは
- ・他団体と連携しやすくなると思ったが、そうではなかった。
- ・SDGsの結果が目に見えないので事業効果が計れない
- ・参加者にSDGsはまだまだ浸透していない(5)
- ・世界規模だが、一人一人の取組は小さいため、問題意識が薄い
- ・ローマ字、カタカナは伝わりづらい&拒絶感(高齢者)(2)
- ・SDGsは何やら小難しい、ハードルが高い
- ・身近な事が世界の問題と関係していることをどう醸成するか(2)
- ・いかに自分事として捉えてもらうか(3)
- ・意外と日常生活に身近な内容なのだが…
- ・助け合い支え合いの希薄
- ・SDGsに関する取組を付加する余裕がない(5)
- ・新規事業は難しい

## (2) アンケートのまとめ

今回のアンケート調査の主たる目的は、県内市町村生涯学習・社会教育主管部局及び社会教育関連施設のSDGsに関連した取り組みの現状把握である。

まず、【調査票A】についてまとめてみると、SDGsという言葉の認知度は世代や社会教育関連の勤務年数を問わず、ほぼ100%であるが、内容まで知っているという職員は4割程度であることがわかった。17の目標、196のターゲット、232の指標と膨大な量の項目から成り立っているため、すべてを把握しきれないということや世界的規模の目標ということもあり、身近な問題として捉えにくいということが原因ではないかと推測できる。

また、回答者のほぼ全員が、SDGsの実現は現代社会において必要だと感じていることも判明した。

そして、17の目標を意識した行動についての結果については、日常生活で「意識している」「どちらかという意識している」の合計60%を超えたものは、目標6：65.5%、目標7：60.0%、目標12：77.7%、目標13：60.2%、目標14：73.4%、目標16：72.2%であること、業務で「意識している」「どちらかという意識している」の合計60%を超えたものは、目標3：63.2%、目標4：75.1%、目標11：66.2%、目標12：69.2%、目標16：60.8%であった。

日常生活と業務のそれぞれで意識している目標を比較してみると、意識に大きな差が出たものは、「目標4」（日常生活8.1%、業務46.1%（38ポイント差））と「目標14」（日常生活37.0%、業務8.1%（28.9ポイント差））であった。

【調査票B・C】については、ほとんどの市町村で、総合計画等にSDGsに関連する記載がされており、生涯学習・社会教育に関する計画の中にSDGsに関連する記載がある市町村は48.5%で、SDGsに関連した事業も同じ割合で行われていることがわかった。

また、要覧や活動計画等にSDGs関連の記載がある社会教育関連施設は2割程度であること、そして、SDGs関連の事業が行われているのは3割程度であることがわかった。

しかし、職員を対象としたSDGsの普及啓発の活動を行っている市町村は39.4%と半数以下、施設は10.8%と1割程度であることも判明し、職員への普及啓発が十分でない中で、事業が展開されていることが明らかとなった。

各市町村部局や施設の抱える課題・問題点として、「当事業がどの目標に当てはまるのかわからない」「SDGs関連の講師選定」といった企画立案に関することや「ローマ字やカタカナに対する拒絶感（高齢者）」「地域住民の問題意識が低い」などの参加者に関する課題、「どのような結果になれば課題解決となるのか捉えにくい」「直接結果が見えないので、事業に対する効果を測ることが難しい」といった事後の評価検証に関するものまで、数多く把握することができた。

#### 4 SDGsの実現に向けた社会教育の役割

今回のアンケート調査から見てきたことを基に、今後、持続可能な社会の実現に向けて社会教育がその役割を果たすために、どのようなステップを踏んで展開していったらよいのか。

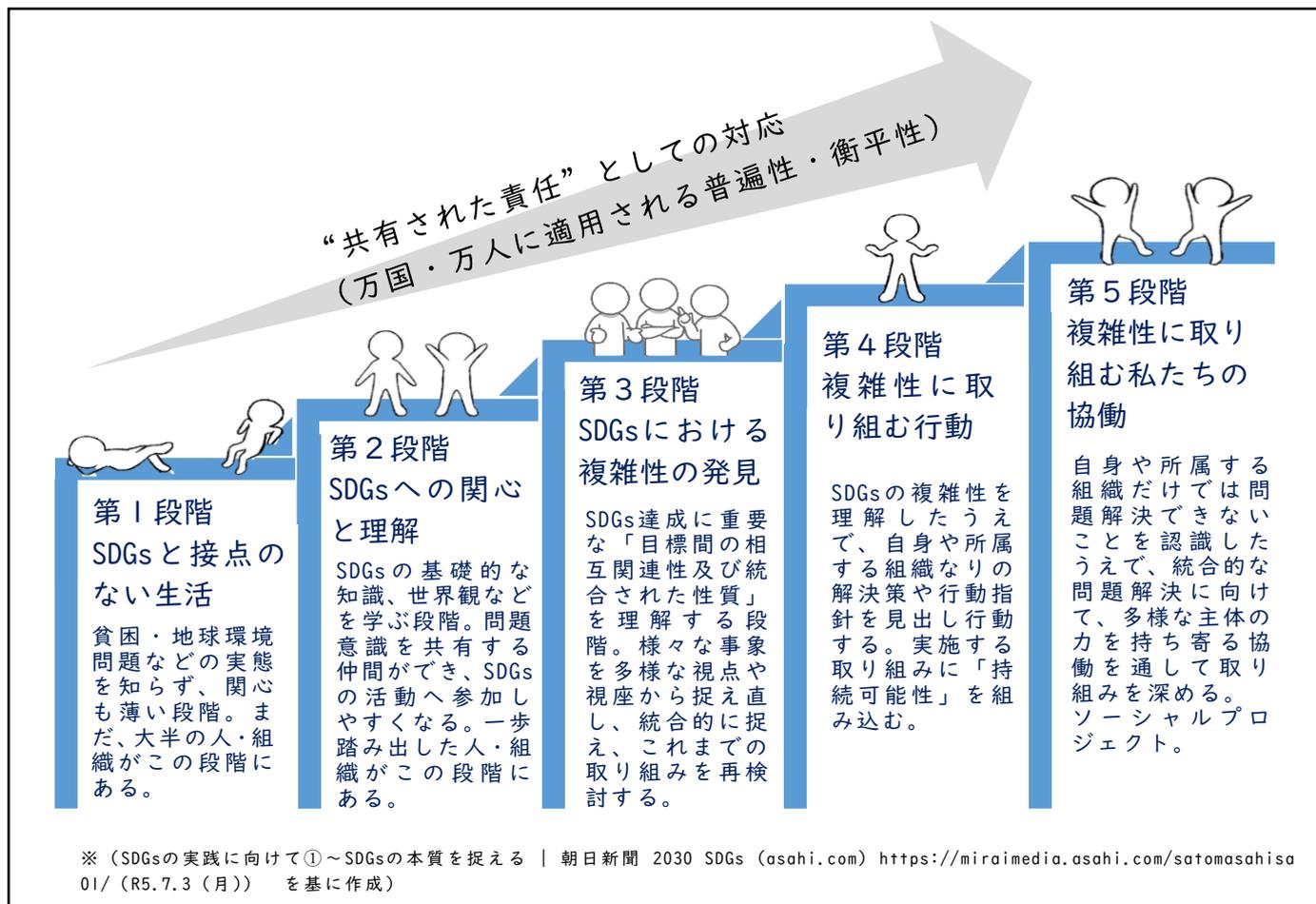
ここで、東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久氏の主張に注目したい。佐藤は「SDGsの実践に向けて①～SDGsの本質を捉える」[図8※参照]の中で、私たちがSDGsの実現に向けて、どう実践していくべきかを5つの段階に分けて述べている。

**「5つの段階」**

- ・ 第1段階：貧困や環境問題の実態を知らない、または関心が薄い状態。
- ・ 第2段階：SDGsの基礎的な知識や世界観を学び始める状態。
- ・ 第3段階：様々な事象を多角的・統合的に捉え、今までの取り組みを再検討する。  
SDGs達成に重要な「目標どうしの関連性や統合された性質」がわかる。
- ・ 第4段階：課題に対し、地域や個人の解決策を見出し行動できる。
- ・ 第5段階：個人や所属する組織だけでは解決できないことを認識し、目標17を通して多様な主体の力を持ち寄り、社会全体の問題対応力を高められる

[図8]は「SDGs実践」の5つの段階」を、図にまとめたものである。

[図8] 「SDGs実践」の5つの段階



この「5つの段階」は、SDGsの実現に向けた社会教育にこれから取り組む市町村や施設だけでなく、次のステップを計画している市町村や施設にも有用性のあるものと考え

る。  
そこで、今回のアンケート調査の結果を、「SDGs実践」の5つの段階」と照らし合わせ、本県の社会教育におけるSDGsに関する取り組みがどの段階にあるのかを明らかにし、今後、SDGsの実現に向けて社会教育の果たすべき役割について考えていきたい。

今回のアンケート調査で明らかとなった結果を、[図8]に当てはめてみると、第4段階や第5段階の取り組みを実施しているところもあるが、本県の社会教育におけるSDGsに対する意識や取り組み状況として判断すると、その多くが、これからSDGsの基礎的なことを学ぶ、取り組みに一步踏み出すというところであると思われる。よって、現段階での本県の社会教育におけるSDGsに関する意識・取り組み状況は「第2段階」にあるという判断が妥当ではないかと考える。

現時点での本県の社会教育におけるSDGsに関する取り組み状況を、第5段階までいかにして発展させるか、そのために社会教育が果たすべき役割は何なのかについて、アンケート調査を実施したことにより見えてきた視点をもとに述べていきたい。

#### 視点1 SDGsに関する職員の資質向上

SDGsの17の目標の中で、社会教育の分野において最も重視しなければならない目標は「目標4 質の高い教育をみんなに」である。

これについて、上智大学名誉教授 田中 治彦氏が、論文「SDGsと社会教育・生涯学習」の課題<sup>※16</sup>の中で、目標4のターゲット4.1~4.4は主に学校教育で、ターゲット4.5~4.6は学校教育を含めた生涯学習において実現されるべき指標であると述べている。

ターゲットに学校教育と生涯学習・社会教育において果たすべき役割について明記されていることがわかる。

[表10] 目標4のターゲット ※4.a~4.cは除く

4.1	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030年までに、全ての人が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
4.6	2030年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

※16 日本社会教育学会編『SDGsと社会教育・生涯学習』2023,所収p11, 畿東洋館出版社

また、ここで注目したいのがターゲット4.7にある「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」（以下、ESD）の推進についてである。

ESDとは、SDGsの実現のために、環境や人権、平和、多文化等、「地球環境の持続可能」と「人類社会の持続可能」の変革をするための学習である。

ESDは日本の環境教育関係のNPOが「環境教育の10年」を提唱したことがきっかけとなり、2005年より「国連ESDの10年」が展開され、提唱国の日本では、2008年改定の学習指導要領に「持続可能な社会」という言葉が登場し、ユネスコスクール<sup>※17</sup>を中心に環境教育を主体とした実践が行われた。

【全国でいち早くESDに取り組んだ都市：岡山市】

公民館を中心としたESDの実践。従来の社会教育行政の枠を超えた地域でのESDの実践。2014年には「ESD推進のための公民館・CLC国際会議」を開催。

→公的社会教育において文部科学省からESDについての具体的指針は示されなかったが、日本の社会教育・生涯学習が持続可能な世界に向けて社会変革のための学習に目を向ける契機となった。

日本社会教育学会編『SDGsと社会教育・生涯学習』p.13 より

日本がESDを提唱したことと、学習指導要領に「持続可能な社会」という言葉が登場したことによる、学校教育施策への変化について見ていきたい。

まず、学校教育とSDGsの関係性についてであるが、文部科学省は、各学校が教育課程（カリキュラム）を編成する際に基準とするものとして「学習指導要領」を定めており、時代の変化や社会情勢などを踏まえ、10年に1回の頻度で改訂されている。最近では、2020年度に小学校、2021年度に中学校、そして2022年度に高等学校の学習指導要領が改訂されている（以下、「新学習指導要領」）。

新学習指導要領は、社会の変化に柔軟に対応し、これからの予測困難な世界を生き抜くために必要な資質・能力を備えた子どもたちを育むために改定された。

今回の改訂には大きく2つの特徴がある。

1つは、児童・生徒に身につけてほしい資質・能力を育む上で「社会に開かれた教育課程」の実現を目指していることである。変化が激しく予測困難な現代では、子どもたち自身が自分の力で人生や社会をよりよくできるということを実感することが重要で、そのために「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働した教育活動を行うことが求められている。

2つ目は「持続可能」が強く意識されていることである。新学習指導要領前文には「持続可能な社会の創り手」や「社会に開かれた教育課程」などSDGsに関係する言葉が登場している。教育を通して生徒一人ひとりの資質や能力を伸ばすことだけでなく、他者と協働しながらよりよい社会を創ることが強調されていることである。

新学習指導要領 前文（抜粋）

一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

<sup>※17</sup> ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のこと。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けており、現在、世界180か国以上の国・地域で11,000校以上のユネスコスクールがある。日本国内の加盟校数は、平成17年から飛躍的に増加しており、令和元年11月時点で1,120校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大である。（ユネスコスクール：文部科学省（mext.go.jp），<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339976.htm>より）

新学習指導要領の変化に伴い教科書にもSDGsに関連する情報が加わり、教科書内のコラムや口絵にSDGsや社会問題に関する話題が多く登場することとなった。

このように、学校教育では学習指導要領や教科書レベルにおいても、SDGsの「何をどう学習していくか」が課題視され取り組みが進められているところである。

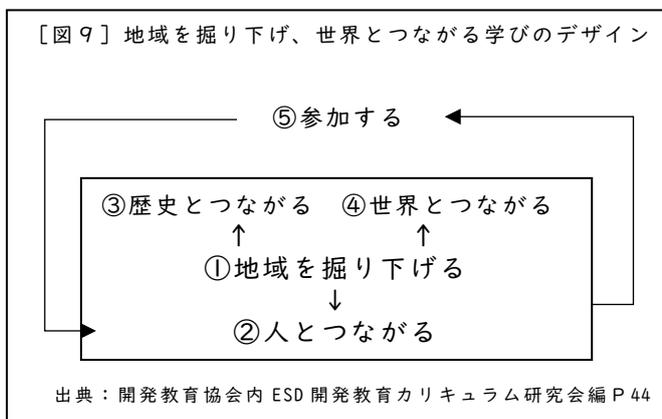
しかし、社会教育では学習指導要領や教科書のようなものは存在しない。では社会教育においては、SDGsの「どのような内容をどのような方法」で取り組みを進めていかなければならないのか考える必要がある。

先述したESDとは、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得する学習であり、自分と地域、地域と国、国と世界をつなげる学習である。[図9]

SDGsの目標は世界規模で非常に壮大なものであるが、これを地域住民が「自分事」として捉え、当事者意識をもって能動的に行動するために必要な学習の機会を提供するためにも、まずは職員のSDGsに関する資質向上を図ることが望まれる。

SDGsに関する資質の向上は、課題を把握する資質能力の向上にも繋がり、さらには住民が主体的に地域課題の解決に関わる、より質の高い学びへと繋がると思われる。

[図9] 地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン



出典：開発教育協会内 ESD 開発教育カリキュラム研究会編 P 44

## 視点2 SDGsの実現に向けた多様な主体との連携

環境・人権・経済と広範囲に及ぶSDGsの実現に向けて、学校教育では教科・領域の間の連携（カリキュラム・マネジメント）がポイントとなっており、「主体的で、対話的な、深い学び（アクティブラーニング）」を展開することで、児童生徒一人ひとりの資質や能力を伸ばすとともに、他者と協働しながらよりよい社会を創るために、様々な活動を行っている。

社会教育においては、SDGsの理解をより一層深め、取り組みを進めていくためにポイントとなるのは「多様な主体との連携」であると考えられる。

現代社会の抱える課題は分野を超えて影響しあっているため、単独の分野や特定の専門領域で取り組むことが困難になっており、これまでの解決策では対応ができないことも数多くある。これらの課題に対応するには、多様な主体の連携が必要になってくる。行政であれば部局間の連携であり、さらに、学校やNPO、民間企業等といった「異業種」間の連携である。

田中は、その連携を作り上げ、地域の学びを支える一役を担う存在として「社会教育士」について次のように言及している。

社会教育士の役割は、「学びを通じた、ひとづくり、つながりづくり、地域づくり」であり、特にファシリテーション能力、プレゼンテーション能力、コーディネート能力が必要とされており、これらの能力はSDGs学習を地域で展開するためにも大切なものである。

日本社会教育学会編『SDGsと社会教育・生涯学習』P18

社会教育に携わってきた人々が、これまで地域で築き上げてきた人間関係や信頼関係に、地域の学習を支援する新たな存在である「社会教育士」を加えて、地域課題とグローバル課題を結びつけることで、世界規模の壮大な目標に対して当事者意識をもてるような学びを構築できるのではないかと考える。

SDGsの実現に向けた社会教育の役割は、地域において学びを支え、対話を促し実践活動を広げていくことで、地域の課題解決を人類の課題解決とつなげることである。そのために、子どもたち（学校教育）をはじめとする様々な主体との連携・協働をこれまで以上に意識し、地域課題の解決に向けた取組を実施することで、あらゆる人々が多様な分野・領域で活躍できる持続可能な社会が実現するのではないだろうか。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

- (1) SDGs（持続可能な開発目標）誕生までの歴史的背景から理念、世界と日本の現状や取り組み、達成度等について、文献・資料を通じてまとめることができた。
- (2) 県内のSDGsに関する取り組みの現状を探るために、県内社会教育関係職員（事業企画担当者）、各市町村生涯学習・社会教育主管部局、県内社会教育関係施設を対象にアンケート調査を実施し、取り組みの実態と市町村や施設の抱える課題等を把握することができた。

#### 2 今後の課題

- (1) 県内外のSDGsに関連した社会教育・生涯学習の先進事例を精査し、SDGsの実現に向けて社会教育の具体的取り組みや方法について探る。
- (2) 持続可能な地域社会を創っていくための社会教育の役割や課題について整理をし、SDGsに関連した社会教育・生涯学習を推進するために、情報の充実・共有を図る。

## 主な参考文献

- 1 『SDGs見るだけノート』監修 笹谷秀光 宝島社 2020年
- 2 『3ステップで学ぶ 自治体SDGs STEP①基本がわかるQ&A』  
笹谷秀光 著 ぎょうせい (2020年)
- 3 『3ステップで学ぶ 自治体SDGs STEP②実践に役立つメソッド』  
笹谷秀光 著 ぎょうせい (2020年)
- 4 『3ステップで学ぶ 自治体SDGs STEP③事例で見るまちづくり』  
笹谷秀光 著 ぎょうせい (2020年)
- 5 『60分でわかる SDGs超入門』  
バウンド 著、功能智子 監修、佐藤寛 監修 技術評論社 (2019年)
- 6 『SDGsとまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』  
田中治彦・枝廣淳子・久保田崇 編著 学文社 (2019年)
- 7 『日本の社会教育第67集 SDGsと社会教育・生涯学習』  
日本社会教育学会編 東洋館出版社 (2023年)
- 8 中央教育審議会生涯学習分科会 第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育 (2020年)
- 9 SDGsアクションプラン2023 ～SDGs達成に向け、未来を切り拓く～ SDGs推進本部
- 10 「自治体SDGs推進評価・調査検討会令和4年度SDGsに関する全国アンケート調査結果」
- 11 SDGs実施指針改定版 SDGs推進本部 (2016年)
- 12 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020改訂版)
- 13 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた政府の取組  
外務省国際協力局地球規模課題総括課 (2020年)
- 14 『SDGsに関連した生涯学習活動推進の現状と展望に関するアンケート』  
山梨県生涯学習推進センター (2022年)
- 15 『仙台防災枠組 2015-2030 (仮訳)』
- 16 『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ (仮訳)』
- 17 『いわて県民計画2019～2028』
- 18 中央教育審議会 『人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (答申)』 (2018年)

### 研究者

社会教育主事 齋藤 剛 (主)

主任社会教育主事 佐々木真里子 (副)

社会教育主事 高橋 啓 (副)

**調査票 A**

令和5年度「SDGsに関連した取り組みの現状」に関するアンケート  
 (社会教育関係者用)

※  のセルに入力してください。

**問0 回答者の情報について入力をお願いします。** ※回答担当者の情報を公表することはありません。

市町村名	<input type="text"/>
部署名	<input type="text"/>
連絡先	E-mail: <input type="text"/>
	電話番号: <input type="text"/>

**問1 あなた（回答者）について伺います。**

(1) あなたの年齢を教えてください。

1 : 10代    2 : 20代    3 : 30代    4 : 40代    5 : 50代    6 : 60代    7 : 70代以上  
 【回答欄】

(2) 社会教育に関連する仕事の勤務経験は何年ですか（通算年）。

1 : 1年未満    2 : 1年以上3年未満    3 : 3年以上5年未満    4 : 5年以上  
 【回答欄】

(3) SDGsをどの程度知っていますか。

1 : 内容まで含めて知っている  
 2 : SDGsという言葉やロゴは知っているが、内容は詳しく知らない  
 3 : 知らない・聞いたことがない（このアンケートで初めて知った）  
 【回答欄】

(4) SDGsの実現は、現代社会において必要だと思いますか。

1 : 必要だと思う    2 : ある程度必要だと思う    3 : あまり必要だと思わない  
 4 : 必要だと思わない    5 : わからない  
 【回答欄】

(5) あなたは日常生活や業務でSDGs17の各ゴールを意識して行動（活動）していますか。各ゴールにあてはまる数字を選択してください。

5：している 4：どちらかというとしている 3：あまりしていない  
2：していない 1：わからない

※業務に関しては、例のような取り組みを職場でしている、または例のような事業・イベントを企画・担当しているといった視点でお答えください。

【回答欄】

		日常生活	業務
1.貧困をなくそう	(例：フェアトレード <sup>※1</sup> 商品を選ぶ、生活困窮者支援制度（食・教育等）について知る等)		
2.飢餓をゼロに	(例：食品ロスをなくす、フードバンク、母子栄養支援等)		
3.すべての人に健康と福祉を	(例：運動の習慣化、食生活改善、健康や福祉についての学習、健康的な生活、福祉の推進等)		
4.質の高い教育をみんなに	(例：生涯学習機会の推進、すべての人に包括的な学習会の提供、リユース文庫の活用等)		
5.ジェンダーの平等を実現しよう	(例：家事・育児・介護などの負担を平等に 等)		
6.安全な水とトイレを世界中に	(例：衛生の学習、節電・節水、石鹸・洗剤を使いすぎない等)		
7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	(例：再生可能エネルギー、節電・節水、公共交通機関の利用等)		
8.働きがいも経済成長も	(例：誰もが働ける環境づくり、地産地消、働き方改革、エシカル消費 <sup>※2</sup> 、ワーク・ライフ・バランスの実行)		
9.産業と技術革新の基盤をつくろう	(例：プログラミングスキルなど新たな知識・技術の習得等)		
10.人や国の不平等をなくそう	(例：バラスポーツに参加、お互いの違いを認め合い理解する、どんな人でも参画できる社会等)		
11.住み続けられるまちづくりを	(例：安心・安全なまちづくり、災害に備える、地域の学校などへのベルマークの寄付、清掃等の地域活動等)		
12.つくる責任つかう責任	(例：再利用、再生商品、食品ロスをなくす・ゴミの分別等)		
13.気候変動に具体的な対策を	(例：自然災害・気候変動等に関心をもつ、節電・節水、緑のカーテンの設置、公共交通機関の利用等)		
14.海の豊かさを守ろう	(例：マイバッグ・マイボトルの持参、プラスチックごみの削減等)		
15.陸の豊かさも守ろう	(例：ペーパーレス化、認証マーク入り商品の購入、植林や森づくりの活動等)		
16.平和と公正をすべての人に	(例：政治（選挙に行く）に参加する、平和への意識、公正な言動等)		
17.パートナーシップで目標を達成しよう	(例：社会課題の共有、募金・寄付等)		

※1 フェアトレード：公正・公平な貿易、開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易

※2 エシカル消費：人・社会・地域・環境等、社会的課題の解決を考慮した消費活動

- (6) (5)の日常生活の回答欄で「5：している」「4：どちらかというとしている」と回答したゴールに関連する具体的な取組をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

※ (5) の例と同じ内容でも構いません。

ゴール	具体的な取組み

- (7) (5)の業務の回答欄で「5：している」「4：どちらかというとしている」と回答したゴールに関連する具体的な取組をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

※ (5) の例と同じ内容でも構いません。

ゴール	具体的な取組み

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

## 調査票B

令和5年度「SDGsに関連した取組の現状」に関するアンケート

(生涯学習・社会教育主管部局用)

※  のセルに入力してください。

問0 回答担当者の情報について入力をお願いします。 ※回答担当者の情報を公表することはありません。

市 町 村 名	<input type="text"/>
部 署 名	<input type="text"/>
連 絡 先	E-mail: <input type="text"/>
	電話番号: <input type="text"/>

問1 貴市町村の教育振興基本計画や生涯学習推進計画等の生涯学習・社会教育に関する計画の中に、「SDGs」「ESD」「持続可能な～」等といったSDGsに関する記載をしていますか。

- 1.既に記載されている 2.次期計画で記載される予定 3.未定

【回答欄】

「1」と回答した部局→  何に?

問2 貴市町村では、職員に対してSDGsの普及啓発を行っていますか。

例) 職員向けの研修の実施 (SDGsカードゲーム等のツールを活用した体験等も含む)、SDGsロゴマークの活用 (バッチの着用等) 等

- 1.行っている 2.行う予定である 3.行っていない

【回答欄】

問3 貴部局における「SDGsに関連した取組」の実施状況について伺います。

「SDGsに関連した取組」とは、以下のとおりです。

ア. SDGsの理念や概要等の啓発を図る講座またはイベント・事業

(自治体内部職員向けの勉強会、地域住民向けのセミナー等)

イ. SDGs17のゴールに関することを要項やチラシ等に表記して行う講座またはイベント・事業

ウ. 以前から行っている講座またはイベント・事業にSDGsを関連付けているが、要項やチラシ等にSDGsに関することは表記していない

以上のことを踏まえ、次からの質問にお答えください。

(1) 現在、「SDGsに関連した取組」を行っていますか。

- 1.行っている→(2)へ 2.行う予定である→(6)へ 3.行う予定はない→(8)へ

【回答欄】

(2) 「SDGsに関連した取組」を開始した時期はいつですか。

年度～ ※複数行っている場合は、一番初めに実施したもの

(3) 貴部局において、「SDGsに関連した取組」をどのような形態で実施しているか、あてはまるものすべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	SDGsの理念や概要等の啓発を図る講座またはイベント・事業
<input type="checkbox"/>	SDGs17のゴールに関することを要項やチラシ等に表記して行う講座またはイベント・事業
<input type="checkbox"/>	以前から行っている講座またはイベント・事業にSDGsに関連付けているが、要項やチラシ等にSDGsに関することは表記していない
<input type="checkbox"/>	その他 → <input style="width: 600px; height: 30px;" type="text"/>

(4) 講座またはイベント・事業等のテーマとして取り扱ったSDGs17のゴール、または講座のチラシ等に標記したSDGs17のゴール（及び、その他）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1. 貧困をなくそう	「SDGsに関する取組」とは…の (ア) (イ) に相当するもの
<input type="checkbox"/>	2. 飢餓をゼロに	
<input type="checkbox"/>	3. すべての人に健康と福祉を	
<input type="checkbox"/>	4. 質の高い教育をみんなに	
<input type="checkbox"/>	5. ジェンダーの平等を実現しよう	
<input type="checkbox"/>	6. 安全な水とトイレを世界中に	
<input type="checkbox"/>	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
<input type="checkbox"/>	8. 働きがいも経済成長も	
<input type="checkbox"/>	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	
<input type="checkbox"/>	10. 人や国の不平等をなくそう	
<input type="checkbox"/>	11. 住み続けられるまちづくりを	
<input type="checkbox"/>	12. つくる責任つかう責任	
<input type="checkbox"/>	13. 気候変動に具体的な対策を	
<input type="checkbox"/>	14. 海の豊かさを守ろう	
<input type="checkbox"/>	15. 陸の豊かさも守ろう	
<input type="checkbox"/>	16. 平和と公正をすべての人に	
<input type="checkbox"/>	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	
<input type="checkbox"/>	<b>18. その他（SDGsの概要等を周知する取組）</b>	

(4-1) (4)で回答したもののの中で、主な講座・イベント・事業名をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

講座・イベント・事業名	関連づけたゴール		

(4-2) (4)で回答した講座・イベント・事業等を行うことで得られた成果についてお聞かせください。（受講者本人からの感想等、客観的データによるものでも構いません）

(5) 以前から実施している講座またはイベント・事業に関連づけたSDGs17のゴールについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 貧困をなくそう             |
| <input type="checkbox"/> | 2. 飢餓をゼロに              |
| <input type="checkbox"/> | 3. すべての人に健康と福祉を        |
| <input type="checkbox"/> | 4. 質の高い教育をみんなに         |
| <input type="checkbox"/> | 5. ジェンダーの平等を実現しよう      |
| <input type="checkbox"/> | 6. 安全な水とトイレを世界中に       |
| <input type="checkbox"/> | 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  |
| <input type="checkbox"/> | 8. 働きがいも経済成長も          |
| <input type="checkbox"/> | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう     |
| <input type="checkbox"/> | 10. 人や国の不平等をなくそう       |
| <input type="checkbox"/> | 11. 住み続けられるまちづくりを      |
| <input type="checkbox"/> | 12. つくる責任つかう責任         |
| <input type="checkbox"/> | 13. 気候変動に具体的な対策を       |
| <input type="checkbox"/> | 14. 海の豊かさを守ろう          |
| <input type="checkbox"/> | 15. 陸の豊かさも守ろう          |
| <input type="checkbox"/> | 16. 平和と公正をすべての人に       |
| <input type="checkbox"/> | 17. パートナリーシップで目標を達成しよう |

「SDGsに関する取組」とは…の  
(ウ) に相当するもの

(5-1) (5)で回答したもののうち、主な講座・イベント・事業名をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

講座・イベント・事業名	関連づけたゴール		

(5-2) (5)で回答した講座またはイベント・事業等を行うことで得られた成果についてお聞かせください。

（受講者本人からの感想等、客観的データによるものでも構いません）

(6) これから取り組みたいと考えているSDGs17のゴール（及び、その他）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 貧困をなくそう                      |
| <input type="checkbox"/> | 2. 飢餓をゼロに                       |
| <input type="checkbox"/> | 3. すべての人に健康と福祉を                 |
| <input type="checkbox"/> | 4. 質の高い教育をみんなに                  |
| <input type="checkbox"/> | 5. ジェンダーの平等を実現しよう               |
| <input type="checkbox"/> | 6. 安全な水とトイレを世界中に                |
| <input type="checkbox"/> | 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに           |
| <input type="checkbox"/> | 8. 働きがいも経済成長も                   |
| <input type="checkbox"/> | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう              |
| <input type="checkbox"/> | 10. 人や国の不平等をなくそう                |
| <input type="checkbox"/> | 11. 住み続けられるまちづくりを               |
| <input type="checkbox"/> | 12. つくる責任つかう責任                  |
| <input type="checkbox"/> | 13. 気候変動に具体的な対策を                |
| <input type="checkbox"/> | 14. 海の豊かさを守ろう                   |
| <input type="checkbox"/> | 15. 陸の豊かさも守ろう                   |
| <input type="checkbox"/> | 16. 平和と公正をすべての人に                |
| <input type="checkbox"/> | 17. パートナリシップで目標を達成しよう           |
| <input type="checkbox"/> | <b>18. その他（SDGsの概要等を周知する取組）</b> |

(7) (4)(5)(6)で回答した講座またはイベント・事業等を行う上で感じた問題点や課題等についてお聞かせください。

（これから行う予定の場合は、現時点または今後予想される問題点や課題等についてお聞かせください。）

--

(8) SDGsに関連した生涯学習・社会教育の推進に関してご意見等がありましたらお聞かせください。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

## 調査票C

令和5年度「SDGsに関連した取組の現状」に関するアンケート  
(社会教育施設・公民館等用)

※  のセルに入力してください。

問0 回答担当者の情報について入力をお願いします。 ※回答担当者の情報を公表することはありません。

市町村名	<input type="text"/>
施設名	<input type="text"/>
連絡先	E-mail: <input type="text"/>
	電話番号: <input type="text"/>

問1 貴施設の要覧や活動計画等の中に、「SDGs」「ESD」「持続可能な～」等といったSDGsに関する記載をしていますか。

- 1.既に記載されている 2.次年度で記載される予定 3.未定

【回答欄】

「1」と回答した部局→ 何に?

問2 貴施設では、職員に対してSDGsの普及啓発を行っていますか。

例) 職員向けの研修の実施 (SDGsカードゲーム等のツールを活用した体験等も含む)、SDGsロゴマークの活用 (バッジの着用等) 等

- 1.行っている 2.行う予定である 3.行っていない

【回答欄】

問3 貴施設における「SDGsに関連した取組」の実施状況について伺います。

「SDGsに関連した取組」とは、以下のとおりです。

ア. SDGsの理念や概要等の啓発を図る講座またはイベント・事業  
(自治体内部職員向けの勉強会、地域住民向けのセミナー等)

イ. SDGs17のゴールに関することを要項やチラシ等に表記して行う講座またはイベント・事業

ウ. 以前から行っている講座またはイベント・事業にSDGsを関連付けているが、要項やチラシ等にSDGsに関することは表記していない

以上のことを踏まえ、次からの質問にお答えください。

(1) 現在、「SDGsに関連した取組」を行っていますか。

- 1.行っている→(2)へ 2.行う予定である→(6)へ 3.行う予定はない→(8)へ

【回答欄】

(2) 「SDGsに関連した取組」を開始した時期はいつですか。

年度～ ※複数行っている場合は、一番初めに実施したもの

(3) 貴部局において、「SDGsに関連した取組」をどのような形態で実施しているか、あてはまるものすべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	SDGsの理念や概要等の啓発を図る講座またはイベント・事業
<input type="checkbox"/>	SDGs17のゴールに関する内容を要項やチラシ等に表記して行う講座またはイベント・事業
<input type="checkbox"/>	以前から行っている講座またはイベント・事業にSDGsを関連付けているが、要項やチラシ等にSDGsに関する内容は表記していない
<input type="checkbox"/>	その他 → <input style="width: 600px; height: 30px;" type="text"/>

(4) 講座またはイベント・事業等のテーマとして取り扱ったSDGs17のゴール、または講座のチラシ等に標記したSDGs17のゴール（及び、その他）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1. 貧困をなくそう	「SDGsに関する取組」とは…の (ア) (イ) に相当するもの
<input type="checkbox"/>	2. 飢餓をゼロに	
<input type="checkbox"/>	3. すべての人に健康と福祉を	
<input type="checkbox"/>	4. 質の高い教育をみんなに	
<input type="checkbox"/>	5. ジェンダーの平等を実現しよう	
<input type="checkbox"/>	6. 安全な水とトイレを世界中に	
<input type="checkbox"/>	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
<input type="checkbox"/>	8. 働きがいも経済成長も	
<input type="checkbox"/>	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	
<input type="checkbox"/>	10. 人や国の不平等をなくそう	
<input type="checkbox"/>	11. 住み続けられるまちづくりを	
<input type="checkbox"/>	12. つくる責任つかう責任	
<input type="checkbox"/>	13. 気候変動に具体的な対策を	
<input type="checkbox"/>	14. 海の豊かさを守ろう	
<input type="checkbox"/>	15. 陸の豊かさも守ろう	
<input type="checkbox"/>	16. 平和と公正をすべての人に	
<input type="checkbox"/>	17. パートナリシップで目標を達成しよう	
<input type="checkbox"/>	<b>18. その他（SDGsの概要等を周知する取組）</b>	

(4-1) (4)で回答したもののうち、主な講座・イベント・事業名をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

講座・イベント・事業名	関連づけたゴール		
<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>			
<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>			
<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>			

(4-2) (4)で回答した講座・イベント・事業等を行うことで得られた成果についてお聞かせください。（受講者本人からの感想等、客観的データによるものでも構いません）

(5) 以前から実施している講座またはイベント・事業に関連づけたSDGs17のゴールについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 貧困をなくそう             |
| <input type="checkbox"/> | 2. 飢餓をゼロに              |
| <input type="checkbox"/> | 3. すべての人に健康と福祉を        |
| <input type="checkbox"/> | 4. 質の高い教育をみんなに         |
| <input type="checkbox"/> | 5. ジェンダーの平等を実現しよう      |
| <input type="checkbox"/> | 6. 安全な水とトイレを世界中に       |
| <input type="checkbox"/> | 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  |
| <input type="checkbox"/> | 8. 働きがいも経済成長も          |
| <input type="checkbox"/> | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう     |
| <input type="checkbox"/> | 10. 人や国の不平等をなくそう       |
| <input type="checkbox"/> | 11. 住み続けられるまちづくりを      |
| <input type="checkbox"/> | 12. つくる責任つかう責任         |
| <input type="checkbox"/> | 13. 気候変動に具体的な対策を       |
| <input type="checkbox"/> | 14. 海の豊かさを守ろう          |
| <input type="checkbox"/> | 15. 陸の豊かさも守ろう          |
| <input type="checkbox"/> | 16. 平和と公正をすべての人に       |
| <input type="checkbox"/> | 17. パートナリーシップで目標を達成しよう |

「SDGsに関する取組」とは…の  
(ウ) に相当するもの

(5-1) (5)で回答したもののなかで、主な講座・イベント・事業名をお聞かせください。（主なものを3つ以内で回答ください）

講座・イベント・事業名	関連づけたゴール		

(5-2) (5)で回答した講座またはイベント・事業等を行うことで得られた成果についてお聞かせください。

（受講者本人からの感想等、客観的データによるものでも構いません）

(6) これから取り組みたいと考えているSDGs17のゴール（及び、その他）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 貧困をなくそう                      |
| <input type="checkbox"/> | 2. 飢餓をゼロに                       |
| <input type="checkbox"/> | 3. すべての人に健康と福祉を                 |
| <input type="checkbox"/> | 4. 質の高い教育をみんなに                  |
| <input type="checkbox"/> | 5. ジェンダーの平等を実現しよう               |
| <input type="checkbox"/> | 6. 安全な水とトイレを世界中に                |
| <input type="checkbox"/> | 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに           |
| <input type="checkbox"/> | 8. 働きがいも経済成長も                   |
| <input type="checkbox"/> | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう              |
| <input type="checkbox"/> | 10. 人や国の不平等をなくそう                |
| <input type="checkbox"/> | 11. 住み続けられるまちづくりを               |
| <input type="checkbox"/> | 12. つくる責任つかう責任                  |
| <input type="checkbox"/> | 13. 気候変動に具体的な対策を                |
| <input type="checkbox"/> | 14. 海の豊かさを守ろう                   |
| <input type="checkbox"/> | 15. 陸の豊かさも守ろう                   |
| <input type="checkbox"/> | 16. 平和と公正をすべての人に                |
| <input type="checkbox"/> | 17. パートナリシップで目標を達成しよう           |
| <input type="checkbox"/> | <b>18. その他（SDGsの概要等を周知する取組）</b> |

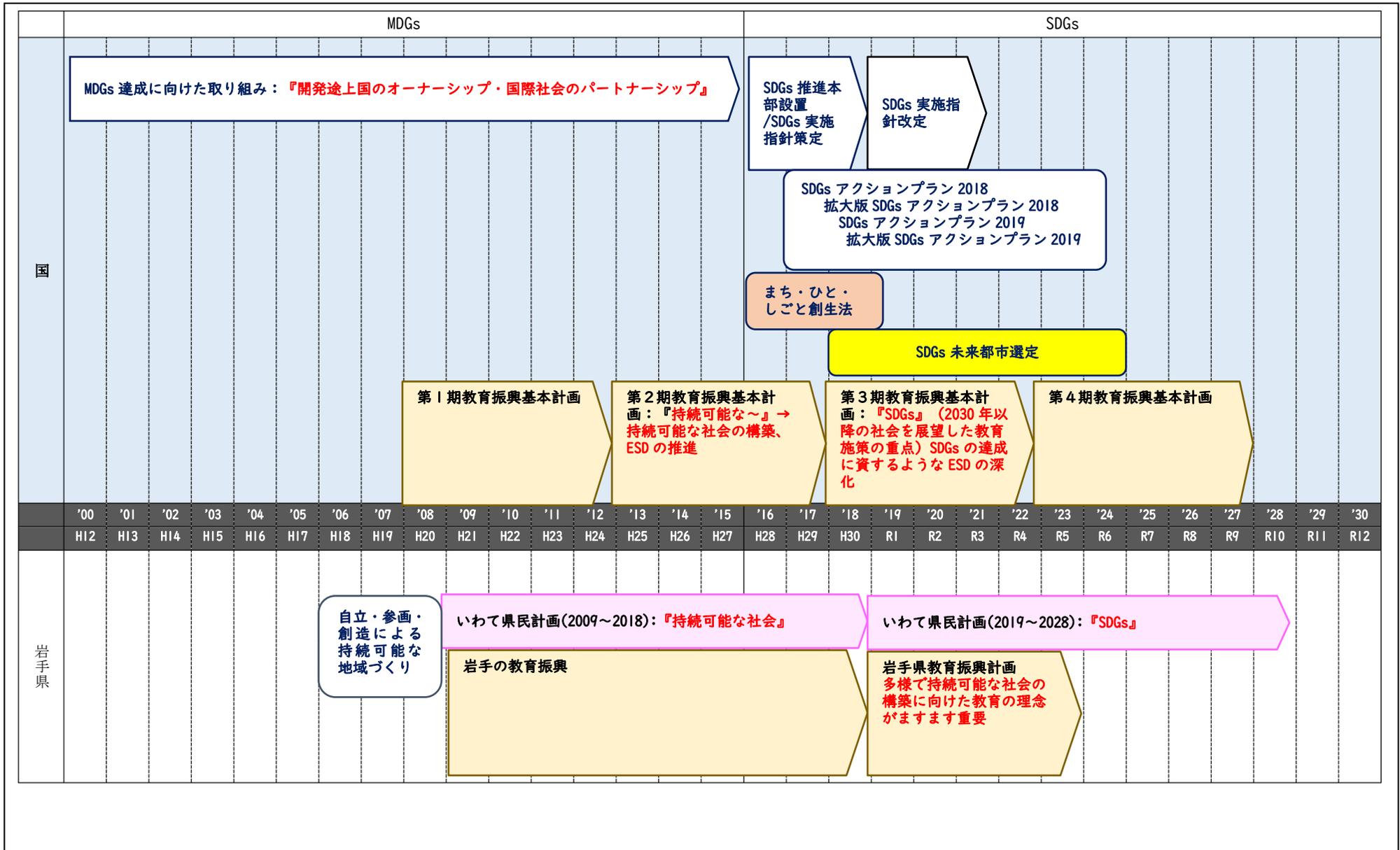
(7) (4)(5)(6)で回答した講座またはイベント・事業等を行う上で感じた問題点や課題等についてお聞かせください。

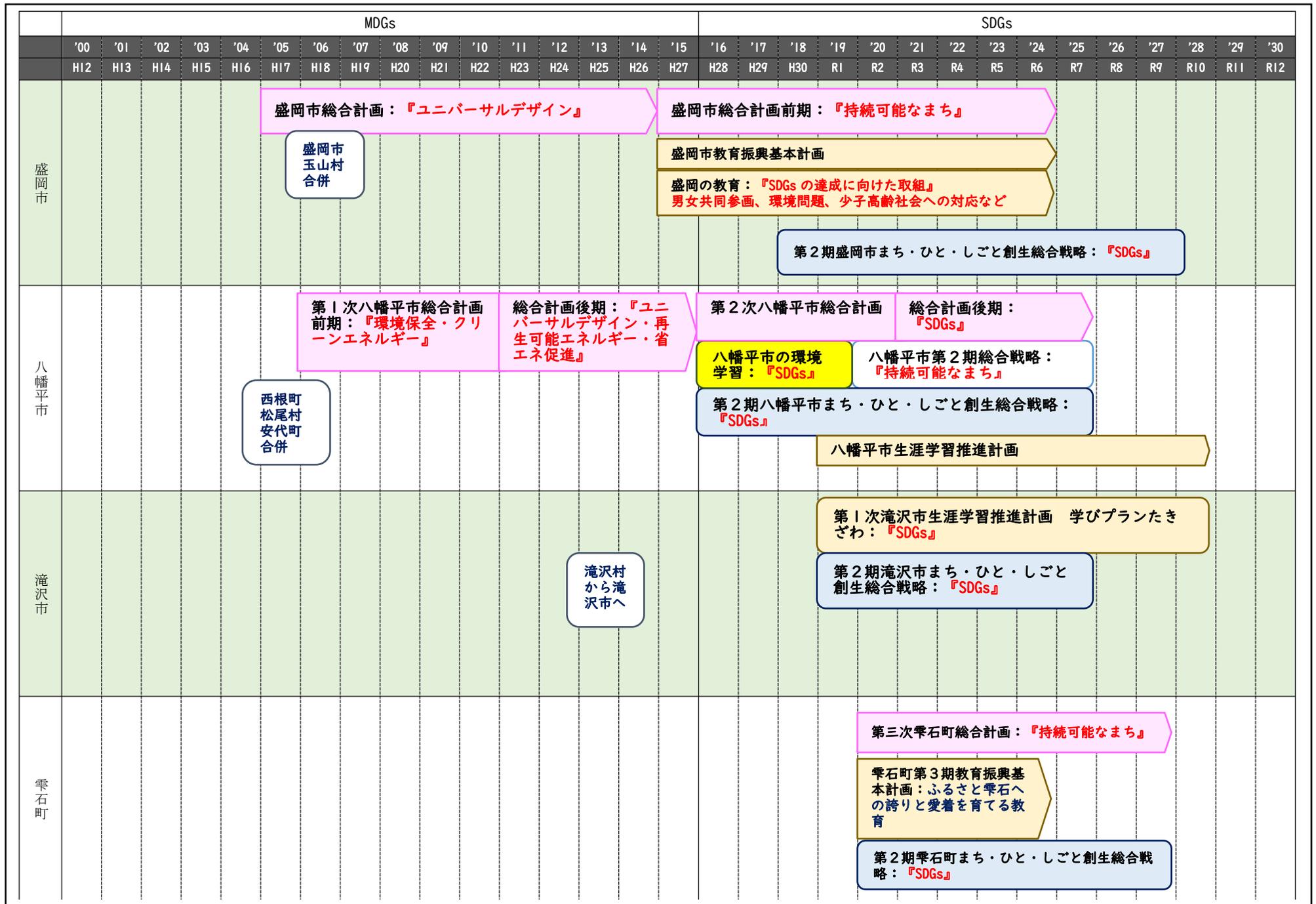
（これから行う予定の場合は、現時点または今後予想される問題点や課題等についてお聞かせください。）

(8) SDGsに関連した生涯学習・社会教育の推進に関してご意見等がありましたらお聞かせください。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

資料Ⅰ 国・県・市町村の総合計画等一覧



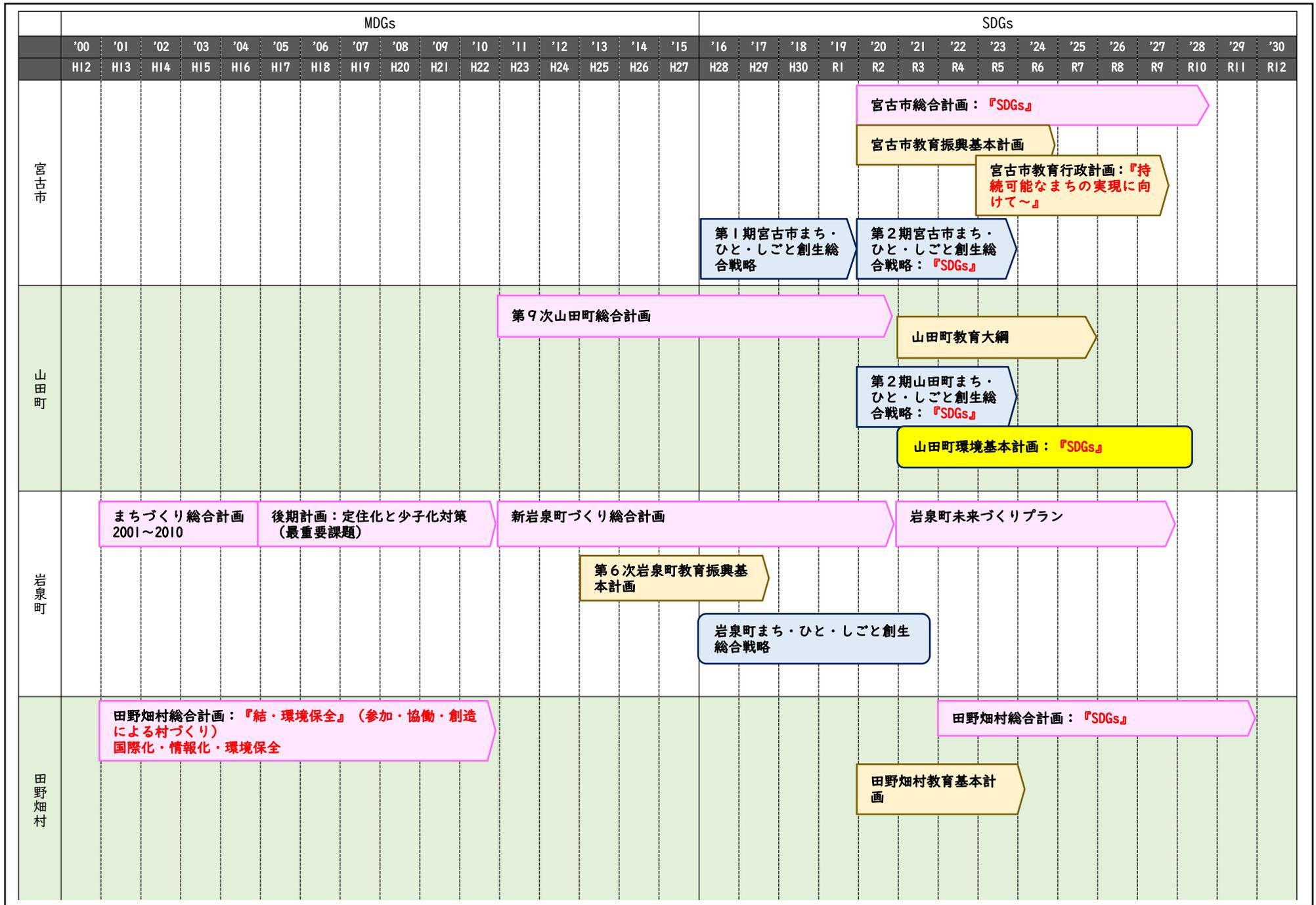


	MDGs															SDGs																			
	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30				
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12				
葛巻町																	葛巻町総合計画			中期基本計画：『SDGs』															
																																	第2期葛巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進計画：『SDGs』		
																																	第8次葛巻町生涯学習推進計画		
岩手町																	岩手町総合発展計画前期			総合発展計画後期：『ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーション・多様性への対応』						岩手町総合計画：『SDGs』									
																																	岩手町教育振興基本計画		
																																	第2期岩手町まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』		
																																	岩手町 SDGs 未来都市計画：『SDGs』		
紫波町	紫波町総合計画 快国宣言のまち：『循環型社会・環境マネジメント・ノーマライゼーション』															第二次紫波町総合計画：『循環型社会・協働』						第三次紫波町総合計画：『SDGs』													
																																	第2期紫波町教育大綱		
																																	紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』		
																																	紫波町社会福祉協議会 SDGs 宣言：『SDGs』		
矢巾町																																	第2期矢巾町教育振興基本計画：『SDGs』『ESD』：目標4の実現のため～、ESDの推進、教育委員会と各小中学校が連携して		
																																	矢巾町役場 SDGs アクションプラン（第1期）：『SDGs』		

	MDGs															SDGs																												
	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30													
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12													
花巻市																	花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン					花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン 骨子：『SDGs』																						
																	花巻市 大迫町 石鳥谷町 東和町 合併		花巻市まちづくり総合計画 第3期中 期プラン：『SDGs』																									
																	第2期花巻市教育振興基本 本計画					第3期花巻市教育振興基本計 画：『SDGs』に基づく実践																						
遠野市																	遠野市総合計画					第2次遠野市総合計画基本 構想					総合計画後期：『SDGs』																	
	遠野未来デザイン2010：『地域・世代・性別・障がいの 有無などの垣根を超えて～』																																		遠野の教育									
北上市																																			北上市総合計画：『SDGs』					北上市教育振興基本計画：『SDGs』 基本方針①→目標1・4・5連動 基本方針②→目標3・4連動				
西和賀町																	西和賀町総合計画					第2次西和賀町総合計画					総合計画後期：『SDGs』																	
																	湯田町 沢内村 合併					西和賀町教育振興基本計画					西和賀の教育																	

	MDGs															SDGs																			
	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30				
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12				
奥州市	水沢市総合計画（新しい風21・水沢）：IT戦略・協創・協働										水沢市 江刺市 前沢町 胆沢町 衣川村 合併					第2次奥州市総合計画：『持続可能な』					後期基本計画：『SDGs』														
																奥州市教育振興基本計画：持続可能な社会をどのように構築していくかが課題					奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』					奥州市版 SDGs：『SDGs』									
金ヶ崎町																第十次金ヶ崎町総合発展計画					第十一次金ヶ崎町総合発展計画：『SDGs』					金ヶ崎町教育振興基本計画 金ヶ崎町教育振興基本計画：この計画はSDGsとの関連を示すことにより、国際協調を図りながら推進する計画									
一関市																一関市総合計画 前期基本計画					後期基本計画：『SDGs』					一関市教育振興基本計画：持続可能な社会の担い手の育成のため、児童生徒のSDGsの理解促進を図り、様々な教育活動に関連させSDGsの普及を図る					『SDGs』SDGs 未来都市計画				
平泉町																一関市 藤沢町 合併					第5次平泉町総合発展計画（新平泉町総合計画）：『ICT・新エネルギー・3R』					第6次平泉町総合計画：『SDGs』					平泉町まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』				
																					平泉町教育大綱：持続可能な														





	MDGs															SDGs																	
	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30		
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
久慈市							第1次久慈市総合計画					後期基本計画：『ノーマライゼーション・女性リーダー』					第2次久慈市総合計画					後期基本計画：『SDGs』											
																	久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略					第1期久慈市市教育振興基本計画：『持続可能な地域づくり』											
洋野町																	第2次洋野町総合計画										洋野町教育大綱						
																	第2期洋野町まち・ひと・しごと創生総合戦略																
野田村																	野田村総合計画										野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略						
																	第4次普代村総合発展計画										第5次普代村総合発展計画：『SDGs』						
普代村																	普代村まち・ひと・しごと創生総合戦略：『SDGs』																



## 資料2 市町村の成果

成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>管内女性団体のリーダーが一堂に会し、各地区の活動状況や現状を共有する機会となった活動事例を今後の活動に生かすための機会ともなり、資質向上に寄与した</li> <li>岩手県立大学看護学部長福島裕子氏の講演「性暴力被害の現状と課題～女性が声をあげることができる社会を目指して」を拝聴し、「女性としての尊厳を守ることの重要性を強く感じた」、「性の観点からも生き方を考えていかなければいけないと思わせる切実な内容であった」などの率直な感想があった</li> </ul>
LGBTQ+の理解や、無意識の偏見・差別発言等について再認識につながったと思う
従来から実施してきた社会教育・生涯学習の取り組み自体が、ゴール4「質の高い教育をみんなに」を体現している
ゴールを位置付けることで、ねらいを明確にすることができた
各市民センターにおいて、SDGsの理念が含まれた生涯学習や社会教育に関する様々な事業を実施している
幅広い世代を対象とした学習の機会を提供するなど、SDGsの取り組みを促進している
世界文化遺産・地域遺産・伝統文化から地域の産業、人々の暮らし等、全ての地域資源を学習教材として捉え、子どもたちを中心に発達段階に応じた学習機会を提供し、持続可能なまちづくりの基盤となる「郷土への愛着と誇りの醸成」を図る取り組みとして定着している
様々な学習活動の提供を推進できた
個々の学習成果を、地域や他の方の学習に還元できるように進めているが、個人の満足のみ重点がおかれ、全体の取組みへと発展することが難しいと感じている
幅広い年代の市民に対し生涯学習の機会を提供することができた。特に中学生向けの事業(芸術鑑賞, 楓蔭舎きぼう塾)については、知的好奇心を高め進路を考える一助となったものと思われる

## 施設の成果

成 果
以前から実施している事業を、現在も継続していますので同一の回答となります
紙すき体験、飾炭作り、野外炊事等の活動プログラム等を通して、森の木々と人間の生活との結びつきに気づき、自然を大切にしようという心の育成と環境保全に対する意欲換気の一助となった
自然観察講座では、自然の素晴らしさと栗やキノコなどの自然の恵みを実感することができたまた、地元の自然を大切に守っていく必要があるといった感想をいただいた
当事者や当事者団体が多く参加され、地域を越えて横のつながりを提供できた
魅力あるイベントや講座を企画することで集う場の提供や生きがい対策の機会となった
はこ庭を作成させ、作品のテーマを発表させることで世界を考えるきっかけになれた
合成洗剤よりEM石鹼のほうが汚れが落ちやすく消臭効果も大きかった
SDGsの目標を前面に掲げた講座ではありませんが、講座実施の際、趣旨・目的がSDGsの目指す目標に合致しているか、担当者が理解することで、受講生にもその意義が伝わると考えています
自然環境を守ることの大切さを学んだ リサイクルの意識を高めた 防災意識を高めるのに役立った
親子でクリスマスケーキを作ることで、食に対する興味や関心を高めることができたまた、親にとっては子どもの成長を実感する機会となり、子どもにとっては、創造力を高める機会となった
趣味の講座やニュースポーツを開催することで、年齢や集落を超えた交流が出来るので、引き続

き各種講座は継続していくこれが地域を育てる継続可能な社会づくりにつながる
健康に心がけたいためになった環境にやさしい生活を心がけたい
今後、意識していきたいとの感想が多数あった
・分別講習会では「勉強になった」「いい機会だった」 ・ニュースポーツ交流会では「初めてだったが楽しかった」
・クリーンエネルギーの大切さが良くわかった廃棄物の利用、風の利用、すごくわかりやすく説明してもらった ・気候変動でSDGsが話題になる昨今、今日のように自然エネルギーについて学ぶ機会を得られて大変良かったと思う今後の自分の生活で少しでも地球にやさしい暮らしを心掛けていきたい
地区民が参画するイベントを開催することにより地域に賑わいがうまれた
地域防災・減災の意識が向上した 健康的な食生活の意識が向上した
保健師を講師に招いて地域住民へ健康に関わる知識や実践を教授する健康まつりの開催で、その意識向上を図れた
企画展の期間中、衣川セミナーハウス図書室の来場者数は1,1人を超えていたため、SDGsの内容等が多くの人々の目に留まったと考えている
ペットボトルキャップを出す目的で来館する程に定着している
子どもの居場所づくり事業（こども食堂）を223年7月より月1回開催している
健康講座や軽スポーツ教室では様々な運動を行うため、楽しく参加してもらえているまた、ウォーキングなどは継続している方もおり、健康維持につながっていると感じる真城大学や女性ゼミナールは、様々な内容で展開しており、その都度参加者の学びになっているようだ防災研修は、いつ発生するかわからない災害等に備えるため開催している繰り返し行うことで有事の際も対応できるのではないか
集落代表者（自主防災会長）の皆さんはほぼ毎年変わるため、毎年継続して行うことで意識づけの機会になっている
一人一人が健康寿命を延ばしQOLの向上に努めていると感じる
地域全体でDXに取り組み、情報弱者にならないよう支え合っている
景観を維持する・地域全体で防災訓練を実施することで『郷土愛を継承する』『災害に備える』を実現し、安心・安全な地域づくりをしている外部・内部の人材による地域の困りごと解消を目的としたボランティアセンターを運営し、人口減少・高齢化となっても住み続けられる地域づくりに取り組んでいる
未来を担う子どもやその保護者に向けた事業を提供することで、参加者同士のつながりやこどもが様々な体験をし五感を通して何かを感じてもらえている
ウォーキングやグランドゴルフ大会等は健康のため継続実施してほしい女性生活学級の創作活動は多彩な内容にて実施されている
教室に参加したことによって日々の料理のバリエーションが広がった
受講者同士の交流を深められたほか、年間の講座を通して知識を深めることが出来た
健康の保持、増進につながっている 地域住民との交流が図られている
ゴミを資源ととらえ、今後は細かな分別を行っていきたい(感想)
あらゆる世代を対象に生涯にわたって学びを深めてもらうことで、結果として他の16の目標の達成の促進させ、持続可能な社会の実現に寄与している
トレッキング「天気が良くて〇〇に行けて良かった」「次は、〇〇に行きたい」・プログラミング教室「子どもたちは出来上がったゲームを楽しむのではなく、創る事の楽しさに没頭してました」・陶芸教室「初めてにしては上手にできた来年も参加したい」
地域の方々が個人で回収場所に持参するように定着し、更に事業の目的も地域に定着している
男の料理教室では、減塩や健康を意識した献立を採用し、参加者から「勉強になる塩分の摂りすぎなど家庭でも出来る内容が学習できた」等好評であった

ウォーキング等運動の習慣が付き、健康に対する意識が高まった 関心のある講座を受講することで、学習への意欲が高まった 等
体が元気な限り次回も参加したいという声を多くいただく
自治会の抱える課題の洗い出し、現状把握からできることを学びながら、地域の活性化に努めていきたいと思う
健康に対する意識付け、生涯学習への意欲の喚起につながっていると思う、また、地域の環境保全については、担い手の減少が続いている中で、地域全体の取り組みとして継続していくことが必要と思う
創作や音楽による健康志向やコミュニケーションに意識した内容があり、特に高齢者の方が新たな趣味にしたり、地域外からの参加も多く、サークル団体を結成している「手先を動かす、声を出せる機会はとてもいい」とか「友だちができた」と声が寄せられる
食の大切さを学び食品ロスをなくす 自然災害・気候変動に関心をもち災害に備える 生涯学習機会の推進
継続して学ぶこと、体験することにより生活に潤いを与え、充実した日々をおくれることができる
運動の習慣化（体操・ウォーキング等）については、長い間、事業継続で来ていること社会的な課題については、テーマを設定して事業化している
高齢者のフレイル予防、外出機会の提供に役立っているIT化社会に可能な範囲で生活を豊かにすることができる低年齢世代からプログラミングの体験ができることは人間力の向上に有効
食品ロスをなくす、食生活改善、地産地消、 安心・安全なまちづくり、災害に備える、 清掃等の地域活動
アンケート結果から、健康や趣味教養に対する関心が高いと感じた
高齢者の活動の交流活動を重点的に考え実施している、講座、サークルに参加する楽しみ、
ポッチャ大会（地域の皆さんと交流が出来たし健康的になった） 住民自治の在り方を考えるまちづくり（これから本格的に進めるところ）
「地質観察会」…学芸員方々の説明がとても分かり易く、石の割り方から化石の採集までとても楽しめました（アンケートより）、 「三陸ジオパーク関連展示」…解説内容が施設周辺の目視可能な自然環境が教材となるよう工夫されており、観光等で訪れた来館者の満足度向上に貢献している 「ジオパークかわらばん」…令和3年までは市独自の「しぜんかわらばん」事業であったものが、令和4年度より三陸ジオパークとしての活動となり、県事業となることで対象自治体に実施エリアが広がった
運動と交流で高齢者が生き生きとなっている 日々の活動への意欲を高め、高齢者を元気にさせるのに大いに役立っている 作法のみでなく精神の成長にもつながり効果が上がっている 参加者が提供された材料で、自分なりの門松を作って喜びを感じるだけでなく、地域住民の交流の場になっている
SDGs 達成のために貢献できることを考えるきっかけとなった
普段触ることのない楽器を使って学んだことで、質の高い体験ができた
児童生徒が、地域の資源を生かした体験を行うことにより、地域を理解し様々な資源を大切に必要性を学ぶことができる生徒のボランティアへの取り組みを支援することにより、できると受け手のニーズを考え、Win-Winの関係を築き主体的に取り組むことを学ぶ
・小学生を対象とした事業であり、絶滅危惧種に指定されている希少なチョウが地域に生息していることや地域の方がチョウを保全していること学び、自然環境の大切さについて知る機会となっている ・スポーツイベントを通じて、生涯にわたる健康意識の向上が図られる
地域の資源を生かした講座を行うことにより、省エネを促進し持続可能な地域社会への理解を推

進できたまた生徒が企画するボランティアへの取り組みを支援することにより、やりたいことが地域に役立つ体験ができる

- ・芸術文化公演の鑑賞により、住民の心の豊かさを育むことができた
- ・質の高い教育の機会を提供することにより、住民の生涯学習の意欲を高めることができた

祭という一つの目標に向かって、全員で力を合わせて毎年取り組んでおります  
少子高齢化が進み参加者をどのように増やして継続していくかが今後の課題ですそして地域の持続可能な資源としても考えていく必要があると思います

地域のことを考える機会が出来て良かった

食品ロスやごみ分別等のリサイクルの話聞き、環境への配慮の重要性を改めて認識した衣類等のリメイクにより完成度の満足感に再利用の必要度を認識した川の豊かさを確認することで自然の大切さを知ることができた

研修講師に現場の事例等を交え講義いただく参加者からは、各研修で新たに得た知識や理解を深めた研修内容について、公民館の管理運営や事業に取り入れ活かしていきたいとの発言がありました

LGBTQ+の理解や、無意識の偏見・差別発言等について再認識につながったと思う

ウォーキング教室を定期的で開催することにより、運動習慣の意識づけを行うことができた

・皆で楽しく体を動かす良い機会となり、普段から健康を意識するようになった ・学びのある内容だった 等の感想があった

町民の文化芸術活動を推進した

様々な学習活動の提供を推進できた

防災意識の啓発が図られた

町にこんな立派なバイオマス発電所があることは知らなかったとても勉強になりました森林のことはなかなか聞くことがないのでとても良かったです

運動するきっかけとなった

### 資料3 市町村の課題・問題点

講座や事業等を行う上で感じた課題・問題点
高校生等を対象としているSDGsセミナーについて、SDGsの概要を周知、学習する内容の需要が下がってきている学校において、SDGsの概要を学ぶ機会が増えていることが原因と思われる今後は、SDGsの17の目標の中からターゲットを絞り、より具体的で興味関心を刺激する内容のセミナーを考えていく必要がある
SDGsについて、直接結果が見えるものではないので、事業に対する効果を計ることは難しいが、継続して17のゴールに関することを要項やチラシ等に表記して講座を行っていくことが大切だと思う
SDGsのゴールを設定することが目的になってしまうこと、ゴールを設定することで、ねらいとして設定する言葉が定型化してしまうこと
テーマが壮大であり、どのような結果になれば課題解決となるのかが捉え難い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとの関連性が主催者と参加者（学習者）との間で共有されていない</li> <li>・各種事業等に参画してくれる人たちの固定化、新たな担い手不足</li> <li>・地域ぐるみで持続可能な取り組みへ発展させるための仕組みづくりが必要となっている</li> </ul>
SDGsに特化した専門の講師がいない
事業の具体的内容の立案
野外活動なので、天候に左右される
講座への参加者の増加
「SDGs」や「持続可能な開発目標」など、言葉が難しいと感じるとともに、目標が世界的な規模で壮大に感じることで、身近な問題と捉えにくい理想を掲げるだけで実現が難しいと感じてしまう
講座や講演会を開催すると若い世代の参加が少なく、どのように若い世代の興味関心をひくか、またどのような時間設定がいいのか検討が必要
<ol style="list-style-type: none"> <li>①市民のニーズを的確に把握し</li> <li>②必要な講習（講演）の講師をいかに探すか</li> </ol>
具体的にどのような講座や取組が必要なのか、その講座やイベントを開催した時に参加者があのかなど実施に向けた検討が必要である

### 施設の課題・問題点

課題・問題点
課題ではないが、現在連携している関係機関と今後も協力し事業を実施したい
当施設の性格上、SDGsの取り組みを前面に出すことは難しいが、主催事業だけでなく、各種野外体験プログラムの中でも、ゴールにつながる気付きを持たせていくことはできるそのための価値の位置づけや声かけ、働きかけを工夫していきたい
SDGsを前面にした講座は受講生の確保が難しいため、体験型等の工夫をしている 回を重ねるごとにアプローチの方法に苦慮すると思われる
高齢者の利用が多い公民館なので、英語表記や横文字表記の言葉に拒絶感を持つ可能性があるため、丁寧に説明して実施していきたい
SDGsという共通ゴールを掲げることで他分野の団体と連携した事業展開がしやすくなると期待していたが、他団体とのつながりが少なく連携を取ることが困難
SDGsの取り上げ方が難しい
SDGsの理念を理解していただくことを主目的とした講座ではなく、従来行っている講座をSDGsに関連付けして運営していることから、参加者にSDGsへの深い理解を得られていない

ように感じる
過疎化、高齢化が顕著な地域のため、年々、参加者の減少が見込まれる
既存の講座でもSDGsの全ての目標を掲げて取り組んでいます、受講生の意識に残るためには、もうひと工夫必要と考えています
講座開催の際の開講式で当講座のSDGsの内容についての説明を少しでもできればよかったと思う
参加者がSDGsについてどれだけ意識しているか、概要などをどのように啓発していくかが課題である
小学生にSDGsは難しいため、親子参加型が効果があると思われる
職員個人それぞれにおいて、SDGs等に関する認識を深める必要があること
SDGs17のゴールにつながるような、地域の課題を自覚して、それを生涯学習事業に繋げて行けるかどうか課題となる
参加者の確保が課題となっている
地域住民がそれほど関心を持っていない講座を開いても集まらない（参加者が少ない）
講師選定や講座内容をどうするか、情報収集の必要あり
普段提供している生涯学習の参加者の多くが、概ね60才以上という中で「SDGs17」についての理解と興味を思うと、個人差が大きいと感じます健康や介護、認知予防などに感心が高いので、まずはゴール3や2などに関連した講座を企画したいと思います
(6)-1 講座やイベントの開催方法が難しい (6)-5 高齢者等の理解度が難しい (6)-13 関心度は高いと思われる、具体的対策とは何かから考えたい
「SDGs」と言われると、なにやら小難しく聞こえ、感じハードルが高く感じる実際に一つ一つの項目を見てみると、意外と普段の生活に身近な内容だと気付けるのだが
SDGsの認知度がまだ低いことから関心を得られにくい
これまでの多様で豊かな表現の発信、受容性や社会的包摂性、対等なパートナーシップなどの促進に向けた事業を実施してきており、SDGsに特化した取組には違和感がある一方、物理的な点としては、施設改修に伴い、省エネ・脱炭素に向けた検討をしているが、改修費用が高額となり、財源確保が課題となると予想
今年度の岩手県の県民調査で現在の自分が「幸福」と感じている人が地域差はあるが56%と予想以上に高かったしかし世界的にも貧困や飢餓は多くの問題を含み、戦争や紛争により更に深刻な問題となっているその中で身近な問題としてどうとらえていくかが難しい
参加者が集まらない（特に若年層、勤労世代）
例えば、ゴミ分別等についての働きかけで、これだという実施事例を真似たいが、知り得ない努力不足でしょうが紹介願いたい
なるべく多くの方の参加推進
職員に対してSDGsを意識させ、教育する機会を持たなければならない
いろいろな持続可能な事を模索しながら活動を実施
専門家を招いて話を聞く
より多くの参加を募る手立て
課題 周知方法の工夫いかにして関心を持つ人に集まっていたか 一般地区民の多数参加は見込みにくいテーマと感ずるため
啓発活動不足を感じる
現在取り組んでいる事業にSDGsに関する取り組みを付加する余裕がない
現在取り組んでいる事業にSDGsに関する取り組みを付加する余裕がない
身近な事が世界の様々な問題と関わっていることをいかに醸成していくか = 自分の行動

が、巡り巡って世の中を変える一歩になると知ってもらう体感が必要 = 他人ごとではなく、いかに自分ごととして捉えてもらえるか

以前実施した企画展は奥州市内の図書館全体で行ったものであり、衣川セミナーハウス独自の取り組みについては今のところ予定されていない今後どのようにSDGsを施設イベントに組み込むことができるかということを考える必要がある

外国人については、技能実習として来日している方も多いため、有事の際の事を考えると地域との交流が不可欠と思うが、地域での理解が得られるには時間がかかるのではないかと感じる

SDGsに関する理解の差がある方々を対象とする場合に、焦点をどこにあてるかが難しい

SDGsはまだまだ浸透していませんSDGsそのものの学習会や具体的に何ができるかを提案していくことが重要だと思いました

こども食堂を継続実施する為の経費・食材調達・ボランティア等の人材確保が難しい こども食堂に提供される食材が毎回あるとは限らないまた、多くても処理が困る こども食堂の参加者が貧困者なのか確認できない為、目的を達成しているのか分からない

企画した講座に参加したことで、今後SDGsを意識、理解した生活に繋げることができるかどうかその時で終わらないようにするためにはどのように企画すると良いのか、など

講座またはイベント・事業等を行う上でどこに企画をお願いしたらよいか分からない又どのような企画をしたら良いのか教えてほしい

高齢化率が高い地域の為、ローマ字表記やカタカナ表記では、地区民に伝わりづらい 地区民としては、SDGsの取り組みと案内しても理解しづらいと思うが、昔ながらの『もったいない』や『結の繋がり』などはSDGsの取組みに繋がることを知ってもらう

参加者が少ない状況であり、役員だけでなく一般住民にも興味を持ってもらえるようなアプローチが必要だと思う

事業がら、SDGsの取り組みと真逆のことをしなければならない時があるそういった中で、どのように取り組んでいけばいいのかが課題となっている

自分自身の意識を高め、勉強する時間を持つことが必要と感じた

年間を通して楽しいと思われる事業を企画・開催している。各回、募集する際の参加(応募)者数がとても気になるが、参加された方には次回の開催予定の要望や、発展して団体を結成したものもある。これまで当然に男性目線で行ってきたが、今後、女性目線ならどうだろう

・参加者の固定化 ・新規事業等の取り組み

SDGsという言葉は分かっているが、内容は良く知らない人が沢山いる概要版があれば館内でチラシ配付等行い周知したうえで、講座の開催する前にSDGsにつながっている事業なのだとすることを話説明していかないと理解されないのではないかと

SDGsという言葉自体には知名度があるが、職員含め利用者の理解が追いついていないのが現状SDGsに関する知識と意識を高める機会を作っていくことが重要と思われる

SDGsについて事業で取り組みたいが、職員の知識が乏しい

SDGsに関連した講話ができる講師の選定

SDGsの普及啓発に対し、職員の知識が不足していると考えている

SDGsを理解し普及啓発するようなイベントや事業の展開について、知識・スキルが不足している

ここに住んでいて、あまり関係しないゴールが有ります市民センターといたしましては、「11、住みつけられるまちづくりを」に絞りたいと思います他は、学校教育でしっかり行ってもらいたいと思います

これまで、事業実施の際に「SDGsに関連した取組」である事を周知していなかったため、周

知して受講者の関心や意識を高めていく必要がある
企画立案段階から「SDGsを意識すること」は大事だと思うが、「SDGsありき」ではないので、過度に摺り寄せる必要はないと感じる
現在行っている事業は、SDGsに関連する事業が多くあり、今後はSDGsに関連付けて企画するよう心掛ける
講座開講の講師を探すのが困難
高齢化、人口減少により受講者・参加者の確保が難しい
事業を計画する中でSDGsだけがすべてではないので、結果的にSDGsにつながる事ができれば良いと思う
事業計画を立てる段階に「SDGs」を意識していない
少子高齢化による参加人員の減少
世界的なゴールへ向けての取組は難しいと感じる できることから始めていきたい
昔に比べ、色々なところで楽しいイベントが開催されており、選択肢も増えている。ただそのほとんどが単発的で集客を求める事が一番の目的となっている。本来は主旨や目的が重要であり集客人数ではないと思う
大きな問題であるが、一人ひとりの取り組みは小さなことなので、問題意識が薄い
地域の高齢化が進み、当施設を利用する住民が減少傾向にある 施設が老朽化して集会施設としての魅力が半減してきている
地域住民すべての人へ平等に周知するのが難しい「全戸配布の広報」は読む人と読まない人がいる「だいとうメール（一関市大東町の情報が、会員登録した人にもみ配信されるもの）」は、スマホを使用でき、かつ登録している人にしか届かない「チラシ・ポスターでの周知」は外出できる方のみに限られてしまう
予想を超える人口減少や高齢化の進展により弊害も出ているが、住んでいる人たちが生きがいを持って助け合い、環境維持や地域づくりを進めていければいいと思う
コロナ禍で事業が実施できない状態が続いている。事業そのものも見直さなければならない
現在、町のまちづくり活動を行っているが、町の未来に向かって地域がまとまっていけるか、私達も真剣に取り組まなければならないと考えている
15.のゴールに関し、会議や事業の案内においてペーパーレス化を実践したいが、メール使用に不慣れな人がいたり見落とし等の問題が考えられる
地域生活に密着した取り組み内容で、達成可能な内容でなければ、活動への賛同が得られない
・事業に係る費用確保が不確実 ・講師派遣等を依頼するにあたり情報不足 ・実際現状の事業で手一杯日程調整や人手確保において困難が予想される年間事業の整理・見直しが必要
講師の確保と講座内容の精査ができていない
・最適な講師の選任 ・講座等の募集に応募があるかどうか
・募集しても参加者が集まらない
SDGsの理念の理解がまだまだ進んでいないそのため、なにがゴールにつながるのかということ、うまく理解してもらえようように説明することが難しい場面がある
SDGsの理念の理解が進んでいないように思う今後、当事業がSDGsの何に当てはまるのかを学習の機会に教える必要がある。また、気候変動防止へ向けての具体的な取り組みについて意識が薄いように思う
参加者が固定化している傾向にあるため、より多くの方に参加していただけるような取り

組みが必要
生涯学習の充実は、市総合計画によりSDGsに関連する施策となっているが、それを各施設の事業等にどのような形で反映させていくか
・SDGsに資する事業の企画立案に必要な情報収集      ・関心を集める効果的な広報周知
農業を主産業とし自然循環型、多世代同居だった当地域では、17のゴールの多くは、当たり前に行われて来たことであるが、世帯形態が個の世帯に変わり、助け合い支えあいが希薄になっていると感じている多世代にSDGsの概要等を周知し、生涯学習・社会教育を通して、「住み続けられるまちづくりを」に取り組みたいと考えている
参加する人が大体同じ人になってしまう
事業によっては、地域住民の参加にバラつきがあるため、地域住民の活動意欲を向上させるための、講座の見直し工夫が今後の課題
当中央公民館では、主な事業として全町にかかわる町芸術祭（5部門）の企画実施、及びPOPコンクール・読書と音楽の作文コンクールの募集・審査・表彰を担当しており、各種講座等は各地区館において実施していることから、年1回の研修会のみでの取組みとなるため、開催頻度と研修内容の定着に限界があると感じている
SDGsについて、直接結果が見えるものではないので、事業に対する効果を計ることは難しいが、継続して17のゴールに関する内容を要項やチラシ等に表記して講座を行っていくことが大切だと思う
SDGsという言葉自体は浸透しつつあるが、明確な解決策がイメージできていない
・働く世代の参加も促せる内容だと思い企画しても、参加者は高齢者ばかりとなる      ・職員一人のため、できる事業の数や日時（基本は平日となる）に制約がある      ・講演会等は自治会からの応援（参加者のノルマ）をお願いしないと人がなかなか集まらない
SDGs自体の理解に温度差があり、対象者広く理解してもらうことの難しさを感じている
高齢者対象の事業が多いので、高齢者にわかりやすく伝える事に課題を感じます
職員・ボランティアの人員不足や、複数の業務を行いながらの事業に負担がかかっている
ある程度理解を深め、定着させていくためには連続講義の形をとる必要があると思われるが、その場合の参加者集めや対象の絞り方が難しくなると予想している
SDGsの17のゴールについて、自分事として関心を持って取り組んでもらうための要約やモデリングが必要と思われる
事業の具体的内容の立案
各テーマに詳しい人材を探すのが難しい
参加人数の確保